

Ⅲ 地区館事業

令和3年度 指定管理事業実績

青葉区中央市民センター

〔沿革〕

青葉区中央市民センターは、昭和 40 年 4 月、市立東二番丁小学校に「仙台市市民教養センター」として開設され、昭和 61 年、小学校の全面改築に伴い廃止され、昭和 63 年 1 月に「仙台市中央公民館一番町分館」として開館した。平成 13 年 4 月、隣接の「アスピア一番町（勤労青少年ホーム）」を統合し、現在の「青葉区中央市民センター」としてスタートした。

市の中心部で交通の便が良いため、若い世代から高齢者まで昼夜を問わず利用率が高い。また、仙台市の日本語講座が継続的に行われていることから来館する外国人も多く、国際交流の場としても一翼を担っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●子ども参画型社会創造支援事業 東二小やる気キッズ		
参加者	東二番丁小学校児童及び保護者・地域の方	延参加者	115 人
開催日	全 8 回 令和 3 年 7 月 15 日(木)～令和 3 年 11 月 18 日(木)		
協力者・協力団体	青葉区まちづくり推進課、東二番丁小学校、東二番丁マイスクール児童館		
ねらい	当市民センター隣接の東二番丁小学校はオフィスビルや商業施設に囲まれた中に立地しており、児童が地域の人々に関わる機会が乏しい。そこで市民センターが児童自身の興味関心を形にできる機会や、行事に参加し人々と交流する場を作ること、自分の住む地域への理解を深め、児童の健やかな成長につなげる。		
概要・成果	東二番丁小学校の児童が企画員となり、企画員自身が興味のあることで、かつ地域の方や子どもたちに楽しんでもらえる行事として「おばけやしき&スポーツゲーム」を企画開催した。令和 2 年度に企画員として参加した児童が中心となり話し合いを進めたことで、経験を活かした準備や行事運営を行うことができた。 また、本番当日はジュニアリーダーのサポートもあり、小中高生がひとつになって行事に取り組むことができた。児童が協力して企画運営を行い来場者に楽しんでもらえたことで、やりがいや達成感を感じ、主体的な行動力や探求心を育むことへつながった。ふりかえりの時間では、互いに気づきや学びを共有するだけでなく、令和 4 年度へ向けての改善点やアイデアも寄せられ、次への活動につなげる機会となった。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育てサロン パンダくらぶ	1 回目は 1 歳未満親子を対象にした体操、2 回目は 1 歳から 3 歳までの親子を対象にした運動を実施。発達発育相談や親子同士の情報交換の機会となった。	12 月 7 日 12 月 21 日	2	12
インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン開催として実施した。子ども会の次期リーダーとなる小学 5 年生と世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーションについて研修を行った。	2 月 19 日	1	—
小学生の防災減災講座	東二番丁小 4 年生が、いざという時自分の身を守ることができるように、通学路の危険箇所や非常用持ち出し袋について学び、災害に対する意識を高めた。	9 月 16 日	1	21

《青葉区》

一番町三社探検	東二番丁小3年生が地域の神社を見学、学習し、そこから派生した作品展示や体験学習を行った。また、立町小3年生が昔と今の立町地域を写真で見比べる地域学習を行った。	6月20日 ～2月25日	5	154
まちなか散歩～ようこそ仙台へ～	1回目は食をテーマに市場や横丁を巡るまち歩き、2回目に商店街にある神社の由来や公園の名称から仙台の歴史を学習するまち歩きを実施した。	11月11日 11月25日	2	27
防災減災講座	マンションの防災活動に取り組むマンション管理会社から講師を招き、マンション防災について学習した。救命救急講習では青葉消防署指導のもと、適切な応急手当について学んだ。	10月3日 10月10日 11月12日	3	26
体験しよう！仙台七夕	地域住民が仙台七夕祭りの歴史と伝統の飾りについて学び、ミニ七夕作りを通して、地域行事への興味関心を高め、制作を通じ参加者同士の交流を図った。	6月23日 6月30日	2	15
あおばカレッジ	高齢者を対象にフレイル予防、歴史講話、音楽鑑賞などの学習の機会を提供。班活動や班長会議などで受講生同士の交流を、要約筆記付きとすることで学習のバリアフリー化を図った。	6月18日 ～1月21日	10	269
社会学級連携講座	社会学級役員と企画会議を行い、社会学級生を対象に「食品ロスを減らす冷蔵庫収納術」を学ぶ講座を実施した。	9月28日 11月25日 12月16日	3	18
みんなのはっぴょうかい あわせよう みんなのチカラ	1回目は五橋中学校吹奏楽部コンサートを近隣の公園で実施。2回目はジュニアリーダーと拠点館が主催したイベントの会場で上杉山通小学校合唱部の演奏披露を行った。	5月29日 11月3日	2	429
あおちゅう放送委員会	中高生の若い感性を活用して地域の動画を作成し、地域の話作りや賑わいを創出するきっかけを作った。動画作りを通して参加者が地域や市民センターに興味を持つことになった。	11月13日 ～1月15日	6	16
一番町ミュージックタイム	ジャズやゲーム音楽の吹奏楽団、ママさんブラスなどのコンサートを、誰でも気軽に参加できる形で実施。密を避けるため地域のビルの公開空地进行して屋外開催も行った。	6月20日 7月24日 11月20日 12月19日	4	228
【中止】 市民センターまつり	主催を実行委員会から市民センター主催に切り替えて、「みんなの作品展」として準備を進めたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、9月に中止を決めた。	【中止】 9月25日 9月26日 9月28日	—	—
青葉区中央市民センター地域懇話会	1回目は地域の小中学校、団体、公所の代表者参加による意見交換会を実施。2回目はこれまで連携が無かった立町小学校との連携を構築するため、支援地域本部との会議を実施した。	6月24日 11月26日	2	15

【令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

学校と地域団体等とのコーディネート

地域イベント「CO2削減省エネ in サンモール」を主催するサンモール一番町商店街振興組合に、五橋中学校合唱部を紹介し、オープニングイベントへの出演をコーディネートした。コロナ禍において発表の機会が少なくなった合唱部にとって、学区内で日頃の活動の成果を披露する貴重な機会となった。保護者をはじめ合唱部の関係者や通行人も足を止め、17時30分に点灯したペットボトルのクリスマスツリーの明かりのもとに響くハーモニーを楽しんでいただけた。

柏木市民センター

〔沿革〕

柏木市民センターは、昭和 61 年 7 月に旧仙台高等学校(後に仙台女子高等学校)の校舎を改修し、中央公民館柏木分館として開館した。平成元年の政令指定都市移行とともに、「柏木公民館・市民センター」として独立、そして平成 2 年には名称を「柏木市民センター」とした。その後、施設の老朽化のため平成 7 年 4 月から一時休館して改修工事を行い、平成 10 年 4 月にコミュニティ防災センターを併設した複合施設として新たに開館した。施設の特徴としては、収納式のステージをもつホール、会議室、和室等に加え、広いロビーがあり、地域住民の学習・スポーツ・交流の場として活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●「へくり沢散歩道」と水路を活用した地域づくり事業 － 八幡町・柏木・通町、水の道で地域をつなぐ －		
参加者	成人・小学生	延参加者	98 人
開催日	全 5 回 令和 3 年 10 月 28 日(木)、11 月 11 日(木)、11 月 18 日(木)、11 月 25 日(木)、12 月 17 日(金)		
協力者・協力団体	青葉区家庭健康課、北山市民センター、通町小学校		
ねらい	かつて、柏木八幡地区を流れていた「へくり沢」は、高低差がある特有な地形を有し、伊達政宗が青葉城を築城した時代に、交通の難所として名高い場所であった。しかし、震災復興や都市化を経て、現在は、こうした地域の特殊性は見えにくいものとなっている。当市民センターでは、地域の地理的・歴史的な特徴を次世代や地域の方々に伝えるため、地形模型やジオラマ、ウォーキングマップ、案内板などを製作し、地域住民とともに学習・調査等を行ってきた。令和 3 年度は、これらの成果物を活用し、まち歩きや小学校への出前授業を行い、幅広い世代に向けて地域の魅力を発信する。		
概要・成果	青葉区家庭健康課との共催で、ウォーキング講座を実施し、四ツ谷用水沿いのかつての水路の史跡や寺社仏閣を巡り、身体を動かしながら地域の歴史について楽しく学ぶことができた。また、北山市民センターとの共催講座(全 3 回)を実施し、北山五山やへくり沢中流から下流を巡るまち歩きや仙台的まちづくり史における北山・柏木地域の役割についての講話を通して、地域の歴史について体験的に学ぶことができた。このほか、通町小学校 4 年生を対象に、過去の事業で作成した立体地形模型を活用しながら、四ツ谷用水とその歴史を守り伝える活動をされている方による出前授業を行い、子どもたちが地域の歴史や地形について学ぶ場をつくることができた。		

〔令和 3 年度(地区館) 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●柏木ワンダーランド	八幡児童館との共催事業でまち歩きを実施し、八幡地域の寺院や地形について学んだ。1 月に予定していた仙台張り子の描彩体験は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。	11 月 6 日	1	12
インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催として実施した。子ども会の次期リーダーとなる小学 5 年生と世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーションについて研修を行った。	2 月 19 日	1	—

【中止】親子でチャレンジ in 柏木～みんなでニュースポーツ～	八幡小学校と通町小学校のおやじの会や学校支援地域本部と企画したニュースポーツ体験を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止とした。	【中止】 2月5日	—	—
●伝統ものづくり塾共催事業～堤焼の歴史に触れる～	令和2年度の講座で仕込んだ仙台みそのお渡し会を開催し、みその調理方法、保存などについての講話を実施。連続講座として仙台伝統の焼き物、堤焼の歴史を学び、陶芸体験を行った。	10月1日 11月13日 11月20日 11月27日	4	34
柏梁学院	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、開講を5月から10月に変更した。地域に居住する高齢者の生涯学習と交流の場として、歴史・介護予防・栄養など、様々なジャンルのテーマを設け学習した。運営委員会やクラブ活動などの自主活動を通して、仲間づくりの場となるような機会を提供した。	10月6日～ 3月2日	11	279
地域防災講座	6月に予定していた小学校との連携講座は新型コロナウイルス感染症拡大により中止したが、地域の方を対象とした AED・普通救命講習、気象予報士の方を講師に地域の災害課題を学ぶ講座を実施した。	8月27日 2月6日	2	30
【中止】第18回柏木ふれあいまつり	役員会で開催を検討したが感染状況が好転する見込みが薄く、参加者の安全を考慮し、中止を決定した。	【中止】 10月	—	—
●【中止】てらまちフェスタ2021ーあそびでつながるまちづくりー	前回役員と協議のうえ、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、中止とした。	【中止】 10月	—	—
柏木地域懇話会	市民センター管轄内の小学校、児童館、学校地域支援本部などの団体の方を対象に市民センター事業についてのご意見をいただくとともに、子どもたちを取り巻く状況について意見交換を行った。	6月1日 2月9日	2	11
柏木展示発表会	10月は市民センター利用サークル、地域団体の写真や、書道、児童作品の展示、映像での活動紹介、3月は地域の今昔の写真展示会を開催し、地域再発見をテーマに講話を行った。	10月1日～ 3月31日	3	363
八幡・通町の地域団体との企画会	八幡小と通町小のおやじの会や学校支援地域本部とともに、子どもと大人が楽しめるものを目指して企画会を開催した。ニュースポーツ体験を企画し、実施に向けて話し合った。	7月16日 10月8日 11月5日 12月17日	4	16

【令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

地域活動団体の作品発表のコーディネート

2年連続で柏木市民センターまつりが中止を余儀なくされる中、市民センター利用サークルや地域団体の活動発表の場を設けるため柏木展示発表会を開催した。サークルのほかにも児童館、小学校、中学校、高校、社会学級にも声をかけ、展示だけではなく映像でも活動紹介を行った。コロナ禍で団体同士の交流が難しい状況の中、展示会開催は展示作業を通してそれぞれの活動を知る場となり、今後の連携へとつながる機会となった。また、展示会には地域での展示が中止になった写真同好会も参加し、終了後もロビーで作品展を開催した。会の皆さんの写真を見に来館される方も多く、地域の交流スペースとして市民センターに親しんでもらうことができた。

北山市民センター

〔沿革〕

北山市民センターは、昭和49年7月に北山福祉会館として設置され(所管は仙台市社会福祉協議会)、平成元年の政令指定都市移行に伴い「北山市民センター・公民館」となり、平成2年には「北山市民センター」と名称を改めた。地域の生涯学習の拠点としての機能を果たしてきたが、施設の老朽化に伴う改築後、平成23年1月に再開した。

地域内には、青葉神社、大崎八幡神社、北山五山などの神社仏閣があり、歴史的・文化的資源や緑に恵まれている。また、東北福祉大学や東北大学国際交流会館の立地により、若者や外国人の居住者が多い。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	通町小学校連携講座「わたしのまちの歴史探検」		
参加者	通町小学校5年生	延参加者	55人
開催日	全1回 令和3年11月17日(水)		
協力者・協力団体	通町小学校、北山ガイドボランティア		
ねらい	北山地域には多くの歴史遺産がある寺院が点在しているが、地域の小学生がその歴史的背景を知る機会は少ない。そこで小学校と連携して総合的な学習の時間に地域の歴史を学習し、子どもたちが地域の歴史へ関心を持てるようにすることを目的とする。		
概要・成果	従来は1クラス20～30名に講師の北山ガイドボランティアが2～3名付いて見学していたが、令和2年度からは、新型コロナウイルス感染症対策のため1グループ7～8名に講師1名が付く形を取り、令和3年度は1グループに講師と講師補助各1名と全体総括に2名の講師が付く配置にした。少人数で講師も複数になり児童が質問しやすく、地域の歴史遺産に対する学びをさらに深める機会となった。秋には学習成果を発表する場が設けられ、学習の振り返りの機会となった。		

〔令和3年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ルンルン子育てサロン 2021	子どもと一緒に楽しめるよう大広間を開放し、子育て中の保護者が陥りやすい育児の負担感や閉塞感などを払拭し、令和3年度は、気軽に来館しやすいような開かれた施設運営に努め、地域で子育て支援を行った。	6月15日～ 2月15日	9	79
インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催として実施した。子ども会の次期リーダーとなる小学5年生と世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーションについて研修を行った。	2月19日	1	—
健康講座～心も体も健やかに	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定した5回から2回へと開催回数を減らした。令和3年度は、ニュースポーツや心のケアを目的としたパーソナルカラーの学び等の受講生が気軽に行えるテーマに絞り、学びの場を提供した。	10月6日 10月20日	2	12

【中止】 北山市民医学講座	高齢化が進むこの地域において、住民が身近なところで病気の予防や治療について学習し、健康な生活を送るための医学講座を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。	【中止】 5月26日～ 3月23日	—	—
北山シルバースクール 2021	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催時期の見直しや開催回数を減らし実施した。令和3年度は、健康、生活、手話劇の観劇など、幅広い分野のテーマの講座に取り入れた。	6月26日 7月16日 11月26日 12月17日	4	114
●国見地区連合町内会防災講座	三条中学校指定避難所運営委員会の指揮下で、地域のSBL・民児協・生活支援施設等の協力で補助避難所訓練を行い、それぞれの役割を学習・共有した。避難所受付訓練の実践で、コロナ禍での「補助避難所運営マニュアル」の修正を行うことができた。	5月12日～ 10月30日	6	93
北山わいわいまつり	子どもたちのために新たに市民企画に取り組んだが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、「北山わいわいまつり」の開催は見送った。「北山わいわいまつり」の中で実施予定としていた中から、地域の子どもたちの作品だけを「北山市民センターロビー展」にて展示を行った。	6月23日～ 10月11日	7	300
北山ロビー展 2021	地域町内会や中学生・活動諸団体及び市民センター利用サークルの活動成果発表や、交流機会の創出を目的に開催。令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用サークルや近隣の保育・教育施設の作品の展示と中学校のクラブ活動等の練習や発表会の動画上映を行った。	10月13日 ～10月17日	5	221
地域懇話会	市民センター事業や施設等理解を図る目的で住民・利用団体・町内会との懇話会（情報交換会）を実施。地域保育・教育諸団体等との意見交換等は、感染症拡大防止のため中止とした。	6月16日	1	13
北山地区歴史ガイドボランティア次世代養成講座	令和3年度はガイドボランティアの教本改訂版発行に向け、現地調査や編集作業に取り組んだ。地域資源を再認識するとともに、今後のガイド活動に向けて学びを深めた。北山五山歴史講座 増補改訂版『仙台藩の埋もれた遺臣たち』を刊行した。	4月14日 ～3月9日	10	128

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

東北福祉大学「子育て支援プロジェクト ママサプリ」の活動支援

令和元年度より、幼児教育を学ぶ学生たちのボランティア団体「ママサプリ」の自主企画開催の支援に関わっている。令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために自主企画開催は断念したが、東北福祉大学のゼミの学生数名が講座「ルンルン子育てサロン」を見学した。その際に、参加者、講師の仙台市の保健師や託児ボランティアの活動の様子などを通じてのコミュニケーションを図る場を提供したことで、今後の親子講座の企画を考える機会とすることができた。

福沢市民センター

〔沿革〕

福沢市民センターは、昭和 59 年 6 月 9 日、コミュニティ防災センターを併設して開館。平成 20 年 6 月より大規模改修工事を行い平成 21 年 1 月 14 日に再開した。

当市民センターの地域内は、東照宮の門前町として栄えた宮町を含め、歴史を感じる雰囲気をもとに、下町情緒に溢れている。現在では仙台市中心部から近いこともあり、マンションが建ち並ぶ新旧住民が混在した地域である。ここ数年地域の総人口は増加に転じているが高齢化が著しく進む地域でもあり、災害等に備えた地域コミュニティの形成がより重要となりつつある。

当センターでは、地域コミュニティ形成のために様々な方法で取り組みを工夫し実施している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	～昔の写真で、まちを再発見する～ ここダネ！		
参加者	小学生及び中学生親子、地域住民	延参加者	59 人
開催日	全4回 令和 4 年 1 月 16 日(日)、2 月 6 日(日)、2 月 17 日(木)、2 月 19 日(土)		
協力者・協力団体	風の時編集部		
ねらい	市民センター周辺及び宮町の古い街並みや人々の暮らしの様子などと今を比較し、その変貌ぶりを探る。また、実際にまちを歩き、痕跡をたどる。		
概要・成果	3 か月に渡るロビー展示にたくさんの方が見学にいらした。地域の 50 年前を中心とする写真や地図の展示内容に、見学者同士が昔を懐かしむ会話で盛り上がっていた。中には親子や 3 世代で見に来る方もおり、初めて語られる父母や祖父母の思い出話などで家族間の交流がみられた。展示をもとに実施したまち歩きでは、以前から住んでいる住民と転勤で引っ越してきた若い親子が楽しげに話をしながら歩く姿が見られた。参加した小学生は、普段通学に歩いている道や古い店、家などにも歴史があることに気づき、地元への関心を深めていた。また、地元に興味を持った参加者からは、さらに 70 年ほど前にこの地域を通っていた仙台鉄道をもっと深く学びたいという要望が出された。 今回の企画に際し、地域住民から古い写真や資料などたくさんの情報が寄せられ、それをもとに利用者同士の情報交換や地域の方との交流をこれまで以上に図ることができた。関心が高かった地元の情報を今後の講座企画に取り入れ、地域内のコミュニケーションをより活発にしていきたい。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ママのためのリフレッシュタイム♪	読み聞かせやベビーマッサージを通して、気分をリフレッシュしながら子育てを楽しみ、子育てのヒントや支援の一助となるよう実施した。	7 月 14 日 10 月 23 日 11 月 2 日 1 月 12 日	4	48
エンジョイ！こどもひろば	児童の長期休みを中心に、体育館遊びや講話による学び活動などを通して、近隣に住む児童に対して交流と学びの場を提供できるよう実施した。	8 月 4 日 8 月 5 日 10 月 12 日 12 月 18 日	4	250
仙台市子ども会インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催として実施した。子ども会の次期リーダーとなる小学 5 年生と世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーションについて研修を行った。	2 月 19 日	1	—

《青葉区》

先人の知恵に学ぶ	成人を対象に、伝統的な行事である仙台七夕、福沢町周辺の歴史散歩、日本の古典から日記や随筆、浮世絵についての考察を学ぶ講座を実施した。	6月5日～ 2月5日	5	53
福沢シニア大学	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月の開講を延期し、会場を体育館に変更して実施した。市民センターオリジナルソング「ふるさと福沢町」に合わせた体操を毎回行い、参加者に喜ばれた。	5月20日～ 2月17日	9	405
災害にそなえよう！ その時どうする？	地域防災訓練はコロナ禍のため中止になったが、東日本大震災に実際津波を目にし、避難誘導をした当事者の講話、避難所運営の講話、震災遺構見学を行った。その他にいざという時役立てるための救命救急講座を行った。	10月16日 11月6日 12月3日 2月19日	4	54
音楽交流会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため第1回目は中止としたが、「African ダンスアンドドラム」「ウクレレ演奏」「クワイヤチャイム演奏」を実施した。	10月2日 10月23日 11月27日	3	278
第32回福沢市民センターまつり 2021	11月10日～14日、28日の6日間、各団体の発表、展示、サークル体験会を行った。コロナ禍の中、発表する機会がなく学習意欲が低下していた各団体がいきいきと学習の成果をPRした。	11月10日～ 11月28日	1	450
体いきいき健康づくり講座	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第1回目は中止としたが、運動の習慣化に繋がるよう、「正しいウォーキングフォーム」、「音読による脳の活性化」や「小学校低学年親子の運動講座」を実施した。	10月16日 10月26日 12月4日	3	37
福沢懇話会	福沢市民センター管区の3連合町内会長及び地域関連団体の長、サークル代表から本市民センターに対するご意見・要望をいただいた。第2回は館内4児童館との意見交換会だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。	6月27日	1	12
市民企画会議「音楽交流会を考えよう」	コロナ禍で外出を控え、人と接することが余りないとの声を受け、参加人数を減らし、感染予防策を取った上で、地域住民に少しでも笑顔になってもらえるよう音楽交流会を企画・運営した。	5月21日 ～11月27日	6	24

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「福沢ちえ袋の会」の活動支援

福沢ちえ袋の会は、平成19年度から福沢市民センターで節句のお飾り作りやその作り方の指導をしている。また、昔遊び（お手玉・割りばし鉄砲・紙とんぼ）の紹介や道具の制作、仕組みの学習等の体験活動を地域の保育所、児童館、小学校等で行っている。令和3年度は市民センターまつりで感染予防対策をした上で行った昔遊びのコーナーに地元の子どもたちが多数参加し盛況であった。さらに、まつり以後も娯楽室や図書室を利用する児童、生徒が大幅にふえるなど、若年層にセンター利用を促すよい機会となった。

市民センターでは、地域の学校や施設に広報する等して、ちえ袋の会の活動を支援している。また、毎年協力を依頼している七夕飾りは、ロビーへの展示で来館者の目を喜ばせており、福沢ちえ袋の会の活躍の場のひとつとなっている。近年、会員の高齢化と減少が進んでいるものの、無理のないように配慮して活動を後押ししている。

旭ヶ丘市民センター

〔沿革〕

旭ヶ丘市民センターは、地下鉄南北線建設事業の一環として昭和 60 年 6 月に開館した。地下鉄・バスの利便性が非常に良い立地にあり、また近隣は日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）、スリーエム仙台市科学館、仙台文学館等の学術文化ゾーンとなっている。さらに西側には市民から親しまれている台原森林公園が広がり自然環境にも恵まれている。当市民センターは、旭ヶ丘ターミナルビルにある立地を生かし、多様なニーズに対応する生涯学習の場を提供するとともに、地域資源・人材を活用した事業展開を推進しながら、地域コミュニティ活性化支援の役割も担っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	さあ 折り紙の世界を楽しみましょう		
参加者	高齢者	延参加者	95 人
開催日	全 6 回 令和 3 年 7 月 16 日(金)～令和 3 年 11 月 25 日(木)		
協力者・協力団体	なし		
ねらい	誰でも参加しやすく、楽しみながら学んで交流する場を作り、市民センターが地域住民の居場所と生きがいの場となることを目指す。		
概要・成果	旭ヶ丘社会福祉協議会等から、コロナ禍の影響で高齢者がこもりがちになっているとの情報があつた。そこで、高齢者が参加しやすく、楽しみながら交流できる手段として折り紙を取り上げ、基礎から学ぶ講座を開催した。新型コロナウイルスの感染状況により実施日を延期せざるを得ないこともあつたが、全 6 回実施できた。終了後は受講生有志でサークルを立ち上げ、講師を招かずインターネット等で学びながら、お互いに教え合い技術を高めている。 また町内会の折り紙サークルで活動したり、旭丘小学校図書室等土曜開放にボランティアとして参加し、子どもたちに折り紙を教えるなど、学びの成果が地域に還元されている。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子で楽しくリフレッシュ！	手あそび、うたあそび、パネルシアターなど、親子共に楽しめるパフォーマンスショーを開催した。乳幼児対象ということで、会場を当初予定していた市民センターではなく、児童館とした。	11 月 19 日	1	21
あさひがおかキッズ	小学生を対象に、施設見学（ユアテックスタジアム仙台）、防災について学習（近年多発する災害についてや、身近にある材料を用いたランタン作製）、書きぞめを行った。	8 月 7 日 8 月 18 日 12 月 18 日	3	34
仙台市子ども会インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催として実施した。子ども会の次期リーダーとなる小学 5 年生と世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーションについて研修を行った。	2 月 19 日	1	—

旭ヶ丘老壮大学	コロナ禍のため同日に 2 コースで実施した。5、9、3 月は中止となり、全 6 回の開催となった。食と健康、歴史のある看板文字に関する講話、アニメーション制作を行った。	7 月 2 日 11 月 5 日 1 月 7 日	6	150
ホタル調査隊	コロナ禍を考慮し、地域住民対象に同じ内容を 2 回ずつ実施（4 回目中止）。ホタルの生態についての学習とホタルのえさ（カワニナ）が食べるキャベツを設置する体験、光るうちわ作りとホタル観察会(2 回)。	6 月 12 日 6 月 25 日 6 月 29 日	3	78
災害につよいまちづくり	旭ヶ丘地域防災会議等において、地域防災管理マニュアルに避難所の感染対策を加える改訂を行った。また、女性役員向けに避難所運営を学ぶ防災講座を実施した。	5 月 14 日～ 12 月 3 日	10	64
旭ヶ丘の魅力	4・5・9・2 月はコロナ禍のため中止。そのため遅れているが、旭ヶ丘地域クイズは市民企画員が推敲を重ね完成間近になった。また勉強会として科学館等の見学、DVD 鑑賞の公開講座も行った。	6 月 16 日～ 3 月 16 日	7	37
あさひがおかロビー展示会	実行委員会形式のまつりは中止になった。代わりに、コロナ禍での町内会や地域団体の活動の紹介、主催講座の作品、町内会集会所でのサロンの様子などを展示した。	10 月 13 日～ 10 月 22 日	1	557
旭ヶ丘地域懇話会	地域の各町内会や福祉団体、学校、近隣施設の関係者とコロナ禍での活動状況等の情報交換を行い、地域の課題やニーズを共有した。	7 月 29 日 11 月 18 日	2	30

〔令和 3 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

地域団体活動への支援

旭ヶ丘市民センターまつりの代替として、地域団体や町内会等がコロナ禍でも活動している様子を「あさひがおかロビー展示会」の名称で展示開催した。その資料をまとめて地域に配布することで他地域の情報を共有でき、「町内会や地域のサロン活動のヒントとして役立った」「他の町内会の活動の仕方がわかってとても良かった、という言葉をいただいた。

また、旭丘小学校で開催されている「図書室等土曜開放事業」で、子どもたちに折り紙を教えるボランティアを依頼され、主催事業「さあ 折り紙の世界を楽しみましょう」から立ち上がったサークルを紹介した。講座参加者が地域で活動できるようになると共に、地域住民の交流に役立っている。

三本松市民センター

〔沿革〕

三本松市民センターは、北仙台駅から近く、閑静な住宅街である堤町の中に位置し、西側には野鳥や山野草に恵まれた三本松緑地公園が隣接している。堤町は、現在は窯の火は消えてしまったものの、古くから「堤焼き」と「堤人形」の町として知られた歴史のある地域である。

当市民センターは、昭和 62 年 4 月 1 日、泉ヶ岳を眺望できる高台に建設された。駐車場(35 台)、舞台付で約 50 畳の和室と広い体育館(バスケットボールコート 1 面、バレーボールコート 2 面、卓球台 9 台)があり、地域住民の生涯学習の場として広く利用されている。平成 27 年度に大規模修繕を実施し、平成 28 年 4 月に再開した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	三本松寺子屋		
参加者	小学生	延参加者	105 人
開催日	全 7 回 令和 3 年 7 月 22(木)～令和 3 年 11 月 20 日(土)		
協力者・協力団体	文化庁伝統文化親子教室		
ねらい	コロナ禍で多くの制約を受けている小学生を対象に、学校では体験できない様々な学びの場を提供する		
概要・成果	お琴体験は、文化庁伝統文化親子教室との連携で実施し、講師の指導の下、子どもたちが琴の演奏にチャレンジをするとともに、礼儀作法も学んだ。また講師とお弟子さん達による圧巻の演奏を聴き、日本の伝統文化である和楽器の素晴らしさに触れることができた。ヒップホップ体験では、いろいろな学年の児童と一緒にヒップホップを踊って楽しんだ。講師から「挨拶と返事の大切さ」や「諦めない事」を合言葉にしながらダンスを教えてもらうことで、難しいヒップホップの踊りも諦めずにやり通すことができ、児童の成長へとつながった。リース作り体験では、子どもたちがリースに飾る植物や森のことについて講師から話を聞いた後、植物や木の実を思い思いにリースにのせ、世界でたった一つのオリジナルリースを作ること、楽しみながら自然の大切さを教わった。 参加した児童からは、学ぶ上での大切なこと(あいさつ、礼儀作法)や心構え(あきらめない事)等が心に残ったという感想もあり、体験を通してさまざまなことを学びつつ、他校の児童とも交流する貴重な機会とすることができた。		

〔令和 3 年度(地区館)事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育て支援講座 「ママ☆ピヨひろば」	子育て中の親と子を対象に、参加者同士の交流を深め、子育てを楽しむ環境づくりを支援するため、親子ヨガやベビーマッサージを開催した。	6 月 24 日 1 月 25 日	2	28
インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催として実施した。子ども会の次期リーダーとなる小学 5 年生と世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーションについて研修を行った。	2 月 19 日	1	—
三本松老壮大学	高齢者の生きがいづくりを目的として、歴史を生かしたまちづくり、口腔ケアについての健康の話、館外学習での美術鑑賞、フラ講師による講話・鑑賞・実技、落語会、映像鑑賞による回想法、地域の地名のルーツのお話を聞くなどした。	6 月 9 日 ～3 月 9 日	8	222

堤町彩発見	主に地域の方を対象として、自分の住む土地の歴史や文化について学びながら、彩りある生活をしていくことを目的に、堤町の伝統的な堤人形にふれる「堤人形絵付け体験」や「まちものがたり2」で取りまとめた冊子を活用したまち歩きを実施した。	10月7日 10月14日 11月18日 11月25日	4	35
三本松市民センターがやってくる！	地域の集会所などに出向くことで市民センターを知ってもらいながら生きがいづくりを図ること等を目的に、ガラスの箸置きづくり、グリーティングカードづくりを行った。また荒巻マイスクール児童館と共催で、児童向けにパネルシアター、マジック、コントなどのパフォーマンスを行った。	12月16日 1月6日 3月3日	3	63
三本松市民センターまつり	市民センターで活動しているサークルや個人が、学習を継続する励みとして、身近な施設である市民センターで日頃の学習成果を発表した。	10月10日 ～11月6日	1	180
防災講座	地域住民の防災意識を高め、災害への対応力向上を図るため、知識の習得や体験を通して学ぶ講座を開催した。第1回目：AED講習、第2回目：防災講座を実施した。	11月6日 2月17日	2	30
三本松地域懇話会	地域団体、市民センター利用者などと意見交換の場を設け、市民センター事業、運営について意見を収集し、より良い運営につなげ、得られた学習ニーズや地域課題を市民センター事業に反映させた。	7月17日 2月26日	2	15
「よむ」楽しみをみつけよう！	コロナ禍での新しい生活様式にあった自己研鑽のため、「川柳」の基本と楽しみ方（成人対象）や「読書」をより深く楽しむための図書館活用術（幼児・小学生から成人対象）を学んだ。6月～10月は市民から川柳作品を募集し、入選句発表を行った。	6月1日～ 2月16日	5	92
市民企画講座～三本松から音楽の風をPartⅡ～	市民企画会議を経て企画・立案したコンサート（常盤木学園高等学校音楽科の歌と楽器演奏、電子ピアノとドラムの演奏、尺八とエレクトーンの演奏）を実施し、コロナ禍で閉じこもりがちな人々が気軽に市民センターに集い、心身を癒し、交流を深める場を提供した。	10月30日 12月5日 3月5日	3	196
市民企画会議 ティータイムサロン in 三本松 ～三本松から音楽の風をPartⅡ～	市民センターの認知度を高め地域交流の場として活用してもらうため、様々な世代に向けたコンサート実施に向け、6人の市民企画員が意見を出し合い、企画立案や講座に向けて準備を行った。	6月22日 ～3月5日	9	43

【令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

図書ボランティア“ぽけっと”の活動支援

コロナ禍で、センターの図書室利用も伸び悩むなか、図書室の活性化や図書ボランティアサークル“ぽけっと”の活動支援の為、センターでは様々な働きかけを行った。令和3年度事業『よむ』楽しみをみつけよう！』では図書室の活用術を学ぶ講座を実施し、その結果新たな図書室利用者の拡大につながった。又、ロビーにリサイクル図書展示コーナーを常設し、目に留めてもらえるような工夫を行い、来館者への声かけを行ったり、コンパクトサイズの図書室の利用案内を配架したこともあって、これまで図書室を利用してこなかった新たな利用者層の掘り起こしにつながる事となった。

片平市民センター

〔沿革〕

片平市民センターは平成元年、児童館とコミュニティ防災センターを併設して、東北大学農学研究所跡地に開館した。市内中心部に位置し、交通が便利なことから町内会など地域の団体ばかりでなく、全市的な市民活動の場として盛んに利用されている。

また市民センターが立地する地区は、市街地にありながら広瀬川がつくりだす独特な地形と、仙台城や経ヶ峯の豊かな自然に囲まれたところである。さらには歴史的な資源に恵まれ、大学の研究機関などが隣接する。

こうした地域の資源を活かした生涯学習プログラムの提供や、市民の自主的な活動の支援、併設する児童館との共催事業の提供を通して、地域に貢献している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	Tanabata Night 手づくり灯籠ワークショップ		
参加者	地域住民	延参加者	180 人
開催日	全 5 回 令和 3 年 7 月 31 日（土）、令和 3 年 8 月 4 日（水）ワークショップ 2 回 令和 3 年 8 月 6 日～8 月 8 日（日）七夕ライトアップ 3 回		
協力者・協力団体	片平地区まちづくり会、片平子どもまちづくり隊、片平ひだまりの会		
ねらい	毎年瑞鳳殿の七夕ナイトにあわせて片平地区まちづくり会と、かたひら子どもまちづくり隊が開催している手作りの灯籠によるライトアップは、外国人観光客を含め、地域内外から好評を博してきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、七夕ナイトの開催中止や、灯籠の作り手の減少が課題となっている。また、片平地区は留学生などの外国人が多く居住する地域であるが、日本人の住民との交流はまだ少ない。 そこで、市民センターで灯籠づくりのワークショップを開催し、外国人を含めた地域住民がものづくりを通して日本文化に触れ、交流できる場をつくり、地域の交流促進の一助とする。		
概要・成果	灯籠づくりのワークショップを 2 回、ライトアップを 3 回実施。ワークショップでは、小学生とその保護者を中心に、紙パックを使った灯籠づくりを広めることができた。また、講師の指導の他に、ボランティアグループ「片平ひだまりの会」にサポーターを担ってもらったことで、細かい作業も丁寧に指導することができた。 新型コロナウイルス感染症拡大により、瑞鳳殿での七夕ナイトは開催中止となった為、期間中に合わせて市民センター敷地内の竹林でライトアップを開催した。ワークショップで制作した作品の展示や短冊記入コーナーの設置をした。また、企画の背景にある「瑞鳳殿七夕ナイト」についての地域住民に広報することが出来た。市民センターでのライトアップを開催したことにより、近くにお住まいの方が立ち寄りやすく、地域住民の交流の機会となった。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催として実施。子ども会の次期リーダーとなる小学 5 年生と世話人を対象に、子ども会の知識やレクリエーションについて研修を行った。	2 月 19 日	1	—
かたひらきつずらんど	6 月と 11 月に花壇づくりを実施。ジュニアリーダーと遊ぼうも併せて実施。虫の声を楽しむ会、宮城県工業高等学校とのものづくり体験、天体観測会は新型コロナウイルス感染拡大により中止。	6 月 12 日 11 月 13 日	2	14

広瀬川界限ぶらり散歩	街歩き講座のために、ガイドボランティアと河川課と役員会を開催し話し合いを重ねた。10月と11月に街歩きを実施。また、ボランティアのためのスキルアップ講座を公開講座として開催した。	5月27日～ 12月4日	6	54
片平シニア隣経大学	地域の高齢者を対象に、定期的な学習機会を持つことで、生き甲斐ある生活維持を図った。SDGs、ビタミン、昭和を振り返る講話の他に、軽運動、フレイル予防実技、楽器体験も行った。	6月12日～ 1月13日	6	299
かたひら元気クラブ	地域に住む高齢者の健康維持及び交流促進を目的に運動教室を実施。1回目はレクリエーション、2回目に軽体操とエアロビクス、3回目はチェアリッシュダンスを行った。	10月8日 10月22日 11月26日	3	33
地域の宝みんなの片平公園	地域住民を対象とした花植えと公園の植物を活用した押し花作品づくり、落ち葉掃きとネイチャークラフトを実施した。生ごみを使ったたい肥作りの学習は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、延期のうえ中止とした。	5月29日 11月13日 12月4日	3	25
楽しく学ぼう 地域防災	「災害時、家族のために何が必要か」をテーマに7月に開催。1月には子育て中の方を対象に「ママ目線の防災減災」を開催した。	7月17日 1月27日	2	13
かたひら waiwai 広場	児童館・地域で活動している各団体や小中学校と連携し、2日間にわたって展示発表や動画上映、出店、遊びのコーナー、屋外でのグラウンドゴルフを実施した。	10月30日 10月31日	2	225
片平市民センター懇話会	コロナ禍での活動状況と見通しについて情報を共有し、関係団体の諸活動の状況について情報交換を行い、地域課題の把握に努めた。片平地区まちづくり会第二期計画策定に向け、報告会を行った。	6月18日 12月19日	2	92
片平のひびき～臥竜梅コンサート	市民企画による器楽のコンサート。ピアノ、ギターの洋楽器の演奏、お箏や三味線の和楽器の演奏、花は咲くのコラボ演奏を、感染防止対策を取りながら開催した。	12月11日	1	27
盛り上げよう！地域のイベント	地域のイベントの核となって活躍できる住民の育成を図る目的で、地域住民を対象に盆踊り体験会を日中と夜間に開催。また折り紙でクリスマスカード作りを開催した。	7月29日 8月5日 11月29日	3	20
市民企画会「片平のひびき～臥竜梅コンサート」	企画員を公募で募集し、誰もが気軽に参加できる和楽器と洋楽器のコンサートを企画した。企画会を3回、リハーサル、反省会を実施した。	7月7日～ 12月11日	5	13

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「片平公園お花の会」の活動支援

平成28年度に実施した地域力創造支援事業「地域の宝みんなの片平公園」終了後、平成29年度に「片平公園お花の会」が結成され、令和元年度には自主的な活動を展開するまでに至っている。

市民センターの講座「地域の宝みんなの片平公園」では、春・秋の公園の花壇づくりや自然植物を使った押し花づくり・クリスマスリースづくりを行った。「片平公園お花の会」の会員を地域講師とし、活躍の場を提供することができた。

公園の草刈、ゴミ拾い、落ち葉掃きなども定期的に行い、公園の美化活動として地域住民に参加を促しながら活動している。その際のチラシづくりや地域への広報支援を行うことで、会と地域を繋げ、会の活動を地域住民へPRすることができた。

水の森市民センター

〔沿革〕

水の森市民センターは、市民の憩いの場として広く親しまれている自然豊かな水の森公園の南側入口に立地している。管内は昭和 30 年代半ばから宅地開発が進んだ水の森、東勝山、桜ヶ丘、川平等の閑静な住宅地を擁する地域である。

当市民センターは、児童館・温水プール・コミュニティ防災センターを併設する複合施設として平成 2 年 9 月に開館。令和 2 年 11 月から大規模改修を行い、令和 3 年 11 月に再開した。斬新な外観の施設は地域のランドマークとして親しまれ、一年を通して多くの利用者が訪れる。2 階の広いロビーは、地域住民の情報交換や憩いの場として高齢者から幼児まで常に賑わいをみせている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	集まれマザーズ		
参加者	未就学児と保護者	延参加者	11 人
開催日	全 2 回 令和 3 年 6 月 11 日(金)～7 月 9 日(金)		
協力者・協力団体	水の森児童館		
ねらい	自分より子ども優先の毎日を送っている母親が、一人で悩むことなく地域でのびのびと子育てできる環境づくりを目指し、子どもを預けて自分の時間を持つ機会を提供するため託児付き講座を実施する。また児童館と連携することで講座終了後も母親同士のつながりを維持していく。		
概要・成果	育児中の母親が、自分のための時間を楽しむことが良い息抜きとなり、心にゆとりをもって子育てできるよう、託児付き講座を平成 26 年度から継続して実施している。母親の居場所づくりや交流につながる内容で毎年口コミでの参加が多く、託児付きの講座として定着している。令和 3 年度は、大規模改修で休館していたため回数を減らしコミュニティセンターで実施した。また、新型コロナウイルス感染防止のため、少人数・短時間で行い、託児に関してもボランティアの配置を厚くし、おやつなし・飲み物は各自持参などの対応をとっての実施となった。参加者同士が密に交流することはできなかったが、コロナ禍でも子育て中の母親が自分に集中できる場を提供することができた意義は大きかった。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
【中止】 市民企画講座「ダンボールでひみつきちをつくろう」	市民企画会議でコロナ禍の防災講座を企画し、訓練用物資等の準備を進めながら、参加募集まで終了していたが、新型コロナウイルス感染急拡大の影響により急遽中止とした。	【中止】 2 月 5 日	—	—
インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催として実施した。子ども会の次期リーダーとなる小学 5 年生と世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーションについて研修を行った。	2 月 19 日	1	—

市民企画会議「子どもの育ちを支えよう！」	管轄地域で子どもの育成支援に関わる方を企画員とし、地域の大人と子どもの交流機会となる講座を企画した。	5月13日～ 11月24日	5	19
出前講座「水の森シニア学園」	荒巻地区、桜ヶ丘地区に出向いて出前講座として軽体操や健康講話などの内容で、高齢者対象の講座を行った。桜ヶ丘学区連合町内会と連携の出前講座とシニア学園閉講式は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。	6月30日～ 12月22日	5	81
みんなのつながりがチカラになる防災講座—学ぶ・体験する—	複数年事業の4年目となった令和3年度は、大雨時対応等の新しい情報に更新した「北仙台地域防災マップ」を、地域の防災団体とプロジェクトチームを作って作成し全戸配布した。	6月8日～ 2月20日	9	146
【中止】 水の森市民センター 開館オープニングイベント「水と森と夢コンサート」	新型コロナウイルスの感染が拡大している状況であったため、共催する水の森子育て支援クラブと水の森児童館、出演予定だった児童生徒が所属する北仙台小学校、北仙台中学校と協議した結果、開催の中止を決定した。	【中止】 1月22日	—	—
【中止】 水の森懇話会	新型コロナウイルスの感染が拡大している状況で、近隣の小中学校で陽性者が発生したこともあり、開催の中止を決定した。	【中止】 2月9日	—	—

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

地域と学校における活動支援

令和2年度の市民企画講座において、様々な職業に就いている方々の価値観や生き方に触れ、視野を広げることを目的に子どもから大人へのインタビューを行う形式の事業を実施した。令和3年度は、地域の小・中学校と学校支援地域本部の連携事業に対し、令和2年度の事業と同形式のものを地域主体で実施できるよう働きかけ学校との仲介を行った。

特に、北仙台中学校では、新型コロナウイルス感染拡大の影響で職場体験が中止となったことで、その代替として学校支援地域本部のメンバーが中心となり連携事業が実現できた。北仙台小学校においては、地域の方々も関わり、学校との調整や当日の運営を地域主体で行うなど、コロナ禍に対応した新たな取り組みで活動の幅を広げることができた。

貝ケ森市民センター

〔沿革〕

“貝”をモチーフにしたデザインが館内随所に配された貝ケ森市民センターは、貝ケ森地区に平成 5 年 4 月、児童館を併設して開館した。閑静な住宅街の中であって、その瀟洒な建物は、隣接する貝ケ森中央公園とともに地域のシンボルとして親しまれている。

風光明媚な貝ケ森地区は自然の風物に富み、さらに高等教育機関や文化施設などに恵まれており、国際交流の盛んな場所でもある。

当市民センターは、可動式の舞台を持つ多目的ホール、会議室、調理台付き小会議室、水屋付き和室等があり、地域住民の学習・スポーツの場として、また、憩いの場として活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	男の企画会議「歩いて学ぶ郷土の歴史」		
参加者	成人	延参加者	24 人
開催日	全 10 回 令和 3 年 5 月 13 日(木)～11 月 2 日(火)		
協力者・協力団体	-		
ねらい	貝ケ森・国見地区は高齢化が進み、住民の孤立を防ぐことが地域の課題となっている。特に、退職後に自宅に引きこもっている男性は、あまり出かけず地域との交流もほとんどないことから、生きがいを持って生活するためのきっかけが必要とされている。 そこで、地域の男性が集まり、地域の史跡等を活用したまち歩き講座を企画実施することで、生涯学習のきっかけと仲間作りの場を提供し、学んだことを地域へ還元する。		
概要・成果	歴史とまち歩きをテーマとしたことで、歴史好きな地域のシニア世代の男性が集まり、企画会議を通して楽しみながら交流を深め、成人対象と親子対象の 2 つのまち歩き講座を企画実施することができた。そのうち、親子対象講座では、企画員自らが講師を務めた。親子向けの地域まち歩きプログラムを作り、その説明役を担うことで、企画員として学んだことを地域に還元することができた。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
市民企画講座「親子 de まち探検～見て・歩いて・不思議を発見しよう～」	小学生親子を対象に、「男の企画会議」企画員が案内するまち歩きを企画したが、雨天のため企画員による館内講話に変更した。	10 月 16 日	1	13
ちびっこひろば	児童館と子育てに関わる 11 地域団体と共催・連携して開催。乳幼児家族が楽しく集い交流を深め、“地域”を意識してもらえよう、感染症予防対策をしつつ、わらべうたや工作、ゲーム等のコーナー遊びなどを行った。	10 月 1 日	1	52
中学生のハローワーク	中学 1 年生を対象に、様々な社会経験を積んだ 7 業種の社会人講師から、実際の仕事に関する話を聞く機会を設けることで、職業や将来について広く考える貴重な体験の場になった。	12 月 8 日	1	210

●防災リーダー講座	小・中学生を対象とした防災ゲーム（クロスロードゲーム・ぼうさい駅伝）と、高校生を対象とした防災に関する講話を出前で行った。また、貝ヶ森の五町内会による貝ヶ森市民センター補助避難所運営委員会と連携し、防災訓練や避難所の運営訓練を合同で実施した。	6月4日～ 2月19日	8	1,224
インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催として実施した。子ども会の次期リーダーとなる小学5年生と世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーションについて研修を行った。	2月19日	1	—
市民企画講座「歩いて学ぶ郷土の歴史」	地域の成人を対象に、へくり沢や根白石街道など地域の昔の風景をテーマにした、講話とまち歩きを行った。	9月30日 10月13日 10月29日	3	37
貝ヶ森シニア学園	シニア世代を対象に、感染症予防対策を取りつつ、講話と実技(文化教養・歴史・健康など)など、多種多様なジャンルの内容を実施した。9月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面開催とした。	5月26日 ～3月2日	10	305
おうちで楽しむ和の文化	少ない人数・回数で家族同士や個人で何度でも繰り返し学習し、楽しめる和の文化に触れる講座を開催した。内容は百人一首の実技、書道と消しゴム落款づくりを行った。	8月21日 8月28日 11月12日 11月26日	4	38
貝ヶ森交流サロン	地域の方を対象に、まち歩き、寄せ植えづくり、健康講話、コンサート、書面でのお茶っこサロンを行った。共催先と協議のうえ、折り紙、健康測定は中止とした。	6月24日 11月18日 12月14日 1月21日	4	59
【中止】 豆まき会	地域の子どもを対象に豆まき・コーナー遊びを企画した。地域への広報や参加者募集まで終了していたが、新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、共催先、連携先と協議のうえ、中止とした。参加者への対応としては、連絡のうえ、用意した「鬼除けセット」を配付した。	【中止】 1月29日	—	—
貝ヶ森地区文化祭	住民の交流と学習成果発表を目的に、1日目は展示発表とキックターゲット、科学体験コーナー等を行った。2日目は、展示発表と健康相談コーナー等を行った。	10月23日 10月24日	2	350
地域懇話会	連合町内会や小学校から大学までの各学校、及び地域諸団体や市民センター併設児童館の支援団体と懇談会を開催し、事業報告と情報交換を行った。2回目は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とした。	10月6日	1	15

【令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「落語を楽しむ会 貝ヶ森」の支援

「落語を楽しむ会貝ヶ森」は、平成30年度貝ヶ森市民センター主催「大人の芸講座」から発足したサークルである。

令和3年度は貝ヶ森地区文化祭において落語を披露する予定であったが、コロナ禍によりステージ発表の部が中止となった。発表の場を確保するため、新たに、多目的ホールでの「落語発表会」の開催を支援した。感染防止対策などの運営面や、ホームページ・市民センターだよりなどの広報により、11月13日に開催した発表会は、盛会裏に終了することができた。終了後は、その様子をホームページ・市民センターだよりで発信した。

また、貝ヶ森シニア学園（第8回）「新春落語会」では、地域の噺家として落語を披露するなど、地域での活躍の場を提供し、活動の継続を支援している。

中山市民センター

〔沿革〕

中山市民センターは、旧中山コミュニティセンターを増改築し、平成7年4月に児童館を併設して開館した。近隣には月急山公園、うどう沼公園があり、街路のケヤキや桜並木に囲まれ緑豊かな自然にあふれている。地域では、街道市や七夕祭り、スノーマン祭り、とびの子祭り、学区民運動会、老人クラブ演芸大会、町内会夏祭り等地域団体が主催する行事が活発である。

当市民センターが受け持つ中山・川平地区は、戸建て・集合住宅のほか、近年は大型マンションが増え、新しい町並みを形成している。また、近くに「せんだんの杜」、「せんだんの里」等の介護や福祉関係の施設があり、福祉に関する住民意識と学習意欲の高い地域である。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	中山キッズ		
参加者	小学生と保護者	延参加者	20人
開催日	全2回 令和3年10月12日(火)～令和3年10月13日(水)		
協力者・協力団体	まちづくり推進部青葉区中央市民センター		
ねらい	コロナ禍により学校行事や子ども会行事の中止や見直しがされているため、それを体験する機会が減っている。そこで、地域の小学生を対象に、普段の生活や学校生活では経験できないことを体験・体感できる場を提供する。コロナ禍においても可能な学習方法で、安全を確保しながら講座を開催する。		
概要・成果	小学生の親子を対象に、普段の生活では経験できない学びの場を提供することを目的として、仙台青陵中等教育学校の生徒を講師に、楽器作りや動くスライム作り講座を実施した。講師を少し年上のお兄さんお姉さんとしたことで互いに声を掛けやすく、コミュニケーションをとりながら楽しく学べる場となった。 また、「自作の楽器での演奏」や「自慢のスライム発表」をしたことは、コロナ禍でもできる交流の場となった。		

〔令和3年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
パパのエンジョイ育児講座	子育て中の父親と乳幼児を対象に父親ならではの不安や悩みを解消し、自らの育児に活用していくことを目的として、運動遊びや絵本の読み聞かせ、チャイルドヨガなどの講座を実施した。	10月2日 11月6日 12月4日	3	15
インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催として実施した。子ども会の次期リーダーとなる小学5年生と世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーションについて研修を行った。	2月19日	1	—
初恋のお話、聞かせてください	高齢者で構成された地域団体の方を対象に、参加者団体同士の親睦を深め、市民センター事業を身近に感じてもらうことを目的として、初恋を含む青春時代の思い出を語っていただいた。	2月4日	1	7

終末期医療・介護を考える	高齢化が進み、在宅での医療や介護が身近な地域課題となっているため、成人を対象に地域の医療機関の看護師や相談員を講師に招き、在宅での医療措置について、事例を基にお話いただいた。	1月21日	1	24
せんだいアラカルト	成人対象講座として、仙台に縁のある人物、文化などの身近な歴史に触れることを目的に、仙台に縁のある女性たちの墓所や中山地域のまち歩き、すずめ踊りの原型である「ハネ踊り」の体験講座を実施した。	10月28日 11月18日 12月11日	3	27
中山銀鈴倶楽部	高齢者に学習機会を提供することを目的に、コンサートや歴史講話、健康講座、映画の楽しみ方など、幅広い学習テーマの講座を実施した。	6月11日～ 11月12日	7	162
防災講座	地域住民を対象に防災に関する知識を広めることを目的として、防災訓練や住宅火災報知器の紹介、天ぷら油火災実験、消火器訓練を実施した。	10月20日	1	22
落ち葉堆肥でエコタウン	地域住民を対象に環境問題への意識を高めることを目的として、落ち葉堆肥を活用した春花壇作り、地域清掃で集めた落ち葉の堆肥作りの講座を実施し、資源循環について学んだ。	11月7日 12月18日 1月22日	3	19
私がつくる小さな音楽会	音楽に関心のある地域住民を対象に、新しい生活様式に合わせたコンサートを開催するための企画会議を実施した。企画会議を経て開催する講座については、企画員がボランティアとして運営に携わり、令和4年度に開催することを決定した。	1月13日 2月17日 3月17日	3	6
【中止】中山市民センターまつり	実行委員会を立ち上げ、開催に向け準備を進めていたが、第2回実行委員会において、市内の新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、中止を決定した。	【中止】 9月9日 9月10日 9月11日 9月12日	—	—
懇話会	地域住民を対象に、実効性のあるコミュニティーづくり支援と課題解決を推進するために開催した。第1回は地域団体との意見交換、第2回は市民センター利用者との意見交換を书面開催にて実施した。	7月20日 2月25日	2	36
【中止】市民企画会議を経て実施する事業	新型コロナウイルスの影響により、企画員の募集が大幅に遅れたため、講座の方針や内容は決定したが、令和3年度中の開催は不可と判断し、中止とした。	【中止】	—	—

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「仙台市中山小学校総合的学習」への支援

生き生き中山っ子教室（放課後子ども教室）から、中山小学校4年生の総合的学習で中山の歴史を勉強したいので地域に詳しい方を紹介してほしいと相談を受けた。

市民センターでは、町内会長と役員さんに声がけし、推薦していただいた方をコーディネートし、地域と学校との橋渡し役を果たした。

折立市民センター

〔沿革〕

折立市民センターは、平成 7 年 5 月 30 日に市内 50 番目の市民センターとして、折立児童館・コミュニティ防災センターを併設して開館した。

当市民センターは仙台市中心部から西方約 5 km の地点に位置している。東側には青葉山丘陵、南側には里山蕃山があり、北側には広瀬川が流れ、西側にはその広瀬川によって形成された河岸段丘が開けており、遠くには奥羽山系を眺望できるという自然環境に恵まれた場所に立地している。

施設には可動式のステージが備わった多目的ホール、照明付の舞台を備えた 49 畳の和室、調理用機器を完備した会議室兼調理実習室等があり、地域住民の生涯学習・スポーツ・コミュニティづくりの場として、広く利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	ライトアート in 折立		
参加者	地域住民	延参加者	1,791 人
開催日	全 11 回 令和 3 年 7 月 8 日(土)～12 月 18 日(土)		
協力者・協力団体	折立素敵物語実行委員会、折立学区町内会連合会、折立小学校、折立中学校		
ねらい	折立素敵物語実行委員会が、令和元年度に地域の人々の交流を深める場として折立小学校 6 年生の有志と企画したことから始まった事業である。イベントの企画運営を通じて、自分たちの住む地域に関心を持ち、絆を深め活性化を促すことをねらいとする。		
概要・成果	令和 3 年度は 7 月から運営委員会を立ち上げて準備を進め、12 月 4 日に折立公園を会場とした光のイベントを開催。第 3 回となる令和 3 年度は「ピカボード(LED 発光ボード)」の制作に挑戦した。運営委員のほか、開校 50 周年の記念制作として折立小学校全校児童が制作に取り組み、作品を展示した。また、市民企画員として折立中学校の生徒有志も運営に関わり、工作やクイズラリーコーナーを担当。子どもたちがイベントに直接関わったことにより、当日は多くの家族連れや地域内外から約 1,200 名が訪れ、イベントを通して折立の地域力を発信することができた。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子たいけん隊	コロナ禍、感染症対策を講じながら、日程・内容を変更し、「座禅体験」「ピカボード(LED 発光ボード) 作製」「ニュースポーツに挑戦」を実施した。4 回目に予定していた「万華鏡づくり」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。	8 月 7 日 11 月 3 日 12 月 18 日	3	32
インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催として実施した。子ども会の次期リーダーとなる小学 5 年生と世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーションについて研修を行った。	2 月 19 日	1	—
わらすこたいむ	昔遊びボランティアグループわらすこの皆さんが講座内容の企画や事前準備から関わり、昔遊びや外遊びなどを通して交流し、地域の大人と顔の見える関係を築き信頼感を育んだ。	6 月 10 日～ 2 月 3 日	11	278
小学生の防災教室	折立小学校 5 年生児童を対象に、東北大学災害科学国際研修所の講師を招き、災害時の対応について考える講座を開催。講師が開発した防災ゲームを通じて、防災意識の向上を図ることができた。	11 月 2 日	1	35

《青葉区》

中学生の防災教室 ～僕たち私たちの 力～	地域の防災組織の皆さんと一緒に救命救急講習や避難所開設訓練を行うことを通して、中学生の災害発生時の地域貢献への意識を高めることができた。	11月9日	1	70
探し出せ！折立ハ ンター	折立地域の子ども達が年齢や学年の枠を超えた交流を行うため、中学生が企画した講座。どの学年でも平等に楽しめる4種類のミニゲームを行った。	3月29日	1	34
折立老壮大学	新型コロナウイルス感染症の影響により開講日を1ヶ月遅らせ、全10回予定中9回を実施。コロナ禍対応策として市政出前講座や防犯出前講座、介護予防月間共催などを活用しつつ、漫談・トーンチャイム演奏・箏アンサンブルで和んでもらった。	6月17日～ 2月17日	9	211
【中止】 折立地域交流会	地域の老人クラブや児童館と連携し、1月に豆まき会、2月にコンサートの開催に向けて準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、共催団体との協議の結果中止とした。	【中止】 1月29日 2月26日	—	—
折立素敵物語	ライトアート in 折立の企画運営を地域団体と連携しながら主体的に行った。また、地域内のボランティア団体からの要請を受け、令和4年度に実施予定の出前講座についての話し合いを行った。	5月29日 3月26日	2	20
蕃山ファミリーハ イキング	登山道整備活動に携わったボランティアが講師となり、小学生親子を対象に、蕃山に生息する動植物などを紹介しながら環境保全の大切さを伝え、異世代交流を図った。	10月30日	1	21
【中止】 第12回 折立 風の メロディーコンサ ート	実行委員会で協議した結果、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。	【中止】 7月10日	—	—
【中止】 第18回 折立ふれあ いまつり	連合町内会および実行委員会にて協議の結果、新型コロナウイルス感染症収束の見通しが立たず、例年通りの開催が難しいことから中止とした。	【中止】 10月23日	—	—
折立市民センター 懇話会	地域住民等と情報を共有し、地域課題の解決に向けて意見交換し、相互理解を深めた。	10月19日	1	10
折り紙ボランティ ア養成講座 「すてきな折り紙 の世界」	地域で活動できる折り紙ボランティアを育成し、ボランティアとして独立して活動するための意識と技術の向上を図った。	10月8日～ 1月27日	7	80
市民企画会議 「市民センターの 講座を考えよう！」	折立中学校の生徒有志が企画員となり、「ライトアート in 折立」を更に盛り上げるため、会場内で行うワークショップの企画運営を行った。その後、子ども向け講座を企画し、3月に開催した。	8月12日～ 3月29日	10	46

【令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「折立昔遊びボランティアわらすこ」の活動支援

「折立昔遊びボランティアわらすこ」は、平成25年度から実施した事業「昔遊び伝承事業」の参加者により、平成26年度に結成され、これまで市民センターでは、児童館との共催事業「わらすこたいむ」や「わらすこまつり」、児童館主催の「児童館まつり」や幼児クラブ登録親子を対象にした昔遊びの伝承活動を支援してきた。

令和3年度は、折立児童館の児童クラブ利用の小学生を対象とした「わらすこたいむ」のほか、塩釜仲卸市場マルシェ内での昔遊びブースのコーディネートを行った。また、コロナ禍で中断していた折立小学校児童への昔遊び伝承出前授業の要請を受け、地域の子ども達との交流を深める活動の支援を行うことができた。

木町通市民センター

〔沿革〕

木町通市民センターは、木町通小学校の改築に伴い、平成 16 年 4 月に小学校と児童館、コミュニティ防災センターとの複合施設として開館した。市民センター施設は、5・6 階に位置し全館バリアフリー対応になっている。また、屋上緑化を施し、一部は児童館の遊び場として利用している。

木町通地区は市の中心部に位置し、官公庁・学校・病院・商業施設・マンションが建ち並び、従来からの一戸建ての住宅は減少している。この地域では若い単身世帯や乳幼児の子育て世代の 40 代が多く、20 代、50 代、30 代、60 代と続く人口構成となっている。

当市民センターはこうした環境の下、複合施設の利点を生かし、地域との連携を図りながら学びの場を提供することを目指している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	子ども参画型社会創造支援事業北三番丁公園で遊ぼう！		
参加者	小中学生	延参加者	22 人
開催日	全 8 回 令和 3 年 6 月 19 日～令和 4 年 1 月 8 日(土)		
協力者・協力団体	まちづくり推進部青葉区中央市民センター、木町通児童館、こよなく北三番丁公園を愛する会		
ねらい	地域資源である北三番丁公園を活用し、子どもたちが安全に楽しく遊べる場を自ら企画し実施することで、主体的に活動する学びの機会とする。また、地域のボランティアが関わることで世代間交流や地域ぐるみで子どもたちを見守る環境づくりの一助とする。		
概要・成果	小中学生 3 名の企画員が地域資源である北三番丁公園を使って、主体的に“遊び”を企画・実行した。企画員がチラシを作り広報を行うという経験をした。当日は企画員が考案したクイズを織り交ぜ、「北三クエスト～館長をすくえ！～」という謎解きクエストを行った。参加者は近隣の小学生が多数を占め、親子で協力して考えたり、他の参加者と謎を解いていったりと多彩なコミュニケーションを取ることができた。地域のボランティアである「こよなく北三番丁公園を愛する会」や「木町通おやじの会」「ジュニアリーダー」と関わる機会を設け、世代間交流も盛んに行われた。 また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により規模は縮小されたが、企画会や当日の様子を動画にまとめたものを成果発表会で披露する機会もあり、地域の方々だけでなく多くの方々に活動内容を発表することができた。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育て ENJOY 広場	子育て世代を対象に、交流や仲間づくりの機会となるよう、地域の子育て支援団体の紹介と「顔ヨガ」「災害時にも役立つ親子のごはん」「乳幼児向けのおもちゃづくり」を実施した。毎回託児室を設けた。	10 月 29 日 11 月 18 日 12 月 22 日	3	14
わくわくキッズ	小学生対象に、かけっこのコツ、石鹸で上靴を洗う、タイルアート、星空観望会、樹名板の制作などを行い、家庭や学校では体験しがたい学びの場を提供した。	5 月 15 日～ 12 月 14 日	5	184
仙台市子ども会インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催として実施した。子ども会の次期リーダーとなる小学 5 年生と世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーションについて研修を行った。	2 月 19 日	1	—

ビギナーさんいらっしゃい！ ～パパさん限定 役立つアウトドアを学ぼう～	子どもと一緒に楽しめて、災害時にも役立つ初心者向けのキャンプ道具の学習、防災グッズづくり、親子で防災クッキングの体験をおこなうことで、アウトドアの技法を学び、自宅で簡単に防災キャンプができる知識を身に着けた。	10月16日 11月18日 12月22日	3	15
木町通老壮大学	地域の高齢者が孤立することなく、心身ともに健やかに過ごせるよう、地域の歴史、文化活動、館外学習、音楽鑑賞など広い分野について学びながら、受講生がともに考え交流する場を提供した。	6月9日～ 3月9日	14	575
木町通学区の防災講座	東日本大震災を教訓として、「救急救命講習」と「身近な防災・減災のヒントとコロナ禍における避難所運営について」の講座を提供し、命を守る行動への啓発を行った。	8月27日 11月26日	2	20
木町通市民センターまつり	地域の住民向けに、市民センターで活動している団体や地域の団体の活動を紹介する KIMACHI 展～まつりウィーク～として開催した。動画上映、展示発表、写真コンテスト、地域内商店の協賛提供を行った。	11月9日～ 11月14日	1	250
木町通市民センター運営懇話会	学校関係者、各町内会関係者をはじめ市民センター利用団体や地域関係諸団体へ、市民センター事業や施設運営について説明し意見交換を行った。また、地域の課題やコロナ禍における各団体の取り組みなど情報共有を行った。	5月27日	1	20
木町通クリエイターズ 一偉人・文人の足跡を訪ねる一	地域住民を対象に、地域の偉人や文人の足跡をたどるまち歩きや、和菓子作り、畳素材の敷物、座布団などのモノづくりを通して地域の魅力を認識し、変容していく地域で継承することの大切さを学ぶ機会とした。	8月12日～ 12月16日	8	103
木町通小学校社会学級連携市民企画会	地域内の新旧住民の交流の機会とするため、木町通社会学級と連携し「郷土料理 初めての仙台雑煮とワンプレートおせち」を計画した。調理デモと試食、入手困難なハゼを配布することができた。	7月1日～ 12月9日	5	26

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「こよなく北三番丁公園を愛する会」への活動支援

「こよなく北三番丁公園を愛する会」は、平成 25 年から複数年取り組んできた市民企画会議「きずな・まなび・ちから」に関わった方々が、引き続き「北三番丁公園の活性化を通して地域づくり、人づくりを考える」をキーワードに企画会議を開催し、「地域コミュニティが希薄になっている地域の中で、近くの公園で住民が集まれる機会がつかれないか。花壇の手入れ等を子どもを巻き込んでできないか」という地域課題を解決することを目的に立ち上がったボランティア団体である。年間を通した活動内容は、公園の美化と整備を行う「季節ごとの花植え」、街中での「星空観望会」、隣接する小学校の 3 年生を対象とした「樹名板の作成」、公園の魅力を再発見するための「写真撮影会&フォトコンテスト」など、多岐にわたっている。

市民センターでは、団体が行う各行事の広報や学校との連絡調整、活動内での見守りなどを行い、活動が円滑に進められるよう支援している。特に「写真撮影会&フォトコンテスト」では、撮影会実施にあたっての講師紹介を行うほか、市民センターまつりにおいて撮影会での写真やその他応募いただいた北三番丁公園にまつわる写真の展示を行うことで、団体の活動を広く市民に知ってもらう機会としている。

広瀬市民センター

〔沿革〕

広瀬市民センターは、広瀬川の中流域に位置し、周辺にはサイカチ沼や月山池、蕃山などの豊かな自然と、子愛観音をはじめとする数多くの旧跡が残る。また、近年は住宅の造成や商業地域の開発が進み、人口が著しく増加している地域で、平成 31 年 4 月には、錦ヶ丘中学校が開校した。

当市民センターの歴史は古く、昭和 24 年大沢・広瀬両村に村立公民館が建設されたことに始まる。昭和 62 年仙台市との合併により仙台市宮城公民館となり、条例改正により仙台市宮城市民センターと改称、平成 3 年 6 月に名称を広瀬市民センターと改めて現在の場所に移転した。

施設は広瀬文化センター・広瀬図書館との複合施設で、地域住民の交流と生涯学習活動の拠点として広く親しまれ利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	子ども参画型社会創造支援事業 カップダ川で地域交流		
参加者	小中学生・小学生親子	延参加者	56 人
開催日	全 8 回 令和 3 年 6 月 12 日(土)～令和 4 年 3 月 26 日(土)		
協力者・協力団体	愛子児童館 ・「ひろせの底力」(地域住民グループ)		
ねらい	地域を流れるカップダ川をテーマに、平成 24 年度の地域づくり推進事業から継続・発展し、ダンス部の活動と自然観察講座などの開催で、地域の自然の魅力を伝えてきた。令和 3 年度もダンス部員が地域で活動する大人との出会いを通して、将来は社会や地域で主体的に活躍する人材育成を目指し、公開講座では、地域に広く自然の魅力を伝えダンス部の活動を周知する。また、青葉区中央市民センターと共催することにより、活動を全市に広げる。		
概要・成果	地域のまつりやイベントの多くが中止となったが、ダンス部の活動は定期的に行い、宮城地区まつり代替イベントの「MIYAGI イルミネーション PLUS」、青葉区中央市民センター講座「ジュニアリーダーと遊ぼう！」などでダンスを披露し練習成果を発揮できた。また、公開講座では江戸時代から農業用水として使われてきた〈カップダ川〉と昔の暮らしの様子についての講話を聞くとともに、木の実クラフト作りを行うことで、参加した親子が楽しみながら地域の歴史や自然について知る機会につながった。残念ながらコロナ禍でダンスを披露する機会が少なくなったことや、新入部員の獲得が難しいこと等により、令和 3 年度で「カップダ川で地域交流」は終了としたが、地域活性化と住民同士の交流に大きく貢献することができた。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
地域で伝える「平和学習」	広瀬小学校と愛子小学校の 6 年生を対象に、平和の大切さを伝えるため、地域の戦争体験者が当時の生活の様子や気持ちを話す出前授業を行った。事前にパネル展とオリエンテーションを開催した。	12 月 8 日～ 1 月 25 日	8	216
インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催として実施した。子ども会の次期リーダーとなる小学 5 年生と世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーションについて研修を行った。	2 月 19 日	1	—

【中止】 ジュニアリーダー「くまっこ」と遊ぼう！	ジュニアリーダー「くまっこ」のメンバーと講座内容を決定し、市民センターだより等で広報を始めたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止にした。	【中止】 2月27日	—	—
広瀬老壮大学	地域の高齢者が、健康で豊かな生活を送れるように、映画と人生の講話、運動講座、演芸鑑賞、文化センターホールでの公開講座のコンサート鑑賞を行った。最終回以外は、感染対策のため2グループに分けて同じ内容で開催した。	7月29日 ～3月6日	7	165
【中止】 ひろせ地域防災講座	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、8月開催予定を2月に延期したが、安全性を考慮して中止とした。	【中止】 2月5日	—	—
三館共催事業	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、2回の延期を経て開催した。幅広い世代の方々に複合施設の魅力を発信するために、文化センターホールで紙芝居と演劇の融合作品「アーリー博士とレイト怪人」を上演した。	1月23日	1	170
【中止】 令和3年度生涯学習 発表会「みやぎ学習フ ェア」	広報やプログラムの準備を進め、開催を待つのみだったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、安全性を考慮し中止を決定した。	【中止】 2月20日	—	—
ひろせ懇話会	8月と3月に開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、参加者の安全性を考慮し、書面開催にした。	8月31日 3月8日	2	30
広瀬市民センター作 品展示会	市内の新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、作品展示会のみとし、展示部門のサークルと団体が、日頃の学習成果を発表する機会を3日間提供した。	10月22日 10月23日 10月24日	1	160
市民企画講座 「心にビタミンコン サート」	コロナ禍において、地域を活性化し地域住民の心の健康づくりに貢献するため、プロのバイオリン奏者とピアノ奏者の演奏とギターと沖縄三線のサークルのコンサートを開催した。	12月5日	1	70
ひろせ魅力工房	成人を対象に、羊毛フェルトの「ものづくり」による広瀬地域の魅力発信講座を開催した。若い世代が中心となるサークルを立ち上げ、地域人材育成につなげた。	9月15日 ～ 12月15日	9	67
市民企画会議	日頃、音楽活動に携わっている方々が企画員となり、音楽を通じて人々に元気を与えられるようなコンサートを企画した。	7月28日 8月27日 10月22日 12月8日	4	16

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダー「くまっこ」の活動支援

ジュニアリーダー「くまっこ」は、50年以上続いている歴史あるサークルで、34人が登録している。市民センターは、ジュニアリーダーの自主性や考えを尊重し、活動が先輩から後輩へスムーズに引き継がれるようにサポートしている。令和3年度はコロナ禍で活動が制限され要請も少なく、ジュニアリーダー自身が企画運営する講座「ジュニアリーダーと遊ぼう！（くまっこまつり）」も中止とした。しかし、OB・OGのゲーム研修を開催するなど、令和4年度の活動に向けての意欲を継続し、ジュニアリーダーとしての技術維持とサークルメンバー同士の交流を図ることができた。

宮城西市民センター

〔沿革〕

宮城西市民センターは、昭和 51 年 4 月に宮城町西部地区公民館として開館した。その後、昭和 62 年 11 月 1 日宮城町が仙台市と合併して仙台市宮城西公民館となり、平成 2 年 4 月 1 日から仙台市宮城西市民センターと改称した。その後、施設の老朽化に伴い平成 22 年 8 月から一時休館して改築工事を行い、平成 24 年 7 月に新たに開館した。

当市民センターは、宮城地区西部の自然環境に恵まれた緑豊かな山間地に位置している。近年過疎化が進み、少子・高齢化の現状にあるが、地域の活性化を図るため町内会・老人クラブ等の各種団体と連携を密にして社会情勢の変化に伴う学習要望に応え、地域住民と共に歩む生涯学習を推進している。また、地域住民の自主活動の場、交流の場として広く利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●宮城西部地区今昔物語		
参加者	大倉地域各町内会長、大倉地域住民、大倉四季探検会員、一般編集委員、編集アドバイザー	延参加者	145 人
開催日	全 20 回 平成 3 年 7 月 13 日(火)～令和 4 年 3 月 24 日(火)		
協力者・協力団体	大倉地域連合町内会、下倉町内会、大手門町内会、大倉四季探検、定義観光協会、定義如来西方寺、宮城総合支所まちづくり推進課・地域活性化推進室		
ねらい	宮城地区西部の昔の情景を知る人も高齢となり減少している。地域住民から昭和の頃の生活の様子を聞き、知り得た情報を記録に残し、後世に伝えると共に、地域の歴史、文化、風習等を見直し、新たな魅力を広く発信する。		
概要・成果	平成 30 年度に作並、新川地域について昭和の頃の生活の様子を聞く会を開催し、令和元年度は記録に残すために編集委員会を設け「作並・新川いまむかし」の冊子を発行した。第 2 弾として令和 3 年度は大倉地域で昔の話を聞く会を 8 回開催し、一般の編集委員も入り「大倉・定義いまむかし」を発行した。 住民からの昔の話を聞き取りに際し、各町内会長から声かけと会場提供等、多大な協力を得られた。また各地区で少人数の開催にしたため、色々な話を詳しく聞くことが出来、内容に深みが増した。編集委員も少人数だったがそれぞれの立場からの視点を活かし、意欲的な取り組みでまとまりが良く、短期間でスムーズな編集が出来た。 冊子発行後、河北新報に記事が掲載され、一般者への無料配付分が 2, 3 日でなくなり大変好評を博した。「とても懐かしい」「暮らしについて残しているものは少ないのでとても貴重だ」「わかりやすく良くまとまっている」という声をいただき、微力ながら地域活性化への一助となった。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子ふれあい教室	小学生以上の親子を対象に体験学習を通じて、コミュニケーションを深めながら、地域の自然や歴史を守る大切さを学んだ。豆沢川探検、伝統文化体験、年中行事体験等。	6 月 12 日 12 月 17 日 1 月 8 日	3	66
インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催として実施した。子供会の次期リーダーとなる小学 5 年生と世話人を対象に、子供会についての知識やレクリエーションについて研修を行った。	2 月 19 日	1	—
中学生のハローワーク	自身の進路や職業について考えはじめる時期となる中学生を対象に、職業講座を開催した。令和 3 年度は公務員と航空パイロットから、その職業の内容や職業選択の経緯、苦労話、やりがいなどの講話を聴いた。	8 月 20 日	1	39

自然体験教室	宮城地区西部は豊かな自然に恵まれ季節毎に植物や川、滝等が楽しめるが、個人で行くことが難しいため、その魅力に触れる機会を設けた。鎌倉山、戸神山、熊沢林道、横川林道、豆沢川、白沢五山の探訪会を実施した。	4月22日 ～11月12日	6	109
女性教養講座	成人女性を対象に、漆塗り体験・陶芸・手芸・絵手紙など多岐にわたるジャンルを学び、心身共に健康で豊かに暮らすための一助とした。新型コロナウイルス感染防止のため、9月15日開催のスポーツ体験は、11月10日に延期して開催した。	6月23日 ～2月9日	6	70
出前講座	地域町内会と連携を図り、市民センターが地域へ出向き出前講座を開催した。令和3年度は地域住民を対象に、切り絵アート・陶芸教室・軽体操教室の学びの場を提供した。	10月14日 12月8日 2月25日	3	40
老壮学級	高齢者が心豊かにいきいきと暮らすために様々な内容を学習し、生きがいつくりの一助とした。また、月に一度顔を合わせ、楽しみながら共に学び交流を行った。交通安全、健康づくり、暮らしの講座、手作り講座、コンサート等	6月17日～ 1月20日	8	291
★自主防災活動を推進するための 「防災・減災学び塾」	令和2年度に引き続きコロナ禍のため、大勢での講座を実施できなかったため、町内会役員、指定避難所担当課、広陵中学校と市民センターとで地域版避難所運営マニュアルの修正確認を行い、コロナ禍を想定した避難所運営訓練を行った。	4月20日 6月9日 6月24日	3	73
【中止】 宮城西市民まつり	宮城県に緊急事態宣言が発令されたことに伴い、五役で協議の結果、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。	【中止】 11月23日	—	—
宮城西地域懇話会	6月に予定していた上愛子小学区全体懇話会は中止。2月に、管内町内会長との懇話会を実施し、市民センター事業及び館運営についての意見を伺った。	2月23日	1	13
【中止】 令和3年度生涯学習 活動発表会 みやぎ 学習フェア	新型コロナウイルス感染症の急激な拡大により、実行委員会で中止を決定した。	【中止】 2月20日	—	—
ゆうゆうの森プロジェクト	夏のキャンプとピザ焼き、冬の伐採作業は、コロナ禍のため中止。春と秋の植生観察会だけ実施した。	6月10日 10月15日	2	102

【令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

大倉ダムの魅力発信実行委員会への活動支援

平成29年度に市民企画会議として立ち上がった「大倉ダムの魅力発信」は、令和元年度に「鯉のぼり×大倉ダム」を企画・実施し、大倉ダムの魅力を広く発信する新たなイベントを誕生させた。

イベントを実施するに当たっては、官公庁への許認可手続が大変多く且つ複雑で、また、平日の対応を余儀なくされるため、許認可書類の作成や申請の手続をサポートした。その結果、イベントの準備段階から実施に至るまで、何らトラブルもなくスムーズな運営を行うことができた。

また、地域の魅力を発信する手段の一つとして、ダムの下流にある岩峰群の「天狗岩」を紹介する看板の原稿作成とデザインもお手伝いした。

大倉ダムの魅力発信事業は、青葉区中央市民センターとの共催事業である、住民参画・問題解決型学習推進事業（通称「大人事業」）に位置づけられており、上愛子小学校の全校生徒で取り組む新たな創作鯉のぼりの制作からイベント実施までのサポートは、青葉区中央市民センターと協働で行った。

大沢市民センター

〔沿革〕

大沢市民センターは、平成2年5月、青葉区の西北部、田園地帯や緑多い丘陵地帯など豊かな自然環境の中に、児童館・コミュニティ防災センターを併設して開館した。平成30年度には大規模修繕を実施し、平成31年4月に再開した。

古い史跡が点在する歴史ある地域としても知られ、古くからの村落と成熟化が進行する団地、開発が進む新興団地が混在する中、若い世帯の増加が著しく更に発展が見込まれる。こうした地域状況を背景に市民センターとしての機能を活かし、地域住民の活動・交流の拠点として、社会変化に伴う市民のニーズに対応する生涯学習事業を展開している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	大沢農学校		
参加者	地域住民	延参加者	249人
開催日	全15回 令和3年4月23日(金)～令和4年3月11日(金)		
協力者・協力団体	—		
ねらい	コロナ禍で人が集まることが難しくなっている状況にあっても、比較的感染リスクの少ない屋外での作業を通じて、通年での畑の管理や栽培方法などを学び、畑を通じた地域のコミュニティづくりを目指す。		
概要・成果	令和元年度から少しずつメンバーを入れ替えながら継続している講座である。畑を通じた仲間が増え、地域のコミュニティづくりに一役買っている。専門家を講師に迎え、年間を通して、土づくり・播種・管理・畑の整備を行い、様々な種類の野菜作りを体験した。受講生は座学と実技による学びを活かし、「子どもお楽しみ体験講座」の講師として活躍することができた。		

〔令和3年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子どもお楽しみ体験講座	移動天文車ベガ号で星を見る会、乳幼児親子・小学生対象のさつまいも掘り体験、「かけっこ教室」を行い、様々なことを体験する機会となった。	5月21日 11月5日 11月13日 1月8日	4	52
インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催として実施した。子ども会の次期リーダーとなる小学5年生と世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーションについて研修を行った。	2月19日	1	—
大沢地域の魅力発掘	地域の里山散策、講話「民俗芸能の魅力」・「川前の鹿踊・剣舞について」、宮城県重要無形文化財「川前の鹿踊」観賞を通して、地域の魅力に触れることができた。	5月26日 11月18日 11月27日	3	90
市民企画講座「奏でようリコーダー」	仙台フィルハーモニー管弦楽団フルート副首席奏者の指導によるリコーダーレッスンと自主練習及びリコーダー演奏発表を行った。	7月6日～ 10月5日	7	65
大沢朗々学園	高齢者が学習意欲と生きがいを維持できるよう、日舞、講話（歴史・大相撲・民俗芸能）、館外学習、回文、軽運動、コンサート等、様々な内容で学ぶことができた。	5月20日～ 3月3日	8	377

大沢地域防災講座	地域の芋沢婦人防火クラブ員を対象に、ゲームを使って、楽しく防災・減災知識を学ぶことができた。	1月22日	1	12
大沢地域出前講座	コンサートや小物作り、軽運動等、地域のニーズに合わせた講座を、各地域の集会所に出向き開催した。	5月29日～ 12月23日	5	119
【中止】 大沢市民まつり	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、参加者の安全性等を考慮し、実行委員会で中止を決定した。	【中止】 10月16日～ 17日	—	—
大沢・川前地域小中学校合同発表会	大沢中学校・大沢小学校・川前小学校の児童生徒の作品展示や映像の上映を行い、日頃の成果を地域に発表する場とした。	10月28日～ 10月30日	1	180
【中止】 スポーツで地域交流 「川前・大沢グラウンドゴルフ交流会」	開催へ向け準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。	【中止】 9月5日	—	—
大沢・川前地域交流ネット あがれ！天旗	「大沢・川前地域交流ネットあがれ！天旗実行委員会」を中心に、風作製キットの配布と作り方動画のYouTube配信や風あげを行い、世代間交流と地域交流を図った。	11月25日 1月16日	2	192
【中止】 令和3年度生涯学習活動発表会「みやぎ学習フェア」	広報やプログラムの準備が整い、開催を待つのみだったが、新型コロナウイルス感染症の影響により安全性を考慮し中止とした。	【中止】 2月20日	—	—
大沢地域懇話会	学校関係者と地域活動団体に分けて、懇話会を実施。町内会との懇話会は、紙面開催で行った。	2月15日	1	28
【中止】 市民企画会議	読み聞かせボランティアの増員を目指し講座を企画したが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。	【中止】	—	—
市民企画会議	コロナ禍において、不安やストレスをうまく乗り越える方法を探るため、企画会議を開催し、講座開催につなげた。	5月21日～ 10月5日	10	33

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「リコーダーそよかぜ」活動支援

令和3年度大沢市民センターの市民企画講座「奏でようリコーダー」をきっかけに、受講生有志による「リコーダーそよかぜ」が立ち上がった。サークル活動を始めるにあたり、施設の利用の仕方や、規約等へのアドバイスをし、スムーズに活動が続けることができるよう支援した。また、練習の成果を発表する機会を設け、他の音楽サークルとの交流も促した。発表がメンバーのモチベーションとなり、その演奏を聴きにきた人がサークルに入会するなど、参加者を増やすこともできた。

落合市民センター

〔沿革〕

平成6年に開館した落合市民センターは、広瀬川、齊勝川、蕃山などの自然環境と、仙山線（陸前落合駅）、国道48号線仙台西バイパス、作並街道という交通環境に恵まれた地域にある。また、宮城県立こども病院をはじめとする医療機関、栗生小学校、宮城県宮城広瀬高等学校などの教育機関、宮城消防署などの公共施設があり、国道沿いには大規模な商業施設も多い。地区外からの転居により人口も増加した比較的若い世代が居住している地域である。一方薄れつつではあるが、西館跡をはじめとした遺跡や神社など地域の歴史や風習など伝統も残っている地域である。

こうした地域環境の中で、当市民センターは開館以来、施設利用および生涯学習講座等を通じて、地域コミュニケーション活性化、まちづくり推進の拠点として広く地域住民の方々から愛され、利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●ふるさと落合栗生地元塾		
参加者	地域住民	延参加者	113人
開催日	全10回 令和3年5月29日(土)～令和4年2月11日(金)		
協力者・協力団体	宮城総合支所まちづくり推進課		
ねらい	落合栗生地区の歴史的価値を、地域住民や他地区からの来訪者及び次世代に継承していくために案内板を設置し、よりよい地域づくりを目指す。 また、歴史継承のための人材育成を図る。		
概要・成果	平成29年度から地域探訪を行い、落合栗生の歴史や史跡の理解を深め、学びを通して「落合栗生地区歴史めぐり」運営委員会の立ち上げにつながった。 令和3年度は「新落合橋」と「第六天堂・道祖神堂・地藏堂」の2カ所に落合栗生地区の歴史を紹介する案内板を作成・設置し、令和2年度を含め合計5カ所の案内板が完成した。さらに、地域の史跡等を紹介する総合案内板を作成し、JR 陸前落合駅前に設置することができた。また、運営委員会の活動内容や成果を周知するチラシ・ポスターを作成し、地域の情報発信と歴史案内ボランティアの育成にも努めた。		

〔令和3年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●わくわく子育てひろば	1～2歳児とその保護者を対象に健康講話や子育て相談、ふれあい遊びなどを実施。子育ての悩みの払拭、参加者同士の仲間づくりや交流につなげる事ができた。	10月7日 11月25日 12月2日	3	20
親子であ・そ・ぼ！	小学生とその保護者を対象に、体験学習を通じた家族の融和を目的として実施。12月4日「親子で体を動かそう」を開催し、お手玉リレーやダンスを通じて、親子で楽しく触れ合う時間を提供した。	12月4日	1	12
戦争の時代～広瀬村の子ども～	地域の戦争体験者が、未来を担う子ども達に向け、戦争の悲惨さと平和の大切さを伝えることを目的に、地域の戦時中の体験を語る映像を制作した。	9月17日～ 3月14日	5	25
インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催として実施した。子ども会の次期リーダーとなる小学5年生と世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーションについて研修を行った。	2月19日	1	—

宮城広瀬高等学校連携事業「いってみよう！やってみよう！広高タイム」	小学生を対象に7月「みんなで卓球！」、12月「書き初めに挑戦！」を開催。2月2日～2月22日の期間中市民センターロビーにて「生徒作品展示」を実施し、書道部、美術部、写真部の部活動作品を展示。高校生と地域住民の交流を促した。	7月30日 12月24日 2月2日～ 2月22日	3	95
来たれ！男のまなび舎	男性の仲間づくりを支援するとともに、地域社会や地域活動への参加のきっかけを目指し、レザークラフトの実技、手品、カラーコーディネートの講話を行った。	10月9日 11月13日 12月11日	3	26
落合栗生実年学級	地域の高齢者を対象に、心豊かに生活することを目的に実施。軽運動や音楽、「終活」など様々な分野の学びを提供した。受講生の興味・関心を引き出し、受講生同士が交流することもできた。	6月17日～ 2月17日	7	217
落合・栗生地区の七夕かざり	伝統行事の普及と理解、地域の新旧住民の交流や世代間交流の促進を目的とし、七夕かざり作成や地域の保育園園児との交流、飾り付けを行った。	5月28日 ～7月9日	7	64
★地域防災講座	1回目は「宮城地区防火・防災オリンピック 2021」を開催。パネル展示やライブ中継等を実施。震災から10年の節目でもあり、関心も高かった。第2回は気象や防災の講話を実施。実験等も取り入れ、地域の防災情報も学ぶ事ができた。	11月5日～ 11月11日 12月12日	2	169
【中止】 落合・栗生地区まつり	「落合・栗生地区まつり役員会」において、日程を4日間に延長し分散して開催を決定。開催に向け準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、役員会にて中止を決定した。	【中止】 10月30日 ～11月3日	—	—
【中止】 令和3年度生涯学習活動発表会 みやぎ学習フェア	役員会と実行委員会を行い、開催に向けて準備を進めてきたが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、中止とした。	【中止】 2月20日	—	—
【中止】 囲碁愛好家交流会	みやぎ囲碁愛好会と協議し、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。	【中止】 2月5日	—	—
地域懇話会	町内会・学校・施設・地域団体が集まり、情報発信や課題を共有することができた。コロナ禍により衰退した地域コミュニティの輪を再構築する必要がある、市民センターの役割は重要であると再認識できた。	12月10日 1月23日	2	25
落合栗生ふれあい工房～ガーデニング編～	成人を対象に、地域社会福祉施設との繋がりを深め、入居者・通所者を花のある暮らしで心を癒す事を目的に土作りから四季の花についての講話と実技、施設訪問のための花作りと施設訪問を実施。	5月25日～ 11月30日	6	54

【令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

地域の小学校と読み聞かせボランティアのコーディネート

栗生小学校より読み聞かせボランティア支援について問い合わせがあり、当館で活動しているサークルを紹介した。打ち合わせ等のサポートも行い、学校と地域住民をつなぐ橋渡しの役割を担った。また、3学年児童に向け史跡や歴史を説明できる地域の人についても問い合わせがあり、地元塾の有志の方を派遣すべく準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった。

吉成市民センター

〔沿革〕

吉成市民センターは、仙台市北西部の吉成と南吉成の小学校区中間位置に、市内 51 番目の市民センターとして平成 8 年 4 月に、児童館及びコミュニティ防災センターを併設しオープンした。当該地区は住宅地と商店街が共存し、市内北部と西部を結ぶ交通の要衝となっている。

当市民センターは、吉成小学校区と南吉成小学校区の 2 連合町内会を対象地域としている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	みんなのコンサート		
参加者	地域にお住まいの方ならどなたでも	延参加者	35 人（2 日間）
開催日	全 2 回 令和 4 年 1 月 22 日（土）、1 月 23 日（日）		
協力者・協力団体	仙台青陵中等教育学校、吉成中学校、南吉成中学校、吉成小学校、東北福祉大学		
ねらい	吉成市民センターの管轄内には中学校が 3 校あり、それぞれが保護者対象に学校の取組を発表する機会があるものの、地域住民に対して発表する機会はそれほど多くない。自分の住んでいる地域の学校の活動や取組の様子を直に見てみたいという地域住民の声を受け、本事業が始まった。コロナ禍のため、学校行事の中止や縮小が多い時期だからこそ、地域の学校が一同に会したコンサートを実施し、交流を目的に積極的に関わりを持つことで連帯感や一体感を醸成する。市民センターが下支えとなり充実した学びの環境づくりを促進する。		
概要・成果	新型コロナウイルス感染拡大防止から、例年のように各校が集まって演奏するコンサートの開催は難しいと判断し、令和 2 年度同様、各校が収録した DVD の上映によるコンサートを開催した。例年参加している 5 校全ての演奏を青葉区中央市民センターから借用したアンプとスピーカーで上映したことで迫力ある演奏会となり、地域の方々の学校への関心を一層深めることにつながった。また、コロナ禍で活動や発表の場が制限される中、学校側へは活動を発表する機会を提供することができた。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
【中止】 がんばれ子育て！ みんなでリフレッシュ！	対象が親子のため、開催できる状況を窺っていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、安心・安全に開催できる状況ではないと判断し、中止を決定した。	【中止】 6 月	—	—
吉成チャイルドスクール	小学生を対象に、七夕づくり、科学実験、こま回しをテーマに体験学習を実施した。新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、回数を 1 回減とした。	7 月～1 月	3	38
インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催として実施した。子ども会の次期リーダーとなる小学 5 年生と世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーションについて研修を行った。	2 月 19 日	1	—
災害に備えて	連携団体と打合せを行い、AED の使い方や心肺蘇生の方法など実践的なプログラムを実施した。	7 月 20 日 9 月 7 日 11 月 23 日	3	23

《青葉区》

きらめきスクール	高齢者を対象に、介護予防、健康講座、芸術鑑賞等の講座を開催した。受講生が多数在籍していたため、2グループに分けて実施した。	7月9日～ 3月11日	9	198
青陵の森を楽しもう	仙台青陵中等教育学校の学校林で自然観察・生きもの観察を実施した。新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、回数を減らして実施した。	7月11日 11月14日	2	38
吉成出前講座	国見ヶ丘老人クラブかたくり会からの要請を受け、クリスマスコンサート及び琴の演奏会を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、回数を減らして実施した。	12月21日 1月18日	2	38
【中止】 吉成市民センターまつり	実行委員会で開催を検討したが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、参加者の安全性等を考慮したうえで、中止を決定した。	【中止】 10月16日 10月17日	—	—
地域懇話会	町内会や学校関係者を対象に、コロナ禍での感染防止対策などお互いに情報を共有し、市民センターの役割などもご理解頂いた。2回目は新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。	12月1日	1	12
よしなり企画会	事業実施については早々に断念し、コロナ禍で何ができるのか、また次年度以降の運営方法など意見交換を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため当初の予定より回数を減らして実施した。	6月5日 11月3日	2	16
複数年事業企画「国見ヶ丘・吉成・南吉成の魅力再発見」	令和3年度は自然観察会や歴史街道の調査など精力的に活動してきた。成果物として、観察ノート(青陵の森の植物たち)やよしなりまちまっぷ(地域歴史の観点から作成)を発行し、学校や地域に頒布した。	4月～3月	6	72
【中止】 よしなり企画会を経て企画する事業	新型コロナウイルス感染状況を考慮し、中止することとした。	【中止】	—	—

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「くよみ郷土研究会」の活動支援

「くよみ郷土研究会」は、当市民センターの講座から立ち上がったサークルである。

仙台青陵中等教育学校の学校林「青陵の森」の整備や観察、地域の歴史資源である「中山街道」「芋沢街道」などの調査を自ら計画して行っている。

市民センターでは、地域の魅力を再発見する目的の複数年事業において活動を共にする他、会の運営や活動内容へのアドバイス、まちづくり活動助成事業や活動報告のデジタル化への支援などをしてきた。今後も自らの活動の幅を広げ、地域に還元できる団体となるよう支援を続けていく。

宮城野区中央市民センター

〔沿革〕

宮城野区中央市民センターは、平成 24 年 8 月、宮城野区役所や J R 陸前原ノ町駅に隣接する複合施設内に、市内 60 番目の市民センターとして開館した。同施設には、文化センター、図書館、児童館、情報センターが併設されており、交通の利便性も良く多くの市民に利用されている。

当センターの周辺は、古くから歌枕の地と知られる歴史をきざみ、近隣には原町商店街や陸上自衛隊仙台駐屯地などを擁しており、旧来の地元住民に加え転出入者も多い地域である。市民センターとしての歴史は浅いが充実した施設を活用して、様々な学びの機会を提供するとともに、地域情報の収集・提供に努め、地域の活動を担う人材の育成や交流拠点としての事業展開を図っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	Fun time@原ノ町駅前		
参加者	地域住民	延参加者	133 人
開催日	全 5 回 令和 3 年 9 月 30 日(木)～令和 4 年 1 月 15 日(土)		
協力者・協力団体	宮城野区文化センター		
ねらい	新型コロナウイルス感染症により、前向きに何かに取り組む意欲を持ちづらい状況が続いている。そこで地域住民が気軽に、安心して参加できる場を提供し、心と生活に潤いを与え学習意欲の向上につなげる講座を開催する。交通の便の良さや複合施設の強みを生かした多様な学習内容を提供し、市民センター事業を身近に感じてもらい、生涯学習事業の PR の機会とする。		
概要・成果	土・日・夜間、ランチタイムなど、働く人などにも参加しやすい日時を設定し、申込なしで気軽に聞ける屋外コンサートをはじめ、地酒の講話、心身の健康づくりを目指すリフレクソロジー、みつろうを材料にしたハンドクリーム作り、ひとりでも楽しめる茶道など、気軽に参加できるワークショップを企画し、幅広い年代に取り組み易く多様なプログラムを提供した。 また、事業ガイドやセンターだより等の広報物をあまり手に取らない方々にも情報が届くように、宮城野区役所の電光掲示板や市民センター近隣の運動施設や企業などにも足を運んでチラシを配布したことも相乗し、市民センターの講座に初めて参加する受講者も多く見られ、市民センターの生涯学習事業を知ってもらう機会とすることができた。		

〔令和 3 年度(地区館)事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●ウエルカムひろば	地域の子育て支援団体と連携し、乳幼児親子を対象に育児に関する情報の提供や育児相談を行った。気軽に参加できるよう屋外の芝生広場を会場に実施した。	6 月 1 日 10 月 5 日	2	117
みやちゅうジュニアスクール	小学生を対象に、ジュニアリーダーが学校やジュニアリーダー活動の中で学んだことを教えることで、異年齢交流の場となるとともに、コロナ禍で減っている体験型学習を提供する機会となった。	7 月 10 日 7 月 29 日 10 月 12 日 12 月 25 日	4	151
インリーダー研修会	子ども会についての知識やレクリエーションの進め方などを学ぶ機会を提供することで、子ども会活動の活性化と充実を図った。令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、対面での開催を中止し、動画配信での実施となった。	9 月 10 日～ 9 月 26 日	1	27

《宮城野区》

子ども参画型社会創造 支援事業「キッズもりあげ隊」 (複数年事業)	6月から月1回の企画会議を行い、社会教育実習生との企画講座「防災ヒーロー募集中!」と、地域の小学生や未就学児親子を対象に「キッズ学園クリスマス」を実施した。予定していた講座のうち2回は新型コロナの影響により中止。	6月13日～ 3月30日	10	138
みやぎの大学 せんだい見聞コース	65歳以上を対象とし、仙台の文化資源をテーマにした学習や交流を通して心身の健康維持を目的とした講座を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により予定していた2クラス制10コマを7コマに変更したが、館外学習と座学を織り交ぜ変化に富んだ内容を提供した。	5月14日～ 1月18日	7	107
みやぎの大学 総合コース	地域の高齢者を対象に、学習や交流を通して、心身の健康維持を目指すことを目的に学びの場を提供した。館内で座学を中心に、多様化する社会に対応できるよう、様々なテーマについて学習した。	5月18日～ 2月18日	10	285
原町本通りに伝統七夕 を飾ろう	商店街の衰退や高齢化で七夕の担い手が少なくなった原ノ町商店街の活性化のため、地域住民が七夕飾りを作り、原町商店街に飾ることを通して地域の活性化に関わった。	5月27日 ～7月8日	7	81
出前講座 こんにちは! 宮中です	市民センターの施設利用や講座参加者が少ない宮城野地区に出向き、宮城野コミュニティセンターを会場に、宮城野地域包括センターと共催で認知症講座を実施した。	11月25日	1	36
●Miyachu ギャラリー	地域団体や近隣学校と連携し、館内の展示スペースを活用して、地域住民へ日頃の学習成果の発表を行った。ワークショップや講話を加えることで、コロナ禍でも住民が気軽に参加しながら学習する機会を提供した。	6月1日～ 3月20日	10	3,695
●★みやぎの防災・減災 ひろば	増加する風水害に備え、避難計画マイ・タイムラインを作成した。また、女性の視点で災害を考え知っておくべきことや、いざという時に代用できる備えの工夫について学習した。	11月3日 11月26日	2	43
【中止】 宮城野区中央市民セン ターまつり M フェス	実行委員役員会で開催を検討したが、市内の新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、参加者の安全性等を考慮したうえで中止を決定した。	【中止】 10月16日	—	—
宮城野区中央市民セン ター地域懇話会	管内の学校と地域団体を中心にコロナ禍での現状や工夫について情報の交換・共有を行った。また、市民センターまつり参加団体を中心に開催した回では、2年間中止が続いている市民センターまつりの再開に向けて意見交換を行った。	12月8日 2月9日	2	22

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「おひさまキッズ」の活動支援および地域ぐるみで防災に取り組むコーディネート

地域の子育て支援団体「おひさまキッズ」は、連携事業「ウエルカムひろば」の連携団体のひとつでもある。コロナ禍のため活動休止を余儀なくされ、子育てサロン会場の使用もままならなくなり今後の活動について相談を受けた。活動の再開に向け社会福祉協議会などに働きかけ支援策を探り、令和4年度より市民センターを拠点に毎月の子育てサロン再開へと結びついた。

管内学校からの要望により地域人材を紹介し、授業までのサポートなど多く行っている。その中で防災の講師を探していた仙台大志高校に、地域で防災減災活動に取り組んでいる市民団体をコーディネートしたことから、令和4年度は高校の所在する町内会とも連携し、地域ぐるみで防災に取り組む講座を開催することとなった。

生涯学習支援センター

〔沿革〕

仙台市の公民館は、昭和 21 年に在仙文化人有志による民間団体が主体となって設置されたのが始まりで、昭和 24 年に仙台市公民館条例が制定され、行政機関としての「仙台市公民館」が発足した。その後、各地域の公民館設置とともに、昭和 48 年には「仙台市公民館」を「中央公民館」と改称。昭和 58 年には榴岡図書館とともに現在地に開館し、平成元年には「中央市民センター・公民館」となり、翌年には「中央市民センター」と改称した。さらに平成 26 年 4 月より「生涯学習支援センター」と改称し、仙台市の生涯学習支援体制の充実・強化を図った。

当センターが位置する仙台駅東口周辺は、高い利便性を生かした企業や学校、マンションが混在するとともに、古い歴史ある地域としての顔も併せ持っている。こうした立地条件から、市内各方面からの利用者や夜間の利用頻度も高く、多様な学習活動、市民活動が活発な状況となっている。

なお、施設機能の見直しに伴い、当センターにおける地区館事業は、平成 26 年度より近接する榴岡市民センターの出前講座として実施している。

〔令和 3 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

1 階展示フロアを活用したパネル展示

令和 3 年度は昨年度に引き続き 1 階の展示フロアを活用した「たなばたさろん」を実施し、過去のオリンピック開催年の七夕まつり公式ポスターの展示、小中学生が折り鶴の吹き流しを制作する「仙台七夕折紙―八万羽の鶴」の様子を写した写真展示、吹き流しの再生紙を利用した「宮城野カルタ」の展示などを行った。併設する榴岡図書館も出展し、七夕にちなんだ絵本やミニ吹き流し・短冊などの展示を行った。

また、コロナ禍で開催中止となったサークル体験会の代わりに「サークル紹介展示」を行い、生涯学習支援センターを拠点に活動する 21 団体を紹介した。

〔沿革〕

高砂市民センターは昭和 43 年、高砂小学校校舎を改築し高砂公民館として発足した。昭和 53 年宮城県沖地震で建物が大破し隣接する前高砂小学校給食センターを改築、昭和 54 年に移転した。平成元年「高砂市民センター・公民館」、翌年「高砂市民センター」と改称、その後平成 6 年高砂地区の中心部に複合施設として新たに開館した。

この地区は、七北田川、貞山運河、蒲生干潟、そして南部には広い田園地帯が広がっている自然に恵まれた地域である。また、東北の海の玄関口、物流の拠点である仙台港を配し、背後地には大型商業施設等の進出も相次ぎ、急激な都市化が進んできたが、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災により、沿岸部が津波で甚大な被害を受け、中野地区は仙台市災害危険区域条例に基づき災害危険区域に指定され移転対象地区となった。地区内の 4 町内会は解散し、多くは田子、上岡田、南福室に移転した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★ふるさとを知ろう～蒲生干潟の植物と生き物～		
参加者	鶴巻小学校 4 年生	延参加者	174 人
開催日	全 2 回 令和 3 年 6 月 18 日(金) 6 月 25 日(金)		
協力者・協力団体	連携: 鶴巻小学校		
ねらい	蒲生干潟は震災により大きな被害を受け、このまま環境の回復は見られないのではないかと危惧されていた。ここ数年は徐々に植物や生き物が戻りつつあるが、高砂地区の子どもたちはかつての豊かな海を知らず、また海に足を運ぶ機会もあまり無いように思われる。そこで子どもたちに蒲生干潟の自然の再生の過程や植物や生き物について観察し、学ぶ機会を設け、地域の自然や環境保全を学ぶ機会を提供する。		
概要・成果	観察会の前に学習会を開催して学習の目的や観察のポイントを子どもたちに伝えたことで、事前に学習したことと実際の観察会で得た情報を結びつけることができ、学習の効果が上がった。また身近なふるさとの自然に触れ、子どもたちの意識の高まりや愛着の芽生えなどに繋がった。学習会の後、家族と再び蒲生干潟を訪れる児童も見られ、子どもを通してその親世代にも地域の魅力を伝えることができた。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
高砂 Kids スクエア	小学生を対象に様々な体験を通して、世代間交流や社会性を育むことを目的に「フラワーアレンジメント」「書初め」の体験会を開催した。小学校への出前 4 講座及び星空観察会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。	12 月 24 日 1 月 7 日	2	40
宮城野区インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活躍する児童と世話人を対象に、子ども会活動の充実を図ることを目的に子ども会の意義や児童・世話人の役割、レクリエーションの進め方等を学ぶ機会を提供した。	8 月 6 日	1	18
★花咲く海辺づくりプロジェクト	仙台市立岡田小学校の児童を対象に震災の被害にあいながらもわずかに残された海浜植物の環境再生を目的に、地域団体と協力・連携して植物観察会やポット上げ作業、植栽活動、種まきを行った。	5 月 21 日 7 月 2 日 10 月 19 日 11 月 19 日	4	247
高砂オープンカレッジ	誰でも参加可能な「学び」の講座、館内編で「仙台港建設から現在までの中野」「アロマでリフレッシュ」、出前編で「指ヨガと季節の食」「簡単 DIY」を開催した。なお、音楽 4 講座は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。	6 月 27 日 11 月 25 日 11 月 28 日 1 月 26 日	4	60

高砂老壮大学	高齢者を対象に交流促進と生きがいづくりを目的に、健康、防犯、歴史、洋蘭講話、お笑い、音楽講演を開催した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため5月、9月は中止、6月～11月は2班に分け同一内容で実施。12月以降はホールで間隔を取り実施した。	6月16日～ 2月16日	11	388
高砂市民センター懇話会	町内会及び諸団体代表を対象に地域との信頼関係醸成と地域特性に応じた事業運営を目的に、事業概要説明、地域課題や要望・意見の把握に努めた。2月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止し、書面で要望・意見を確認。	5月14日	1	17
地域で考える「みんなのBOSAI」	運営委員会等を対象に災害への備えと防災意識・技術の向上を目的に企画会、指定避難所訓練を実施してマニュアル修正、災害時の行動・備蓄品の確認をした。女性対象の学習会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。	8月25日～ 12月1日	5	23
★仙台蒲生日和山 山開き登山プロジェクト	被災者等を対象に、歴史的文化の継承と心の復興を目的に、旧中野地区住民や地域団体で実行委員会を構成し企画会を行い仙台蒲生日和山の山開き登山を、コロナ禍の中規模を縮小して開催した。	4月20日～ 7月16日	5	70
★中野ふるさと学校	被災者等を対象に心の復興と地域の活性化を目的に、旧中野地区住民が集い企画会議を行い、地域の歴史継承や再会と出会いの場として学習会や公開授業を開催した。また海辺の清掃活動を開始した。	通年	12	207
高砂アート展	9月に市民センターまつり実行委員会で検討の結果、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、まつりの中止を決定。代替策として諸団体や学校・保育園・幼稚園など作品展示部や地域住民を対象に、活動成果の発表機会と地域住民への交流機会の提供を目的として、「高砂アート展」を開催した。	11月3日～ 12月26日	1	290
★ウィンターフェス ～高砂を元気に！～	地域住民など全ての方を対象に再会の場と癒しの場を提供する目的で、被災地支援者と地域住民が一体となり「地域復興」をテーマに企画会議を行ってコンサート「ウィンターフェス」を開催した。	7月13日 10月14日 12月3日 1月21日	4	88

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

市民センター事業におけるコーディネート業務

市民センターでは学校や地域の各団体のニーズを拾い上げ、様々な交流をコーディネートする役割を担っている。

自主活動団体「中野ふるさと YAMA 学校」が月1回行っている定例会に参加して、ニーズを的確に把握することに努め、自主学習会や移動学習会の企画や講師の選定にあたって助言・協力したことで、会員のモチベーションのアップ、団体活動の活性化につなげた。また、同団体の代行として、「日和山登頂証明書」の発行も通年行っており、団体活動の周知にも貢献した。

ジュニアリーダー「高砂フレンズクラブ」の月1回の定例会開催を支援するとともに、メンバーへの情報伝達や活動報告、ジュニアリーダーへの活動要請の調整や学習会を行う等の支援により、各自のモチベーション維持やスキルアップを図った。

岩切市民センター

〔沿革〕

岩切市民センターは昭和 56 年に開館した「岩切公民館」を前身とし、平成 2 年「仙台市市民センター条例」により「仙台市岩切市民センター」と改称された。平成 18 年 6 月から 12 月まで大規模改修が行われ現在に至っている。建物内部には市民センターのほかに、保健センター、老人憩の家、コミュニティ防災センター資機材倉庫が併設されており、さらに平成 22 年 3 月より岩切証明発行センターが併設された。

当地区は宮城野区の北東部に位置し、美しい田園風景が広がる。古からの歴史と文化を伝える神社、仏閣、遺跡が点在している。近年は岩切駅前地区の再開発により若い世代の人口増加が著しい。人々の学習意欲は高く、自主サークル活動が盛んに行われてきた地域である。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	すずむしりんりん講座		
参加者	出前授業：岩切小学校 4 年生・仙台 ECO 動物専門学校・七郷児童館 配布会：どなたでも 実験放虫：実行委員	延参加者	276 人
開催日	全 4 回 令和 3 年 6 月 24 日(木)、6 月 30 日(水)、8 月 3 日(火)、9 月 4 日(土)		
協力者・協力団体	すずむしの里づくり実行委員会、岩切小学校、まちづくり推進部宮城野区中央市民センター、岩切地区町内会連合会、仙台 ECO 動物専門学校		
ねらい	都市化が進むことで失われつつある自然環境の中、仙台市の虫・スズムシを飼育し、自生させる活動を通して、多くの市民が自然に興味を持ち、人とスズムシが共存できる潤いのあるまちづくりを目指す。		
概要・成果	岩切小学校 4 年生（5 クラス 186 名）を対象に 6 名の実行委員がスズムシの生態や飼育方法などについて出前講座を行った。児童がスズムシの体のつくり、音の出し方や意味などについて学ぶことで、子どもたちの興味喚起を図ることができた。 配布交換会は、コロナ禍で平日開催だったにもかかわらず、77 名の来場者があった。例年行っていた岩切市民まつりにおけるすずむしの普及活動は、新型コロナウイルス感染症の影響により、まつりが 2 年連続で中止となったため、実施できなかった。コロナ禍で活動自体が制約された中ではあるが、出前講座の実施や配布会を通じて仙台市の虫「スズムシ」の理解と環境への関心を高めることに寄与できた。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ママとキッズの Happy Time	見守り託児付離乳食の講話、手形足形のアート作品づくりの出前講座、育児中のママ向けヨガ講座を実施した。親子でたくさんふれあい、同じ立場のママ同士の仲間づくりや情報交換の場として充実した時間を過ごすことができた。	7 月 2 日 10 月 14 日 2 月 22 日	3	38
家庭教育地域交流会	岩切地域で小中学生の教育に関わっている 6 団体が、子どもたちに関する地域の課題について話しあい、企画講座として「太神楽曲芸」と「SDGs って何？」を実施した。	6 月 8 日～ 12 月 12 日	7	145
●岩切子育て応援事業	子育てに関連する地域の 21 団体からなる「いわきり子育てネットワーク」と共催し、岩切子育て情報リーフレット「IKoNet（防災版）」作成や子育て講座の開催、市民センターロビー展示による情報発信等にネットワーク所属の各施設が団結して地域の子育て世代への支援に取り組んだ。	5 月 12 日 ～1 月 7 日	17	207

インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染症対策として、夏休みに熱中症対策をとりながら 6 年生と世話人を対象に開催した。子ども会の意義や活動計画についての講話やジュニアリーダーとともに主体的なレクリエーションゲーム実演、世話人同士の情報交換等を行い、子ども会活動の活性化につなげた。	8 月 5 日	1	21
ジュニアリーダーとあそぼう！	新型コロナウイルス感染症の影響で当初計画をしていた形での講座実施が難しかったが、「子どもの広場であそぼう！」にて玉入れゲームコーナーをジュニアリーダーが主体的に企画運営することができた。参加児童や地域ボランティアと世代間交流を図り、地域活性化に繋がった。	11 月 27 日	1	32
岩切小学校地元学連携講座	岩切地区に古くから自生するカラムシを題材に、地元の小学生が地域講師からその歴史や素材の活用方法などを学び、地域への興味と関心を高めた。コロナ禍での感染対策のため、広い教室で行った。	7 月 13 日 10 月 5 日 10 月 6 日	3	372
岩切老壮大学	高齢者を対象に、歴史、健康講話や音楽、演芸鑑賞、軽体操などの実技講座を開催した。コロナ禍での感染対策として、会場を研修室から体育館に変更して開催した。	6 月 16 日 ～3 月 9 日	10	372
●学びの広場 岩切アカデミー	市民センター利用促進や町内会住民同士の新しい交流、新しい学習の場の提供を目的とし、ダーツ、一輪挿しづくり、認知症についての講話、太極拳の体験講座を開催した。太極拳は新しいサークル化に繋がった。また、図書ボランティア活動の活性化へつなげることができた。	6 月 4 日～ 12 月 22 日	5	82
【中止】 岩切市民まつり	実行委員会で開催を検討したが、市内の新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、参加者の安全性等を考慮したうえで、中止を決定した。	【中止】 10 月 31 日	—	—
岩切市民センター懇談会	岩切の地域課題や地域づくりについて、町内会をはじめ地域の諸団体や市民センターを利用している方々と情報交換を行い、市民センターの事業運営等に反映することを目的に実施した。	11 月 13 日 2 月 22 日	2	21
考えよう！岩切の防災	岩切地区では地震や水害に対する備えが必要なため、補助避難所となる市民センターで避難所運営マニュアルの策定と避難所開設訓練を実施した。	6 月 25 日 9 月 29 日 12 月 4 日	3	82
子どもの広場（居場所）づくりボランティアの養成	毎月 1 回、体育館を子どもの広場として開放し、子どもたちに様々な遊びを体験させ、それを見守るボランティアの養成に繋げる講座を行った。感染対策として種目を厳選しながら開催した。また、熱中症対策として、夏場は研修室での開催とした。	5 月 29 日～ 1 月 29 日	7	62

【令和 3 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「ジュニアリーダー」への活動支援

岩切市民センターを拠点に活動するジュニアリーダー「岩切ガンキリーズ」は、令和 3 年度に 5 名の新規加入があり 11 名での活動となった。10 月に開催された岩切児童館主催の「ハロウィンコレクション・フォトスポットで写真を撮ろう」では、地域の各施設に置かれたフォトスポットのうち、市民センターロビーに置くフォトスポットを飾り付けるためのバルーンアーチ作成やそれにかかる広報をジュニアリーダーと共に行った。これにより、ジュニアリーダーとしての成長や活動の活性化に繋げることができた。また、継続的な活動ができるよう、定期的にジュニアリーダー同志の親睦を図り、ジュニアリーダーとしての資質や技術の向上を図るためのバルーンアート研修会の開催等を行うことで活動の支援に努めた。

鶴ケ谷市民センター

〔沿革〕

鶴ケ谷地区は、仙台市が大型モデル団地として開発し、昭和 43 年から入居を開始した住宅団地である。

鶴ケ谷市民センターは昭和 47 年 5 月 22 日、団地の完成とともに RC3 階建、温水プールを併設する施設として開館した。その後、地域住民から生涯学習への要望が高まり、昭和 59 年から岩切公民館の協力を得て、各種の講座を開始したが、本格的に生涯学習が展開されたのは、平成元年に市民センター・公民館として発足してからのことである。平成 4 年 4 月には児童館が併設され、地域の生涯学習・児童福祉・コミュニティづくりの拠点となった。

平成 23 年 3 月の東日本大震災により鶴ケ谷市民センターが被災し使用不能となったことから、平成 24 年 3 月から近傍に仮事務所を設け生涯学習事業を行ってきた。平成 28 年 4 月 2 日からは、第一市営住宅団地再整備地内に市民センター（単独館）を移転・新築して開館し、地域の生涯学習・交流・コミュニティづくりの拠点として多くの人々に利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議「女性のいきいきライフ in 鶴ケ谷」		
参加者	地域の成人女性	延参加者	43 人
開催日	全 9 回 令和 3 年 6 月 11 日(金)～12 月 17 日(金)		
協力団体	宮城県障害者福祉センター		
ねらい	鶴ケ谷地域は仙台市の中でも高齢化率が高く、一人暮らし高齢者の割合も増加している。さらに、新型コロナウイルス感染症の流行により外出に消極的にならざるを得ない状況となっている。そこで、地域の女性を企画委員として募集し、楽しく交流を深め、互いに協力しあえる仲間づくりを推進する。また、企画委員としての講座の企画・運営に携わる活動を通し、地域づくりの一翼を担う人材の発掘・育成を目指す。		
概要・成果	新型コロナウイルス感染拡大防止のためひと月遅れのスタートとなったが、企画会議では委員全員が既に具体的な企画を考えてきており、その後の講座の組み立てや広報もスムーズに進めることができた。コロナ禍での安心・安全な開催を第一に、会場レイアウトや感染予防対策、交流会の進め方などの検討を重ねた。初回講座では受講生同士での自己紹介や雑談の場を通じた交流を図り、講座受講生から「皆さんと仲間になれる気がしました」と非常に好評であった。また、講座を重ねる度に企画委員が受講生同士の交流を促すよう積極的に声がけを行うなど、企画委員の行動変化が見られるようになった。講座受講生のアンケートには多くの感謝の言葉が寄せられ、企画委員の励みや達成感となり、企画委員の経験をそれぞれのサークル活動や地域活動に活かしていきたいという意欲的な発言が出るなど、地域づくりに尽力する人材の育成につながった。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子ではっぴい講座	未就学児親子を対象に知育講座や親子体操、母親同士の情報交換等を定期的実施し、コロナ禍での自粛生活の解消、子育てする母親の不安解消・孤立予防を図り、子育て支援を行った。	5 月 20 日 6 月 25 日 10 月 29 日 12 月 24 日	4	59
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会最終学年児童と保護者を対象に子ども会活動を支援する。資料の配布と YouTube 視聴による研修会となり、通常開催と比較して充分とは言えないものの、リーダーの役割や心構え、行事計画の作成や進め方を学ぶ機会となった。	9 月 10 日～ 9 月 26 日	1	17

《宮城野区》

鶴ヶ谷キッズステーション	小学生を対象に、学校では体験できない葉脈づくりや魚の解剖、サバイバルゲーム体験や、地域の資産である「ひょうたん沼」での観察会を開催し、探求心や創造性、学習意欲の向上を図るきっかけづくりが行えた。	5月29日～ 3月13日	6	75
君もプチレスキュー	仙台市防災・減災アドバイザーによる講座で、中学生が地域住民とともに備蓄などの防災知識を深めることができた。	11月9日	1	89
子ども参画型社会創造支援事業「つるっこ画樹園！～実れ鶴心～	中学生を対象に、地域の一員として地域づくりに関わるため、地域の魅力（自然・人・交流）を探るとともに、美術展の企画・準備を通じて企画力、コミュニケーション力の向上を図ることができた。また、地域を笑顔にする交流の場を経験することで、地域への愛着を育むことに繋げた。	4月27日～ 3月16日	22	601
市民企画講座「女性のいきいきライフ in 鶴ヶ谷」	地域住民を対象に、ひとり暮らし高齢者の増加とコロナ禍に伴う孤立という地域課題解決を目的に、市民企画委員による同年代女性の学習ニーズに沿った講座を実施して交流を図った。	10月7日 10月22日 11月11日 11月30日	4	63
鶴ヶ谷ことぶき大学	地域の高齢者が、定期的に集い、幅広い学習テーマの場を提供することで、高齢者の孤立や引きこもりの防止、仲間づくり、生きがづくり等、心身の健康維持を目指し開催することができた。	5月19日 ～1月19日	7	225
つながれ すずむしの里	小学生を対象とした出前授業を行い、仙台市の虫「スズムシ」の生態や飼育を通じて自然環境や命の大切さを学ぶ機会を提供した。新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、1校は資料配布のみとなった。また、スズムシ配布会では、飼育の仕方や交換会を通じて地域住民の交流を促進した。	7月6日 7月31日 9月7日	3	232
【中止】 鶴ヶ谷市民センターまつり	地域諸団体や市民センター利用サークルで実行委員会を組織し、地域住民が気軽に交流し楽しめる企画を検討したが、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、中止とした。	【中止】 10月23日	—	—
鶴ヶ谷市民センター懇話会	町内会、地域諸団体、市民センター利用団体を対象とした地域懇話会を開催した。その中で事業への取組状況等を説明するとともに地域課題（地域情報）や市民センターへの意見・要望を把握した。収集した情報を踏まえて、事業及び活動支援などへ反映した。	6月3日 9月2日 2月17日	3	28

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

図書ボランティア「もくれんの会」の活動支援

図書ボランティア「もくれんの会」は、令和3年度中65日の活動日で延べ679人の利用者に対し1,406冊を貸し出すことが出来た。図書室再開のチラシの配布や図書室通信の発行など、積極的に広報を重ね、新たに100名近い利用登録者の獲得につながった。また、図書ボランティア研修会として、地域住民と合同のブックコーティング研修会を7月と1月に開催し、メンバーのスキルアップとともに新規メンバー2名の加入につながった。地域住民からの寄贈本も意欲的に受け付け、420冊の図書を整備した。

市民センターでは、事務局として月1回の定例会開催準備、調整、資料作成、図書整備に必要な物品の手配、研修会広報および講師との連絡調整等、図書ボランティア活動のレベルアップを図るための幅広い支援業務を行っている。

榴ケ岡市民センター

〔沿革〕

榴ケ岡市民センターは、日本住宅公団の高層共同住宅の建設に伴い、一階・地階部分の一部を市民会館の分館として位置付け、昭和 48 年 6 月に開館した。平成元年 4 月には公民館が併設され、翌年 4 月に「榴ケ岡市民センター」に改称された。平成 24 年 7 月 31 日にはそれまでの本館を閉館し、同年 8 月 28 日に榴岡公園軽体育館の名称を「榴ケ岡市民センター」へ変更して現在に至っている。

当市民センターは、市民の憩いの場である榴岡公園に隣接し自然環境に恵まれ、近くには仙台市歴史民俗資料館、国の合同庁舎、楽天生命パーク宮城などがある。中心市街地として都市基盤整備が進み古くからの街並みが日々変化している中、新旧地元住民の交流の場として、また各種会合や生涯学習活動の場として多くの人々に利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	東口ゆうえんち企画会		
参加者	高校生以上	延参加者	65 人
開催日	全 10 回 令和 3 年 7 月 3 日(土)～令和 4 年 3 月 26 日(土)		
協力者・協力団体	まちづくり推進部宮城野区中央市民センター		
ねらい	小学生を対象に家庭や学校では経験できない学びや楽しめる場の提供等を目的とする事業「東口ゆうえんち」に関わる企画員の方々は、立場や年齢が違っていてもお互いを尊重しながら主体性を持って活動し、コロナ禍でも臨機応変に新たな取り組みにも挑戦してきた。その様子が地域の子どもたちにも良い影響を与え、世代を超えた地域づくりにつながっている。令和 3 年度は、スタッフの柔軟な発想と行動力をさらに活かせるよう「東口ゆうえんち企画会」として事業を立ち上げ、宮城野区中央市民センターとの共催にて実施する。		
概要・成果	コロナ禍により実施できなかった企画もあったが、公園内のミッションをクリアしゴールするゲーム「榴岡公園クエスト」は、企画員が工夫を凝らし感染対策をとりながら実施することができた。また、共催先である宮城野区中央市民センターの協力によりオンライン企画会議を初めて開催するとともに、他館で活躍する市民企画員と交流を兼ねた合同研修会にも挑戦しスキルアップの機会にもつなげることができた。 地域の子どもたちのために長く活動が続けている社会人企画員に加えて、大学の一サークルが代々関わってくれるようになり、大学を卒業し社会人になっても継続して活動する人材になってくれている。これにより、さらに充実した事業の企画につながり、企画員同士の活発な交流を図ることができた。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●まごまごしない孫育て	おかえりマゴと題してコロナ禍により帰省できずにいた孫と過ごすために、今の育児や子どもの発達、成長に必要な栄養、遊び方などについて学んだ。	12 月 8 日 12 月 17 日 12 月 23 日	3	26
インリーダー研修会	子ども会の核となるリーダーと世話人を対象に、子ども会に関する知識やレクリエーションゲームを学ぶ機会として実施した。密を避けるためタブレットを用いた中継を行った。	8 月 4 日	1	24
東口ゆうえんち	子どもたちが安心・安全に楽しく一緒に遊べる場として開催。7 月「ウォーターバトル」と 2 月「東口特撮工房」は新型コロナウイルス感染症の影響で中止としたが、11 月「榴岡公園クエスト」は実施することが出来た。	11 月 14 日	1	11

《宮城野区》

つなげよう 平和のバトン	仙台空襲や戦争について学びを深めることで平和の大切さを再認識する機会として、榴岡小学校 6 年生を対象に地域が伝える平和学習を実施した。	12 月 13 日	1	141
東口ますます元気教室	心身の健康に役立ち介護予防につながる運動、ストレッチ、口腔ケアや受講生同士の交流を深めながら脳トレにもつながる輪投げなどを実施した。	6 月 16 日～ 12 月 15 日	4	73
榴ケ岡老壮大学	高齢者を対象に、介護予防、まち歩き、川柳に挑戦、地域の名所と旧跡を学ぶ講座等を開催したが、1 月～3 月は感染者が急増したため、受講生の安全を第一に考えて中止とした。	5 月 20 日～ 12 月 16 日	7	288
榴ケ岡寺子屋	魅力ある榴岡を目指し、福祉編、防災編、歴史編を 3 本柱として取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の影響により歴史編は中止したものの、福祉編、防災編についてはより実践的かつ充実した内容の講座を開催することができた。	5 月 21 日 ～3 月 11 日	8	107
【中止】 榴ケ岡市民センター まつり	6 月に準備委員会を開催し、with コロナでまつりを実施することに決定し、開催に向け準備を行ってはいしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第 2 回実行委員会で中止の決定をした。	【中止】 10 月 2 日	—	—
榴ケ岡市民センター 懇談会	1 回目は、施設利用のサークルとの懇談会を行い、コロナ禍での活動状況、創意工夫等について情報交換を行った。2 回目は、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、中止した。	6 月 5 日	1	11
地域で叶える小学生 の夢～憧れのバスガ イドになってみよ う！～	榴岡小学校 6 年生の児童が東口ガイドボランティアの方々から事前にリモートで学習をし、それをもとにバスガイドに挑戦した。当日は保護者の方や地域の方にも参加していただいた。	2 月 25 日 3 月 19 日	2	209
地域をキラキラにする 企画会	6 月から企画会を行い、コロナ禍のため一度は企画講座を諦めたが、榴岡小学校との連携講座を年度末に開催した。また、動画編集にも挑戦した。	6 月 13 日～ 3 月 20 日	12	27

【令和 3 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」の活動支援

東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」は、毎月 28 日に開催している定例まち歩きや地元小中学校の総合学習及び地域学習のほか、自らが主催する公開講座などに取り組み、楽しみながら地域の歴史的資産や文化を伝える活動を行っている。令和 3 年度、「宮城野さんぽみち」は、榴岡小学校 6 年生がバスガイドとなって歴史文化施設を案内するイベントのサポート役を 4 か月にわたって行った。そのサポートの内容は、榴岡地区を熟知している「宮城野さんぽみち」ならではの小学生がバスで案内するコースの選定、説明する口述資料の作成をコロナ禍のためオンラインで実施、さらにイベント当日は小学生ガイドの補佐役としてバスに同乗してサポートするなど、小学校側と密接に関わりつつ、イベント成功の中心的役割を担った。

市民センターは、円滑なイベント開催に向け、榴岡小学校、宮城野区中央市民センターとの会議や調整を図り、「宮城野さんぽみち」の活動に遺漏のないように後方支援に努めた。

東部市民センター

〔沿革〕

東部市民センターは、昭和 47 年 5 月に旧保健所庁舎の一部を改装し開館した「東部市民福祉会館」を前身としている。昭和 58 年 4 月に改築され、平成に入り「東部市民センター」に改称、平成 5 年 4 月には「東部児童館」が併設されている。当市民センターの中学校区は東仙台中学校、小学校区は東仙台小学校・新田小学校が管轄である。

周辺には、J R 苦竹駅・陸前原ノ町駅・小鶴新田駅・東仙台駅があり、仙石線、東北本線、貨物線、新幹線等が通る鉄道景観が見事に交錯する街並である。

さらに、当センターは宮城野区役所から北東へ約 0.7km の地点に位置し、南に国道 45 号線と北に利府街道、その中間を跨ぎ繋ぐ形で、通称「中原地区」といわれる住宅地にある。また、付近には、東仙台・苦竹・原町・自衛隊仙台駐屯地など、それぞれに歴史を持つ住宅地や商業地が広がっている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★市民企画会議「今だからこそ、地域防災を見直そう！」		
参加者	東仙台中学校 防災ボランティア11人	延参加者	78 人
開催日	全 9 回 令和 3 年 6 月 30 日(水)～10 月 29 日(金)		
協力者・協力団体	東仙台中学校		
ねらい	東日本大震災当時、中学生が地域で活躍した記録が残されていることがわかった。そこで、次の地域の防災・減災の担い手を育て、また、記憶を風化させないために、中学生の意見を取り入れ、令和 2 年度の企画内容を修正しながら講座を企画・開催し、状況に応じた地域防災力の向上を図る。また、東仙台中学校と連携することで、東日本大震災の記憶のない世代が防災・減災について考える機会とする。		
概要・成果	東仙台中学校開校から保管されている文集の中から、災害に関するものを見つけその文集を朗読、ナレーションなどを加え朗読劇を作成した。卒業生の文集という身近な作品を取り上げたことで、中学生が災害について考える機会を提供することができた。また、震災の記憶のない中学生が今回の経験で得た知識を多くの人に伝えていくということにより、今後の地域防災力の向上につなげることができた。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子おうえん！子育てひろば	コロナ禍で外出の機会が減っている乳幼児親子を対象に開催した。①七夕であそぼう！七夕に関連するうちわシアター、ふれあいあそび、工作等。②絵本の読み聞かせと選び方 0 歳からの月例に合わせた絵本の選び方や読み聞かせ、わらべ歌等を行った。	7 月 30 日 1 月 25 日	2	15
キッズのわくわくタイム	新田総合運動場指導員から小学生へニュースポーツを教えてもらった。みやぎ木材文化ホールで小学生親子に木の貯金箱作りを行った。小学 3・4 年生対象に書きぞめの練習会を実施しロビーで作品展を開催した。	7 月 28 日 10 月 9 日 12 月 25 日 1 月 15 日	4	103
子どもとつながるプロジェクト@東仙台	小学生が地域で活動する大人と竹細工の工作や配食カード作成のボランティア、日本の伝統文化である年賀状の作成を通して交流した。	7 月 31 日 10 月 29 日 12 月 18 日	3	30

子どもとつながるプロジェクト@新田	新田児童館児童クラブにクリスマスカード作成を依頼し新田よろこびの会の見守り時に高齢者宅に届けてもらった。新田小児童に郵便の歴史や年賀状の書き方、郵便ポストへの投函を体験した。	12月14日 12月18日	2	132
インリーダー研修会	子ども会の活動の充実を図るため、児童、世話人への講話を行った。実技では子どもたちが、世話人とともにゲームの実践を行った。	8月4日	1	31
老壮大学 「東部いきいきスクール」	60歳以上の高齢者45名が在籍。5月から3月まで月1回水曜日、歴史、教養、健康などのテーマで開催した。	5月19日 ～3月9日	8	207
はつらつ健康ライフ	コロナ禍で運動の機会が減った高齢者を対象に、自宅でも継続可能な運動を紹介した。バレトンやダンスなど初めて体験するものが多く刺激になったとの声もいただいた。	11月2日～ 12月7日	5	124
TOSEN COMMUNITY ～中学生と交流しよう～	東仙台中学校の生徒作品を地域の方々に鑑賞してもらう展示会を開催した。卓球部と地域の卓球サークルとの交流試合を予定していたが、コロナ禍の影響により中止とした。	3月10日～ 3月18日	1	35
サークル体験会	名取盤友会、コールさわやかの2団体にご協力いただき、サークル活動の体験会を実施した。ほか2団体が実施予定であったが、参加申込が無く、中止となった。	1月23日 1月26日	2	4
【中止】東部ふれあいまつり	まつり実行委員会と開催を検討したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。	【中止】 10月3日	0	0
東部ふれあいコンサート	市民センターを普段利用しない方でも気軽に参加できるコンサートを開催した。全2回の内1回を当センターで活動するサークルに出演してもらうことで、サークル活動の活性化につながった。	12月11日 2月9日	2	40
東部市民センター地域懇談会	連合町内会・学校関係者・地域関係機関の代表を招き、市民センター・児童館の目的・取組等の説明や地域の現状や要望等を伺い、館の運営、地域連携へと役立てた。2回目は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	6月25日	1	20
市民企画講座「災害における中学生の経験を中学生の言葉で伝えよう！」	東日本大震災の経験を今の中学生に伝えるため、当時中学生であった卒業生から体験談と質疑応答を行った。	11月10日	1	9

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

まち歩きボランティア「東仙台輝き歴史クラブ」への活動支援

「東仙台輝き歴史クラブ」は、東部市民センター主催事業「まち歩きボランティア養成講座」の受講者により平成30年1月に結成された。

月1回の定例会、地域の歴史探索のための研修会、東仙台・新田地域の街歩きなどを企画し、実施していたが、新型コロナウイルス感染症のためこれまで通りの活動を行うことが難しくなった。そこで、年1回、市民センターまつり展示でしか目にふれる機会がなかった歴史資料やジオラマ作品を市民センター館内に常設展示し、いつでも一般の利用者や地域の方に観てもらえるようにしたところ、関心のある方からの問い合わせや資料閲覧のための来館、新たなメンバー加入があるなど、会の活動支援につながった。

幸町市民センター

〔沿革〕

幸町市民センターは、平成 5 年 4 月 20 日、幸町児童館及び幸町コミュニティ防災センターを併設した複合施設として開館した。令和元年度には大規模修繕を実施し、令和 2 年 4 月に再開した。

当市民センターがある幸町中学校区は、大型商業店舗の進出、民間マンションの建設などで町並みの変容著しい幸町・大槻地区と、与兵衛沼、柝江の森などの緑豊かな自然に恵まれた柝江地区からなる。仙台市ガス局や県・市障害福祉センターなどの公共施設や、きぼう園、いずみ授産所などの福祉施設とともに、国、県、市の公営住宅があり、民間も含めて集合住宅が多い地域でもある。また、平成 26 年度には復興公営住宅も完成した。高齢化が進む中、子育て中の世代や若年層の住民の増加もみられ、ここ数十年で地域の環境は大きく変化した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	柝江の森魅力発信プロジェクト～柝江の森を感じるひととき		
参加者	地域住民	延参加者	71 人
開催日	全 3 回 令和 3 年 11 月 13 日(土)、11 月 14 日(日)、令和 4 年 3 月 1 日(火)		
協力者・協力団体	柝江の森魅力発信プロジェクト市民企画委員		
ねらい	柝江小学校の敷地内に隣接する「柝江の森」の活性化を目的とする市民企画会議「柝江の森魅力発信プロジェクト」が、地域住民に柝江の森の魅力を発信し、森に親しんでもらうために企画した事業である。 参加者に、森の中で森の役割や五感を使ってその楽しさを体感してもらう。さらに、地域住民に地域を知ってもらう機会とし、企画員と参加者の地域交流の場とする。		
概要・成果	柝江の森魅力発信プロジェクトの市民企画員が中心となり、次の 3 事業を企画し、実施した。「柝江の森展示会」では、市民センターまつりの会場に柝江の森の魅力をパネル展示し、森で採取した材料を使って工作する参加型展示コーナーも設け、子供にも楽しみながら柝江の森に親しんでもらうことができた。「柝江の森散策会」では、企画員のメンバーが現地で案内した。森の存在は知っていても、森の中に初めて入った方も多く、地域の良さを知ることができたと好評だった。「地名に残る縄文風景を探るー幸町と藤川ー」では、東北文化学園大学工学部教授の八十川淳氏の講演会を行い、アイヌ語と地名の関係から、大昔の幸町地域の風景に思いを馳せることができた。 コロナ禍の中、感染防止対策の企画は入場制限を行ったり、定員を少人数に定めたりしながらの開催となったが、事前申し込みはほぼ定員となり、地域の宝である「柝江の森」への地域住民の関心の高さがうかがえた。また、地域住民である企画員が企画したことにより、地域住民の視点やニーズを取り入れた企画となり、参加者が企画員と共に柝江の森に十分親しみ、地域への愛着を深めることができた。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育てママのリフレッシュ応援講座	乳幼児親子を対象に、母親同士が楽しい時間を共有しながら情報交換ができるよう支援することを目的として、絵本の創作やコンサートを開催した。	7 月 28 日 12 月 9 日 1 月 28 日	3	79
さいわいどんぐりクラブ	新型コロナウイルスの感染拡大により全 5 回中 2 回実施。小学生を対象に自主性や創造性を育むことを目的とし、エッグクラフト、天気の話と実験、防災ランタンづくりを実施した。	7 月 24 日 10 月 23 日	2	58

仙台市子ども会イン リーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、児童と世話人を対象に子ども会活動についての知識や心構え、レクリエーションやゲームの進め方を実践的に学んだ。	8月6日	1	36
さいわい手芸倶楽部 ～ほっこり布遊び	新型コロナウイルスの感染拡大により全5回を3回に変更。手芸療法を取り入れ、市民の心身の健康に寄与し、自主的な学びの場を作ることを目的に実施。和布でうさぎの雛人形とブローチを制作。	1月25日 2月1日 2月8日	3	32
幸町生涯大学	邦楽演奏会・ブックトーク・感染症に関する講話・墨絵を描く・歴史講話・チョコレートに関する講話・ダーツゲーム・高度経済成長期の講話を開催。館外学習は新型コロナウイルスの感染拡大により中止。	5月20日～ 2月17日	8	223
心ゆったりリラックス講座	コロナ禍により外出する機会や人と関わる機会が減少してきているため、地域住民を対象にコンサートとヨガを行い、リラックスできる機会を提供した。	6月26日 10月28日 2月9日	3	68
出かけよう！自然観察で再発見	枹江地域の与兵衛沼で身近で豊かな自然に触れる機会として、植物観察と野鳥観察の散策会を行った。虫の声を楽しむ会は中止となった。	6月12日 11月27日	2	32
【中止】 災害への備えー安心して暮らせる街へ	小学生を対象にした災害直後の対応や在宅避難についての講座、未就学親子を対象にした在宅避難の方法と非常食についての2講座を計画していたが、子供を対象にした事業の自粛により中止とした。	【中止】 2月9日・ 15日	—	—
第23回幸町市民セン ターふれあいまつり	ふれあいまつり実行委員会との協議の結果、今年度は市民センター主催で開催することとなった。作品展示は4日間ステージ発表に代わる動画放映は2日間に渡って開催した。	11月12日 ～11月16 日	4	285
幸町市民センター地 域懇談会	①市民センターの事業・運営について説明し、地域の課題の確認と情報共有を行った。②書面開催とし、今年度の事業報告と来年度の計画について資料を送付し、意見・要望等を返送するように依頼した。	6月25日 2月25日	2	36
市民企画会議「枹江の 森魅力発信プロジェ クト」	5年計画の4年次である。枹江小学校に隣接する「枹江の森」を小学生や地域の方々がより身近で愛着を持てるように、毎月定例会を行い、「枹江の森を感じるひととき」の3事業の企画して行った。その活動報告と森の魅力を情報発信した。	6月5日～ 3月5日	10	39

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

市民センターで活動しているサークルへの活動支援

市民センターに図書室があるが、令和元年度の改修工事及び令和2年度からのコロナ禍の中で、図書ボランティアメンバーが減少し、図書の貸出がままならない状況となった。そこで令和3年度に新規ボランティアを募集したところ、8名に増え、12月から図書ボランティアの活動を再開することができた。月2回の活動の中で、貸出の準備や本の整理、貸出・返却業務等を意欲的に進めている。月1回開催される定例会では、市民センター・児童館職員も参加し、図書室の運営について本の整理及び貸出業務等への助言を行っている。ボランティアの方自身から、活動日を増やしたいという意見や活動に生かせる知識やスキルについても積極的に話し合いがなされており、自主的な活動へ発展できるよう児童館と共に活動を支援している。

田子市民センター

〔沿革〕

田子市民センターは、平成 11 年 8 月、仙台市で 53 番目の市民センターとして開館し、児童館とコミュニティ防災センターを併設し、多目的ホール、会議室 2 室、和室 2 室、調理実習室、児童館図書室などを備えている。

当市民センターの位置する田子地域は仙台市東部に位置し、市中心部と直結する JR 仙石線(最寄駅:福田町駅)や国道 45 号線等に近い交通の利便性のよさから開発が進み、人口が増加している。半面、平成 27 年頃から 65 歳以上の高齢化率が緩やかに上昇してきている。幼稚園や小中学校、高校等の教育施設にも恵まれ、地域リーダーとして活躍する人材が豊かで、地域づくりに関する住民意識も高く、地域防災訓練等の特色ある活動が活発に行なわれている。当市民センターは、これらの立地条件を活かしながら、地域団体や学校との連携に努め、事業を展開している。

こうした中、平成 26 年度には田子西復興公営住宅に 160 世帯余りが入居し、田子西町内会が設立された。平成 27 年度は、田子西第二復興公営住宅への入居と集団移転用地への移住が開始され、平成 28 年 4 月、田子西こだま町内会、田子西中央町内会、田子西三丁目町内会が設立された。田子市民センターの管轄エリアは田子小学区 10 町内会、高砂小学区 4 町内会となった。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●複数年事業「田子今昔物語」		
参加者	成人	参加者	114 人
開催日	全 15 回 令和 3 年 4 月 23 日(金)～令和 4 年 3 月 18 日(木)		
協力者・協力団体	まちづくり推進部宮城野区中央市民センター		
ねらい	平成 28 年から取り組んできた市民企画により、令和元年度に作り上げた地域の旧跡や歴史を紹介したリーフレット「田子今昔物語」を活用し、成人向けまち歩きや田子小学校 3 学年の総合的な学習と連携し田子の魅力を伝える役割を果たしてきた。また、令和 2 年度にはリーフレット「田子今昔物語～福田町界隈～」を作成した。令和 3 年度は、地域の魅力を掘り起こし、田子今昔物語まち歩きボランティアガイドとしての必要な知識を学習する時間を設け、深化させ、活動への向上を目指す。また、田子地区の新旧住民の交流を深める一助とする。		
概要・成果	令和 2 年度までの取組みで完成させたリーフレットを活かし、その成果をどのように地域に還元させるかを企画会にて検討をして、地域住民対象のまち歩きや中学生向けの歴史講座を実施した。 また、ボランティアガイドとして、まち歩きを案内するためのスキルアップ講座も行い、実際にまち歩き等に参加した住民や中学生の気づきや視点を生かしながら、自主企画や資料作りにも意欲的に取り組んだ。その取り組みの成果は、地域学習の担い手として人材育成に繋がった。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
みんなニコニコ♪子育て広場	乳幼児親子を対象に、産後ダンスや手形アート等、親子間のふれあいを深め、日頃のストレスを解消し明るく健康的に生活ができる講座を実施。コロナ禍の影響により 2 回中止とした。	7 月 30 日 11 月 25 日 12 月 15 日	3	41
田子小学校連携事業「田子のお宝を発見しよう」	中学生には、地域理解を目的に地域学習を 2 回、校内成果発表会 1 回を実施した。田子小学校へは、「田子今昔物語」講座から資料のテキストを渡すことにより学習を支援した。	7 月 2 日 7 月 9 日 10 月 7 日	3	165

仙台市子ども会イン リーダー研修会	子ども会が充実した活動ができるよう、令和３年度リーダーとなる児童と世話人を対象に、子ども会活動の意義やみんなで楽しめるレクリエーションゲーム等について学ぶ機会を提供した。	８月３日	１	１６
田子老壮大学	高齢者が交流を深め、生活に充実感が持てるようにすることを目的に、健康・防犯・食育等の講座を実施した。コロナ禍の影響で開講及び閉講が当初の予定よりひと月遅れとなった。	６月９日～ １２月８日	５	１１６
みんなで学ぶ地域防 災	地域住民が、防災・減災についての認識を深め、自ら安全な避難の大切さについて考え、地域の防災意識を向上させるために、地域の実情を踏まえた研修会を実施した。地域合同での防災訓練は中止となった。	１０月１５日	１	２６
【中止】 「高砂音頭」を知って いますか？	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当初予定していた６～７月の開催ができなかった。３月の開催を再計画したが、市内の感染状況を踏まえ、止む無く中止とした。	【中止】 ６～７月 ３月３日	—	—
出前講座「ウェルカ ム！田子西」	田子西町内会のみ実施。震災移転後、家に籠りがちな住人の孤立感を防ぐために、簡単工作・「写真で見る昭和の仙台」を実施。参加者同士の話がはずみ日頃の閉塞感を和らげることが出来た。	１１月５日 ２月４日	２	３１
たごの音楽会	転入者が多い田子地域で新旧住民が交流できるよう、地域の方誰もが気軽に参加できるコンサートを実施した。全４回中２回はコロナ禍の影響により中止とした。	１１月１４日 １２月１８日	２	４２
【中止】 たごっ子まつり	実行委員会にて、新型コロナウイルス感染拡大防止のため従来通りでの開催は中止と決定。「ジョイントコンサート」開催に向けて１月まで協議を続けたが、市内の感染状況を踏まえ、中止とした。	【中止】 ２月１９日	—	—
田子市民センター懇 話会	地域関係団体や利用者と懇談の場を設け、地域情報の収集や学習ニーズ及び地域課題を把握し、事業の推進を図るために実施した。	６月３０日 ２月３日	２	２６

【令和３年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

田子中学校１学年総合学習へのコーディネート

田子中学校から、１学年総合学習の授業で地域学習をするにあたって、学習テーマや講師について相談があった。市民センターでは中学校に対し、防災学習や自然観察などのテーマを提案するとともに、地域住民の中から講師としてお話しいただける方をコーディネートすることで、地域の方と中学生との交流の機会を設けることができた。

このことをきっかけとして、中学生が自らの視点で地域の課題について考えようとする意欲が見られるようになり、地域への関心を高めることにつながった。また、派遣した講師からは、「東日本大震災のことや地域が抱える課題について、中学生などの若い世代にどう伝えていくか。」といった感想が寄せられ、新たな課題を発見することにもつながった。

福室市民センター

〔沿革〕

福室地区は西に七北田川、北は多賀城市に接し、南は仙台港背後地に囲まれた地域で、かつては豊かな田園地帯であった。昭和 30 年～40 年代にかけて住宅地や市営住宅が造成され、住環境が急速に整備された。国道 45 号線、JR 仙石線の沿線という利便性から、最近では仙台港背後地の開発や商業施設の増加に伴い、高層住宅、集合住宅が増え、人口は増加傾向にある。旧来の農地は激減したが、今も七北田川周辺の豊かな自然は健在である。

同地区に位置する福室市民センターは、中野中学校区を対象地域として平成 15 年 3 月に開館し、児童館、コミュニティ防災センターを併設している。年々利用者も増加し、地域住民の生涯学習の拠点として、広く親しまれ利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	福室アート・フェスタ		
参加者	地域住民・近隣中学校吹奏楽部	延参加者	312 名
開催日	全 3 回 令和 3 年 11 月 20 日(土)、11 月 21 日(日)、11 月 23 日(火)		
協力者・協力団体	-		
ねらい	コロナ禍のために中止となった市民センターまつりの代替行事として、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した上で、生涯学習発表の機会としてステージ演奏と展示を開催する。		
概要・成果	新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定していた市民センターまつりが開催中止となった。そのため令和 3 年度はまつりとは別の形式で日頃の活動の発表の場を提供すべく、展示とステージ演奏に絞って行う＜アート・フェスタ＞という新しいイベントを企画した。出演者もできるだけ新しい団体に依頼した。 展示部門は 3 つの団体と 1 個人に参加を依頼し、ワークショップを含む新しい形での展示発表を行い、多くの見学者が来場した。 ステージ部門では、吹奏楽部に絞り、東北学院中・高等学校、田子中学校、高砂中学校、中野中学校という近隣 4 校に出演してもらい、互いのアンサンブルを聞き合える場を設定することができた。音楽好きの観客からも生演奏の楽しさを感じることができたとの声をいただき、参加者の保護者からは、コロナ禍で初めて子どもたちの演奏を聴くことができたことへの感謝の言葉をいただいた。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	子ども会の児童や世話人を対象として、児童主体の子ども会活動推進のために、今後の活動に生かせる知識やレクリエーション等を学んだ。	8 月 3 日	1	25
地域で育む学びの芽	地域の小学生を対象に、地域の歴史や運動・音楽を学ぶ機会を提供した。①②歴史ウォーク（中野栄・福室）③みんなでエンジョイ！スポーツ④バイオリンとピアノのファミリーコンサート	10 月 5 日 11 月 16 日 11 月 27 日 12 月 18 日	4	235
福室老壮大学	地域の高齢者に、心身ともに健康で充実した生活を送れるように・防災・防犯・健康・時事・地元の歴史など様々な学習機会を提供した。楽しく交流を重ねて、仲間づくりの場ともなった。	6 月 30 日～ 1 月 26 日	10	341

だれでもサロン” まざらいん”	誰でも自由に参加できるサロンを開催した。①小物づくり「枝豆ブローチを作ろう」②ダーツを楽しもう1 ③ダーツを楽しもう2 ④福室縁芸場	9月16日 10月22日 10月29日 1月15日	4	82
地域懇談会	地域の町内会長や民児協代表、学校関係者を対象に、市民センター・児童館の事業計画や事業報告を行い、情報交換を通して地域との協力関係を強化した。	5月22日 2月16日	2	27
★ふくむろ防災塾 2021	東日本大震災の教訓を生かし、町内会・地域団体・市民センターが連携して、避難所運営や防災スタッフの育成のための講座を開催した。	6月19日 7月10日	2	67
みんなで支え合う地域づくり ～ふくむろ健康長寿ねっと～	高齢者が安心して暮らすために介護予防や運動を学び、自立し支え合う地域づくりの機会とした。 ①口腔ケアで健康長寿、②ウォーキング！秋の七北田川を歩く、③楽しく健活セミナー～人生100年時代を生きる	9月30日 10月14日 12月16日	3	41
市民センターの草木調べ隊	経年変化している市民センター敷地内の多種多様な植栽を再調査した。開館当時の植栽マップを更新し、来館者が植栽に親しめるよう樹名板を作成・表示した。	5月15日 5月22日 5月29日 6月4日	4	46
市民企画会～地域の魅力発見～	令和2年度の企画会で作成した冊子「福室100景いいトコガイド」を活用できる講座を企画し実施した。	6月3日～ 3月3日	10	89
市民企画会講座 「福室100景プラス」	市民企画会が企画した冊子「福室100景いいトコガイド」を補完する内容の講座。①仙台港開港50年、②仙台の下水道、③御城下と福田町を開催した。	12月11日 2月5日 2月25日	3	38

【令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

高砂おたから探訪の会」への活動支援

「高砂おたから探訪の会」は、当市民センターで活動している歴史サークルである。例年、福室小学校の3年生の総合的な学習の時間の授業への協力として、＜福室歴史ウォーク＞にボランティアガイドとして参加している。校外学習で地域を回る子どもたちに、福室地区の歴史的事象について、紹介と説明を行っている。

令和3年度は、中野栄小学校から市民センターへ地域の歴史を学びたいとの要望を受け、高砂おたから探訪の会を紹介した。

市民センターでは、小学校と会を仲介する中で、歴史的事象がもう一つないかと検討し、古いお堂を候補にあげた。事前に市民センターがお堂の持ち主を訪ねて、小学生が訪問し高砂おたから探訪の会がお堂の歴史を解説することの了解を得て、会とお堂の持ち主を繋げた。高砂おたから探訪の会は、新たな歴史的事象に関して学びを深めて、紹介・解説するという機会を得ることができた。学校や利用サークルの相互の希望や考えを尊重しながら、活動支援をすることができた。

若林区中央市民センター

〔沿革〕

若林区中央市民センターは、昭和 53 年、当時の養種園の改築に伴い、養種園の複合施設として「南小泉市民福祉会館」の名称で開館し、その後、条例改正により「南小泉市民センター」と名称を変え、平成 5 年 9 月 28 日、若林区文化センターの新設に伴い移転して、現在の「若林区中央市民センター」となった。また平成 29 年には、若林区中央市民センター別棟が、南小泉児童館、社会福祉協議会、子育てふれあいプラザとの複合施設として移転・新築された。当市民センターを含む若林区文化センターは図書館・市政情報センターも併設されている複合施設である。こうした立地の下、当市民センターは地域の生涯学習活動の拠点として多くの区民に活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	市民企画講座「わかちゅうワケあり雑がみ部ーザツがみであそぼう」		
参加者	制作：地域の親子、展示会：どなたでも	延参加者	355 人
開催日	全 2 回 令和 3 年 11 月 27 日(土)～12 月 5 日(日)		
協力者・協力団体	南小泉パパネット、せんだいメディアテーク、仙台市環境局家庭ごみ減量課		
ねらい	当初、市民企画員とともに「子どもずもう」を企画・実施する予定であったが、コロナ禍で様々な制約のある中、子ども相撲を中止することを余儀なくされた。コロナ禍のため子ども同士や住民同士の交流の場が非常に少なくなっている現状がある。 そこで、代替イベントとして、子どもから大人まで誰もが扱いやすい身近な雑紙を使った作品制作イベントを実施し、再生可能な紙資源である雑紙や、家庭ごみの減量やリサイクルについて学ぶ機会を提供するとともに、地域住民同士の交流を促進する。		
概要・成果	市民企画会議 6 回を経て、広報により地域の方に持ち寄ってもらった雑がみを使って作品を自由に制作する講座と、完成した作品の展示会を開催した。講座及び展示会では「家庭ごみ減量」に関する啓発ポスターやパネルを展示し、環境への意識啓発を図った。 コロナ禍により親子で参加できるイベントが減少している中で、子どもの豊かな発想を親子で作品に仕上げていく過程が親子の触れ合いの場となり、親子にとって充実した時間となった。また、完成後お互いの作品について発表したことで参加者同士の交流を図ることができた。完成した作品は、誰でも気軽に立ち寄れるアートギャラリーわかぶんを会場として展示を行い、地域の方にも「雑がみ」のリサイクルや環境問題につながる「ゴミ減量」について学習する機会を提供することができた。		

〔令和 3 年度(地区館)事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
「家族のための講座」	小学生の保護者を対象に、子どもとのかかわり方について、講話や受講生同士の意見交換の場を設け、子育て中の悩みや家庭での対処について、問題が解決できるよう図った。	11 月 19 日 11 月 26 日 12 月 3 日	3	18
ジュニアリーダーと遊ぼう	小学生を対象にジュニアリーダーとの遊びを通して、異年齢間の集団遊びや学区を越えた交流から、他者との良好な関わり方を学んだ。10 月開催で準備を進めていたが 9 月に緊急事態宣言が発令され延期した。	11 月 21 日	1	14
仙台市子ども会インリーダー研修会	令和 4 年度の子ども会リーダーや世話人を対象に、子ども会活動やレクリエーションについて動画視聴による研修を行った。	1 月 27 日～ 2 月 27 日	1	30

地域をつなぐ伝統行事	地域住民が伝統の七夕づくりや正月のミニ門松づくりを体験しながら、日頃交流の少ない住民同士が交流できる場を提供した。七夕は文化センター内に展示した。	6月11日～ 12月11日	5	50
南小泉老壮大学 教養コース	高齢者が健康で豊かな人生が送れるように文学、歴史、環境問題、防災、健康など様々なテーマで学び、交流する場を提供した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、9月は中止とした。	6月9日～ 2月9日	7	273
南小泉老壮大学 健康コース	高齢者が健康で豊かな人生を送るために、特に健康について様々な観点から学び、交流する場を提供した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、9月は中止とした。	6月23日～ 2月16日	7	248
「防災講座」	親子を対象とした防災減災講座や小学校への出前授業、児童館への出前講座を行ない、気象実験や防災クイズなど命を守る正しい避難行動について学んだ。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、9月は中止とした。	6月26日 7月31日 10月16日 10月26日	4	103
童謡フェスティバル 共催事業 わたしの好きな若林の風景一写真展	若林区内の風景写真などを通し、地元の魅力について語り合う場を設け、住民同士の交流の場を提供した。若林区内の風景写真展を行い、この写真を使ったおしゃべりサロンを開催した。	11月11日～ 2月19日	2	687
若林区中央市民センター学習発表フェスタ	市民センター利用サークルや管内小学校と協力し、日頃の活動の発表の場とサークル同士の交流の場を提供した。ステージ発表、サークル作品展示、管内小学校作品展示を行った。	10月1日～ 10月9日	3	208
若林区中央市民センター事業懇話会	管内小中学校関係者、町内会、その他の団体が集まり意見交換をすることで、地域課題やニーズの把握と共通理解を図った。地域団体同士の連携につなげた。	7月1日 2月10日	2	17
ボッチャゲームスタッフ育成講座	ユニバーサルスポーツボッチャを地域で広めるスタッフを育成した。話し合い、体験学習、交流会等を行い実際の活動の準備を行った。8月と9月は新型コロナウイルス感染防止のため延期した。	5月27日～ 2月17日	10	27
市民企画会議 「子どもイベントを考えよう」	地域住民が、地域で実施する子ども対象のイベント「わかちゅうワケあり雑がみ部ーザツがみであそぼう」を企画、当日の運営・実施を行った。また終了後は、振り返りを行った。	6月19日 ～1月5日	6	12

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

地域団体と町内会をコーディネート

市民センターの主催事業に参加していた地域の町内会長から、コロナ禍における町内会活動について相談があった。主催事業において参加者同士の交流が生まれる中、たまたま同じ事業に南小泉小学校の保護者をメンバーとした地域団体「南小泉パパネット」からも参加していたため、町内会活動に何らかの形で協力が可能ではないかと考えて「南小泉パパネット」へ提案を行ったところ、同じ南小泉地域ということもあり、連携につなげることができた。その後、町内会と「南小泉パパネット」が協力してイベントを開催するに至り、市民センターもそのイベントへの参加協力を行った。

地域団体「輪！っかばやし子育て応援団」に参加し、運営に協力

活動の見直しを図っていた若林区内の子育て関連団体である「輪！っかばやし子育て応援団」の活動に関わり、自主活動が円滑に行われるように会場確保など後方支援した。令和4年度からは「子育てサポネットわか隊」と名称を変更して新たな運営を行うことになっており、市民センターも引き続き協力していく予定である。

七郷市民センター

〔沿革〕

七郷市民センターは、地元住民の要望により「七郷公民館」として昭和 58 年 4 月に保健センター・コミュニティ防災センターとの複合施設として開館し、平成元年には「七郷公民館・市民センター」となり、若林区の拠点館となった。平成 2 年には「七郷市民センター」と改称。平成 5 年 9 月には若林区中央市民センター開館に伴い、拠点館機能を移行した。平成 14 年 4 月児童館を併設、さらに平成 22 年 2 月に大規模改修工事を終え、七郷証明発行センターも併設された。

近年、七郷地区は、復興公営住宅や防災集団移転を含め土地区画整理事業が進展し、地下鉄東西線開業も相まって新しいまち並みが形成されており、今後のまちづくりに向けた市民センターが果たす役割は大きくなっている。区役所はじめ諸機関、地域団体との連携を深め、新旧住民がつながりを築き共に支え合うまちづくり、文化づくりを推進できるよう、組織的に事業を推進している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	地域情報紙作成講座「七郷タウン情報紙をつくろう！」		
参加者	どなたでも	延参加者	58 人
開催日	全 18 回 令和 3 年 5 月 15 日(土)～令和 4 年 3 月 26 日(土)		
協力者・協力団体	七郷小学校社会学級、蒲町小学校社会学級、荒井小学校社会学級、七郷語り継ぎボランティア「未来へー郷浜」、まちづくり推進部若林区中央市民センター		
ねらい	新しいまちづくりが進展している中、日々移り変わる新しい地域情報や転入者が地域の特色を理解するための情報は継続して発信していく必要がある。そこで、地域住民に新鮮な情報等を発信するための情報紙づくりを通して、各団体のもつ情報の共有や新しい情報の収集を図り、地域で主体的に活躍する「人づくり」につなげる。また、その活動を通して団体間のネットワーク化を図る。		
概要・成果	令和 3 年度は複数年事業の最終年度であり、新型コロナウイルス感染状況に留意しながら、5 月より編集会議を 10 回、取材活動を 8 回実施し、令和 4 年 3 月に第 5 号を発行した。最終号となる今回は、手に取った人がまちの魅力に触れられるように、企画員が地域で見つけた興味深いものや地域の史跡・旧跡を盛り込んだウォークラリーマップとした。マップに掲載する情報は、七郷小学校社会学級、蒲町小学校社会学級、荒井小学校社会学級及び七郷語り継ぎボランティア「未来へー郷浜」と連携して収集を行った。地域情報に詳しい方々の協力を得たことで、地域の魅力満載の「七郷ウォークラリーマップ」を作成することができた。 令和 4 年度にはこのマップを元にまち歩き講座を開催する予定としている。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育てはっぴいタイム	未就園児と保護者を対象に子育て世代の不安や悩みを解消し育児を楽しむために、親子リトミック、ボールや新聞紙を使った親子遊びを行った。	6 月 24 日 7 月 8 日	2	38
七郷子どもクラブ	小学生を対象に、子どもの健やかな育ちを支援するためのニュースポーツ、けん玉、科学実験などの体験学習を実施した。	7 月 29 日 7 月 30 日 8 月 4 日 8 月 5 日	4	49

インリーダー研修会	小学生 5 年生と子ども会世話人を対象に、子ども会活動の充実と活性化をはかることを目的として、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の為、オンライン研修会を開催。	1 月 27 日～ 2 月 27 日	1	34
七郷老壮大学	地域の高齢者を対象に、心豊かなシニアライフを送るために、講話、軽体操、コンサートを実施。新型コロナウイルス感染拡大防止対策の為、一部 2 グループに分けて実施。	6 月 9 日～ 3 月 9 日	9	367
七郷学びの応援隊	管内の 3 社会学級と連携して、地域住民に向けて地域視点に立った防災講座を企画・開催した。	7 月 16 日～ 1 月 13 日	5	38
【中止】 七郷市民まつり	新型コロナウイルス感染症の仙台市内の感染状況を踏まえ、実行委員会と協議した結果、参加者の安全性等を考慮し中止とした。	【 中 止 】 11 月 21 日	—	—
交流ひろば	誰もが気軽に参加し新旧住民が交流する機会となるよう、荒浜地区を巡るまち歩き「あらはまさんぽ」や、施設利用サークルによる演奏会「七郷ハートフルコンサート」を開催した。	10 月 9 日 11 月 13 日	2	55
七郷地域懇話会	区家庭健康課、連合町内会、民児協等の地域団体、市民センターを拠点に活動するボランティア団体を対象に、市民センター事業の説明や、コロナ禍における地域の現状・課題についての情報共有、意見交換などを行った。	3 月 3 日	2	21
魅力発信！Shichi-Go 展 2021	市民まつりの代わりとして地域住民に向けて、市民センターを利用しているサークル団体・個人による折り紙、書道、手芸、写真等の作品を展示した他、写真撮影用フォトスポットを設置し、児童による見学ツアーを開催した。	11 月 13 日～ 11 月 18 日	2	150
もしもの時にどう動く？地域防災講座	地域住民を対象に地震・豪雨など自然災害時の適切な避難行動や地域の避難所についての講話と、グループトーク形式で防災に関する情報交換などを行った。	12 月 3 日	1	18

〔令和 3 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

七郷語り継ぎボランティア「未来へー郷浜（さとほま）」の活動支援

七郷語り継ぎボランティア「未来へー郷浜」は、平成 25 年度から 3 年に渡り実施した事業「未来への伝言ー七郷を語り継ぐ」の参加者により平成 27 年 12 月に結成された。活動は 7 年目を迎え、七郷の歴史や伝統・風土、東日本大震災の記憶を後世に語り継ぐボランティアとして、全国各地から荒浜を訪れる方々に震災のことを伝えたり、七郷の見どころを案内したりする活動を行っている。令和 3 年度は、コロナ禍でボランティア活動が制限される中でも、震災に関する学習・視察に訪れる宮城県内外の学校・団体等のボランティア派遣要請に応じた。市民センターでは、この要請の仲介を通して、語り継ぎボランティアとせんだい 3.11 メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校とのつながりをコーディネートし、ボランティア活動がスムーズに行えるよう支援した。

荒町市民センター

〔沿革〕

荒町市民センターは、昭和 47 年に旧斎藤記念館を全面改築し、「荒町市民福祉会館」として昭和 48 年 5 月に開館した。昭和 58 年 4 月「荒町市民センター」と名称変更した。施設は、老朽化と機能拡充の必要性から現在地に建物を改築し、平成 22 年 2 月 2 日に開館した。

当市民センターが所在する荒町地区は、仙台市のほぼ中心部、昔からの商店街である荒町商店街の一角に位置しており、仙台藩の名残を今尚残している地域である。

地下鉄五橋駅から徒歩 5 分、JR 仙台駅から徒歩 20 分と交通の便に恵まれ地域の方をはじめ市内全域から多くの市民に利用されている当市民センターは、日中はもとより、夜間も仕事帰りの活動の場として、幅広い年齢層に活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業 ◎地域力創造支援事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	「荒町」を知って楽しく安全に暮らそう！親子で作る MAP 作り講座		
参加者	荒町小学校に通う低学年児童とその親	延参加者	57 人
開催日	全 9 回 令和 3 年 6 月 9 日(土)から令和 3 年 10 月 14 日(土)		
協力者・協力団体	荒町商店街振興組合		
ねらい	安全に生活・登下校するために親子で地域を歩いて防犯 MAP を作成する。実際に歩くことにより親子で気づきを共有し、完成した MAP は地域に還元することで今後の防犯につなげることを目指す。		
概要・成果	MAP の作成にあたり、防犯のプロから注意が必要なポイントなどについて事前に講話をしてもらった。子供が登下校時、事件に巻き込まれたり、交通事故にあう危険が多い昨今、事前に学習したポイントを踏まえて実際に通学路を注意深く見ながら歩き、親の目線、子どもの目線といったいつもとは違った視点で確認をした情報を互いに共有することできた。参加者自身が歩いて調査したことをもとに、協力して MAP を作成したことにより、日頃の安全に対する意識の向上につながった。 完成した防犯 MAP は、商店街等を歩いて調査するうえで協力いただいた方々の店先に貼ってもらい、地域の人たちにも見ていただくことができたため、参加者の達成感にもつながった。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会活動の活性化等を図るため、リーダーとして活動する児童や世話人を対象に動画を活用し、オンラインで子ども会についての知識やインリーダーの役割、レクリエーション等を習得する機会を提供した。	1 月 27 日～ 2 月 27 日	1	42
あらまち町民大学シルバーセミナー	高齢社会となっている時代、高齢者へ新たな知識を習得する場を提供することにより、高齢者がその知識を生かして社会と交流し、はつらつと過ごせるような講座を開催した。	5 月 19 日～ 3 月 2 日	9	224
伝統の仙台七夕飾りをつくろう	新型コロナウイルス感染症対策として回数を減らして開催した。令和 2 年度に作成した七夕動画を活用し持ち帰り用のミニ七夕飾りを作った。また、荒町商店街七夕まつりに制作参加し、まつりへの関心を高めた。	7 月 1 日～ 8 月 6 日	5	77

荒町四季暦	歴史ある商店街、自然豊かな荒町公園等の恵まれた環境を利用し、参加者に四季折々の「魅力ある荒町」をアピールし、地域の活性化を図り地域住民の交流を促した。	5月11日～ 1月15日	7	241
みちのく妖怪ツアー展 「妖怪採集ワークショップ」	文学館の「みちのく妖怪ツアー展」の関連イベントとして荒町の歴史や文化を活用したワークショップで地域の歴史・文化から独自の物語を紡ぎ、自己を表現する機会を与え、地域に関心を持つきっかけとした。	7月25日	1	9
荒町子まもりプロジェクト・町内向け防犯教室「犯罪から地域を守ろう」	荒町商店街振興組合と荒町児童館と連携し子ども防犯への取り組み「荒町子まもりプロジェクト2021」を立ち上げた。若林警察署と全日警の協力のもと10月の防犯月間に、町内向け防犯教室を開催した。	10月14日	1	20
自宅でできる減災対策をしよう！	コロナ禍の中で、避難所だけでなく自宅や知人宅への避難が勧められていることから、支援が来るまでの数日間を乗り越えるために、日ごろから準備しておく地震対策や、浸水対策について学んだ。	11月13日	1	16
市民企画講座 荒町いきいき講座 ～ひとりを楽しむ～	新型コロナウイルス感染対策で家の中で過ごすことが多くなってきている。そこで「ひとりを楽しむ」をテーマにまち歩きを楽しむ方を学んだ。地域住民が地域を知ることによって愛着もわき、地域活性化に繋がった。	12月17日	1	34
荒町市民センター・児童館フェスティバル	市民センターで活動しているサークル等が一年間の活動の成果を発表した。ステージ部門は事前に録画収録し、映像発表で開催した。	10月2日	1	312
荒町市民センター地域懇談会	地域の主要団体の意見交換会に参加し、また、市民企画会議のメンバーと情報共有しながら、市民センターの姿勢や事業内容などを伝え、地域の状況や市民センターへの要望などを聞いて運営の参考にした。	11月12日 12月21日	2	18
市民企画会議 「荒町いきいき講座」	地域の方が生き生きと暮らす手助けとなり、さらに地域交流が図れるような事業を企画し、地域活性化につなげることを目的に話し合った。そして企画員や受講生に市民センターが様々な学習の拠点であること実感してもらった。	9月28日～ 12月21日	6	21
図書ボランティアスキルアップ研修	市民の読書活動を推進することを目的に図書室運営のスキルを学び、活動のレパートリーを増やした。	6月22日 10月21日	2	10

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

荒町子まもりプロジェクトの活動支援

荒町では様々な地域団体が防犯の取り組みを行ってきているが、子どもたちの防犯を中心に団体が連携することになった。荒町商店街振興組合、荒町児童館、荒町市民センターが中心となり、警備会社や学校、近隣の事業所等16団体が連携協力し、警察署の助言を頂き、それぞれの防犯事業、ポスターや標語のコンクール、子まもりハロウィンを行った。市民センターはその調整や運営の支援を行い、地域課題に対して協力して取り組むことができたという達成感と顔の見える地域づくりへの更なる一歩という成果を全員で感じる事ができた。

六郷市民センター

〔沿革〕

昭和 56 年、地域住民の福祉増進を目的に保健センターとの複合施設「六郷市民福祉会館」が開館し、昭和 58 年に「六郷市民センター」と名称を改め、地域の社会教育活動の場として定着した。平成元年には公民館としての機能が加わり、平成 2 年には「六郷児童館」を併設、さらに平成 22 年 12 月に大規模改修工事を終えて再開し、生涯学習の拠点として現在に至っている。

六郷地域は名取川と広瀬川の合流点を有し、美しい干潟や貞山堀運河、屋敷林の居久根など自然環境や歴史的遺産等に恵まれていた。しかし、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、沿岸の六郷東部地区は住宅・学校・農地・事業所といった生活基盤のほとんどが壊滅的かつ甚大な被害を受け、地域が一変した。また平成 29 年 3 月末には東六郷小学校が六郷小学校と統合し閉校となった。

現在、六郷地区の再スタートということで、地域住民・町内会・各団体と連携を保ち、情報を共有しながら、地域を支えられる人材育成の推進と新たな地域の活性化に努めている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★市民企画会「わたしのふるさとプロジェクト」		
参加者	地域住民	延参加者	73 人
開催日	全 11 回 令和 3 年 5 月 19 日(水)～令和 4 年 3 月 25 日(金)		
協力者・協力団体	まちづくり推進部若林区中央市民センター		
ねらい	東日本大震災による被災やそれに伴う集団移転のため、東六郷小学校は閉校し、六郷小学校と統合した。地域活動の中心を担っていた P T A も消滅したため、かつての地域のつながりやにぎわいは失われている。そこで、変わりゆく六郷東部を見つめ直し、イベントを通して新たな魅力を発信するとともに、移転した元住民との交流の機会や場所を提供する。		
概要・成果	六郷東部地区のにぎわい再生と人々の交流の機会を提供するため、企画会議と企画員の学習会を開催した。東六郷地域の魅力を発信し、地域のにぎわい再生を目的とした「鎮魂の花火」や、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で開催はできなかったが「東六郷コミュニティ広場オープニングミニステージ」を企画した。実施した「鎮魂の花火」については、地域の方から多くの喜びの声をいただくことができた。 企画員は意欲的に活動し、六郷東部地区の次世代を担う存在として注目されている。令和 3 年度は企画員を増員することができ、地域の新たな人材発掘に貢献することができた。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
六郷子育てサロン	育児中の親たちが子育てや地域の情報を共有し、親子関係や室内遊びの充実を図るため、軽運動、手型アート、写真の撮り方をテーマに開催した。新型コロナウイルス感染拡大により日程変更が 1 回あった。	7 月 6 日 11 月 9 日 12 月 7 日 1 月 14 日	4	31
●楽しく体験！六郷クラブ	主に高校生や中学生を講師に活用し、小学生に幅広い体験の場を提供する。バルーンアート、運動、マジック、英語、スポーツチャンバラ等をテーマに開催した。天体観測を企画していたが新型コロナウイルス感染拡大により中止とした。	6 月 19 日～ 1 月 10 日	6	110
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる児童と世話人を対象に、子ども会活動の意義や役割等を学ぶ。令和 3 年度は新型コロナウイルス感染拡大により、対面開催から変更して WEB 動画視聴による在宅での受講とした。	1 月 27 日～ 2 月 27 日	1	15
めざせ YouTuber ～六郷のよさ発見隊～	小学生が六郷地域について自らテーマを設定して取材を行った。食文化やレジャー施設について撮影した内容を動画にして発表するとともに、YouTube で発信した。	6 月 26 日～ 1 月 8 日	7	20

六郷あすなろ大学	高齢者が生きがいのある豊かな生活を送れるように、気軽に参加できる学習の場を提供した。歴史・芸術・生活・教養・健康等をテーマに、感染対策として体育館を会場に開催した。	5月20日～ 3月3日	10	399
六郷お月見会	「お月見」という伝統行事を体験することで日本文化に興味関心を持つ機会とすることを目的に、実行委員会を組織して開催に向けて準備を重ねたが、お月見会当日は新型コロナウイルス感染拡大により中止とした。	6月23日 8月18日 10月20日	3	28
●六郷地域防災事業	住民主体の委員会を中心に、学校・団体・行政等が連携して円滑に防災活動ができるようにするため、防災訓練とそれに伴う各種会議を開催したが、新型コロナウイルス感染拡大により研修会は中止とした。	5月25日 6月24日 7月3日 7月20日	4	314
ここ・そこ・どこでも 六郷ふるさと音頭	六郷ふるさと音頭を地域に普及させるために、普及委員会を主体として、踊りの練習会と小学校への出前授業を行った。新型コロナウイルス感染拡大により高齢者施設への出前講座等は中止とした。	10月19日 10月21日 10月29日 11月17日	4	202
【中止】 市民企画講座「東六郷 コミュニティ広場オ ープニングミニステ ージ」	被災地である六郷東部に関わる人々の交流と広場の活用に寄与するため、くろしお太鼓、すずめ踊り、六郷中吹奏楽部のステージ演奏を企画したが新型コロナウイルス感染拡大により中止とした。	【中止】 8月22日	—	—
★市民企画講座「ふる さとにつどう 第7 回鎮魂の花火」	震災で命を落とした方を偲び、震災を忘れず地域に寄り添うことや、被災地のにぎわい再生を目指す、花火の打ち上げを行った。感染拡大により内容を一部変更し、交流会を除いて開催した。	2月5日	1	180
●令和3年度 六郷 文化活動発表会	サークルや団体の学習成果を発表する場として、例年の「六郷市民まつり」から名称を変更し、新型コロナウイルス感染対策としてステージ発表と作品展示に限定して開催した。(12・13日は展示のみ)	11月12日 11月13日 11月14日	1	500
●市民センター懇談 会	第1回目は市民センター事業についてプレゼンを行い、第2回目は当地区の健康問題をテーマに開催した。地域を支える方々に事業や施設運営について意見や要望を伺った。	5月15日 10月8日	2	45
★くろしお太鼓応援 隊養成講座	閉校した東六郷小から六郷小へと引き継がれたくろしお太鼓の継承を支援する人材育成を推進する。新型コロナウイルス感染拡大により3回の練習と2月のイベントは中止となったが、11月にイベント出演を果たすことができた。	5月30日～ 12月12日	7	105
サークル体験会	六郷市民センターを拠点に活動している各種サークルの体験会を実施した。新型コロナウイルス感染拡大により2回の日程変更と2回の中止があった。	9月22日～ 1月25日	5	12

【令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「六郷昔物語」映像化プロジェクト支援

六郷市民センターを拠点に活動する読み聞かせボランティア「まつぼっくり」は、様々な学校施設で活動をしている。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、活動の場を失い、練習すらもできない状況にあった。

コロナ禍でも地域で語り継がれた物語を伝えていきたいというボランティアの強い思いと、サークルの活動支援のため、令和2年度に「六郷昔物語」の動画作成をした。令和3年度は、地域内外の人々に活動を知ってもらうため、希望者に動画DVDや冊子を配布するなど、周知活動に力を入れた。

動画制作と周知活動により、コロナ禍でもサークル活動の継続を実現でき、さらに六郷地域の魅力を発信することができた。制作したDVDは新聞、ラジオ、テレビでも取り上げられ、「まつぼっくり」メンバーのモチベーションアップにつながった。

若林市民センター

〔沿革〕

若林市民センターは、平成 3 年 4 月に若林児童館、コミュニティ防災センターを併設して開館した。以来、地域の社会教育活動や福利厚生活動に活用され、親しまれて現在に至っている。令和元年度には大規模修繕を実施し、令和 2 年 4 月に再開した。

管内は藩政時代伊達政宗公ゆかりの史跡や広瀬川舟運、商人の町の歴史ある町名を残すとともに、広大な河川公園などがあり、自然に恵まれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★防災講座「みんなで守ろう！若林」		
参加者	若林小学校 5 学年児童とその保護者 婦人防火クラブ若林連合支部のメンバー	延参加者	119 人
開催日	全 3 回 令和 3 年 11 月 5 日(金)～令和 4 年 1 月 30 日(日)		
協力者・協力団体	若林小学校、婦人防火クラブ若林連合支部、若林区中央市民センター		
ねらい	当館の担当エリアには、長町・利府断層による直下型地震や、広瀬川による洪水、低地の内水浸水等の災害が懸念される地域がある。本講座は、小学生や地域住民を対象に、受講者一人一人の防災・減災意識の醸成を図り、地域の災害対応力を高めることを目的とする。		
概要・成果	若林小学校 5 学年の防災学習の一環として、災害時の対応を考える「クロスロードゲーム」を行った。災害時に起こり得る諸問題に対して、Yes か No かで自分の意見を考え発表するとともに、他の人の意見を聴くことで、いろいろな考え方があることや災害時にどう対応したらよいのか認識を深める貴重な機会となった。 また、コロナ禍における新たな防災教材として、「歩一歩（ほいっぽ）たいそう」（生活の中にある災害や犯罪などの危機への備えをまとめた「歌＋健康体操」）のズーズー弁バージョンを YouTube「仙台市市民センターチャンネル」にアップロードすることを目指し、地域で熱心に活躍する婦人防火クラブ若林連合支部に声を掛け、火事編の動画を作成した。これらの事業をとおして、地域住民の防災に関する意識の向上とともにその成果を広く発信することができた。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子のすっきりタイム	未就園児親子を対象に親子が一緒に楽しみながら日々の子育てに活かせる体操や、写真の撮り方を学ぶ機会を提供した。	10 月 14 日 10 月 28 日	2	8
仙台市子ども会インリーダー研修会	次年度リーダーとして活躍が期待される児童及び世話人を対象に、子ども会の運営方法や活動の心構え、必要な技能の習得を目指す。新型コロナウイルス感染症の影響から内容を動画研修会に変更し、視聴者へのアンケートを実施した。	1 月 27 日～ 2 月 27 日	1	242
わかばやしチャレンジクラブ	小学生を対象に、学校外での活動を通して社会性を育み、学校では体験しないような学びの場の提供を目的とし、紙工作や中高生のボランティアグループであるジュニアリーダーとの交流を行った。	7 月 31 日 1 月 29 日	2	23

《若林区》

若林小学校連携事業 「わかばやし歴史探検」	若林小学校 5 年生児童を対象に講座を開催し、地元の歴史と地理を専門的な講師より学び、身近に感じる事で郷土愛を育む機会となった。ブックトーク・歴史講話・校外学習を実施した。	10 月 20 日 10 月 22 日 11 月 19 日	3	141
古城小学校連携事業 「仙台まち再発見」	古城小学校と連携し、地域の歴史を外部講師がまち歩きを通して伝えることで、地域への愛着や、歴史に関する興味関心を持つきっかけ作りを行った。歴史講話・ブックトーク・まちあるきを実施。	10 月 15 日 11 月 25 日 12 月 3 日	3	165
わかばやし出前講座	地域の集会所等で気軽に参加できる内容の苔玉作りや、フラダンス、歴史講座を開催することで、市民センターを活用するきっかけづくりをした。	7 月 3 日 9 月 29 日 1 月 20 日	3	38
若林ウィメンズオープンカフェ ～みんなの笑顔のために～	受講生が学び合いたい内容を自ら企画し、「じぞう文字」や「ことばのいわれ」について講座や気軽に参加できるストレッチの講座を地域の方を対象に実施した。	7 月 3 日 7 月 17 日 8 月 7 日 10 月 30 日	4	45
若林老壮大学	高齢者を対象に、高齢化社会に適応できるように学習し、受講生同士が交流しながら地域の中で生きがいのある生活を送ることを目的に、講話、健康体操、音楽鑑賞など行った。	6 月 4 日 ～3 月 4 日	8	410
防災講座「みんなで守ろう！若林」	若林小学校と連携して、防災ゲームを用いた講座を開設し、受講者一人一人の防災・減災意識の高揚を図るとともに、地域の災害対応力の向上を図った。加えて、地域団体の協力を得て防災・減災に向けた動画を製作し、YouTube で発信した。	11 月 5 日、 1 月 19 日 1 月 30 日	3	119
若林ふれあいロビー展	「若林ふれあいまつり」の代替イベントとして、展示サークルの発表の場として気軽に見学できるロビーにて開催した。次年度開催へ向けてサークル団体と話合うことができた。	11 月 17 日 ～12 月 17 日	1	215
わかばやし気軽にコンサート	コロナ禍により生の音楽と触れ合う機会が減少する中で、感染症対策を取りながら地域住民が気軽に集い、癒しの場となるコンサートを開催。蓄音器や和太鼓と篠笛による演奏を行った。	6 月 26 日 11 月 13 日	2	24
地域懇話会	地域団体と地域課題について話し合い、次年度健康講座を共催で行うことにつなげた。また、利用サークルに活動状況や意見を伺い、サークル活動の支援について市民センターができることの提案等を行った。	2 月 10 日 2 月 17 日	2	11
読み聞かせボランティア講座	「おはなしサークルひつじの会」と講座を企画し、紙芝居を実践する上でのポイントを学んだ。また、メンバーが講師となり初めての方対象に、読み聞かせのすばらしさを伝える講座を開催した。	6 月 24 日～ 11 月 16 日	5	64

【令和 3 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

ジュニアリーダー「若林にゃくりん」の活動支援

これまで市民センターでは、月 1 回の定例会開催、要請の受け入れなどの支援を行いジュニアリーダー育成に努めてきた。しかし依然として、コロナ禍での活動には制限があり、定例会の中止や、地域からの活動要請を受けても、イベント自体が中止になるなど思うようには活動しきれなかった。そんな中でもジュニアリーダーそれぞれが継続的に活動できるよう、研修会参加の支援やジュニアリーダー間の情報共有を図ること等、コロナ禍で可能な限りの支援を行った。

沖野市民センター

〔沿革〕

沖野市民センターは、平成3年4月、児童館・老人福祉センター及びデイサービスセンターとの複合施設としてオープンした。東側に田園が広がり、西側はバイパスを境に住宅が密集している。多種の木々と、老人クラブや地域の方々が善意で植えてくださった花壇が、センター前広場に彩りを添えており、こうした花と緑豊かな広場を持つ当市民センターは、地域住民の憩いとふれあいの場所として利用されている。

地域住民の生涯学習活動に対する関心は高く、自主サークル活動も盛んである。また、町内会や老人クラブの結束力が強く、活動も活発で、学校や他の公共施設等とも円滑な関係を保っている。様々な分野の達人も多く、地域人材も豊富な地域である。令和3年11月から大規模修繕を実施している（令和4年秋までの予定）。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	沖野地区市民活動発表会		
参加者	沖野地域町内会、沖野市民センター利用サークル、地域団体	延参加者	892人
開催日	全2日 令和3年10月23日(土)～10月24日(日)		
協力者・協力団体	沖野地域町内会、沖野市民センター利用サークル、地域団体		
ねらい	・地域コミュニティの活動拠点として地域相互の融和・連携を促し、地域活性化を図る。 ・地域で様々な生涯学習活動を実施している人々に発表の場を提供し、更なる活動促進を図る。		
概要・成果	新型コロナウイルス感染症流行の状況悪化の為、延期して10月に2日間で開催した。長期化するコロナ禍の中、検温、体調確認、チェックリスト記入、三密回避といったコロナ対策を行い、令和3年度に引き続き、展示とDVDでの発表を簡略化して実施した。屋外での実技発表、ジュニアリーダーコーナー、バルーンアート体験コーナー等、令和3年度より少し賑わいを付加した内容としたところ、延べ約900人が来場した。 通常の市民センターまつりと異なる開催方法ではあるが、コロナ禍でも中断せずに発表の場と、地域住民の交流の場を提供できたことで、参加者の活動意欲向上と地域活性化の実現に寄与できた。		

〔令和3年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●ママのリフレッシュ講座	子育てや健康に関する講話、リフレッシュ体操、音楽関係などを実施し、母親の心身の健康を保持し、母親同士の仲間づくりにより子育てを支援する。	7月14日 10月6日	2	29
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活動する児童及び世話人が、子ども会運営の知識やレクリエーションゲームなどの進め方などを学び、子供会活動の充実を図る。	1月27日～ 2月27日	1	29
集まれ！わんぱくキッズ～お父さん出番です～	主に親子参加で、沖野地域の街歩きクイズラリー、モルック体験、スポーツ鬼ごっこ、六郷市民センター共催でスポーツチャンバラを行った。	5月29日～ 3月27日	5	131

お仕事探検隊 ～未来の自分を見つ けよう～	子どもたちが普段体験できない職業を体験すること を目的に、アイドル・声優・俳優体験として、 ダンス、掛け合い、アテレコを行った。	10月12日	1	6
伝えよう仙台伝統七 夕	二つの小学校の児童を対象に、仙台伝統七夕に触 れる機会を提供した。七夕飾りは折り紙ボランテ ィア養成講座受講生の指導の下、小学生とともに 作成し、沖野地区老人クラブ連合会から提供して もらった笹竹と一緒に飾り付けた。また、お話ボ ランティアが七夕の紙芝居を披露した。	6月8日～ 7月30日	6	386
沖野耕友大学	健康講座、芸術講座、防災講座、教養(歴史・文学・ 科学など)講座、自主企画講座など、高齢者が生 きがいを持って楽しく過ごせるような学びの場を 提供した。	5月14日～ 10月22日	5	272
みんなの力で地域を 守る	沖野地域町内会会長を対象に、危機管理局減災推 進課職員が「避難所の新型コロナウイルス感染症 対策」、「補助避難所について」、「適切な避難行動 とは」の講話を行った。	6月22日	1	9
沖野の歴史を学びゆ っくり歩こう！	沖野の歴史を地域の方々と歩きながら、地域で活 動する人材を発掘し、育成していくきっかけづく りのための講座。地域の2つの小学校の社会学級 と連携することで、お互いの情報を共有でき、活 動の活性化と強化を図った。	3月15日	1	22
【中止】 沖野地区懇話会	地域関係機関との情報交換・意見交換の場として 実施予定であったが、コロナ禍の中、市民活動発 表会の実施打合せを優先した。3月末、次年度に 向けての懇話会を予定していたが、新型コロナウ イルス感染症の状況悪化により中止した。	【中止】 3月24日	—	—
折り紙ボランティア 養成講座 「折り紙で楽しも う！」	「伝えよう仙台伝統七夕」での活動の他、講師を 招いて折り紙指導を受け、研鑽に努めた。紋切り 型も行う予定だったが、新型コロナウイルス感染 症のために中止し、令和4年度に開催することと した。	10月21日 12月16日	2	20

【令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「おやじの会」活動支援

沖野地域では、沖野東小学校おやじの会「沖父ちゃん会」、沖野小学校おやじの会「親兄の会」の2つのおやじの会が活動し、当市民センターの子ども健全育成に関わる事業にも深くかかわってもらっている。

令和3年度は、市民センターとの連携でクイズラリー、スポーツチャンバラ大会、スポーツ鬼ごっこ大会を開催した。また、新型コロナウイルス感染症対策を講じて開催した市民活動発表会では、モルック大会を企画運営した。自分たちでさまざまなアイディアを生み出し、実行する力がより増してきている。

スポーツチャンバラは、六郷小学校おやじの会立ち上げの機運を高めることを目的に、六郷市民センターと連携して開催した。沖野地域のみならず六郷地域と更に関係強化を図り、3小学校のおやじの会も広域的に活動を広げるきっかけとなった。

これらの事が、おやじの会メンバーの交流と、活動のモチベーション向上の一助となった。

太白区中央市民センター

〔沿革〕

太白区中央市民センターは、平成 11 年 6 月長町商店街の中核をなす JR 長町駅前に開館した複合施設内にある。同施設には当市民センターの他、太白区文化センター、太白図書館、長町児童館及び太白区情報センターも設置されている。JR やバス、地下鉄などの公共交通機関の利便性に優れた立地のため、近隣の広い地域の生涯学習活動や交流の拠点として、多くの市民が利用している。

当市民センターの周辺は、昔から仙台市南部地域における商業の中心として活況を呈してきた歴史のある地域であるが、近年は地下鉄沿線・あすと長町地区での大規模小売店の進出やマンション建設等が進み、人口の増加が著しく、さらに復興公営住宅の完成や仙台市立病院の移転開院等、これまでも増して多くの滞在人口がのぞめる地域となってきた。当市民センターではこうした状況を踏まえて、地域コミュニティの活性化にも積極的に取り組んでいる。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	★わがまち防災・減災実践講座		
参加者	地域の方どなたでも	延参加者	26 人
開催日	全 2 回 令和 3 年 9 月 28 日（火）、11 月 26 日（金）		
協力者・協力団体	長町地区町内会連合会、太白消防署		
ねらい	東日本大震災から 10 年が経ち、多様化する自然災害に対し、いざという時に命を守るための判断や行動がとれるよう、地域の協力体制の構築を目指し、個々の自主防災意識を高める。		
概要・成果	第 1 回目「感染防止対策と避難所運営を体験する」では、コロナ禍での密集を避ける「受付の仕方」や「居住スペースの配置」等を学び、実際に受付用パーテーションの組立などを体験した。また、第 2 回目「マンション・高層建築物の防災を考える」は、地域的に高層建物が多いことから参加者も多く、真剣に学ぶ姿が見受けられた。第 3 回目「東日本大震災を振り返り、防災・減災を考える」は、コロナ禍により中止となったが、防災講座を毎回違うテーマで継続的に開催することにより、地域住民の防災・減災等に対する意識向上に寄与することができた。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育て MY STYLE	未就学親子を対象に、1 回目「親子でスクラップブック」や 3 回目「親子でフィットネス」を開催した。2 回目は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止としたが、参加者にとっては、気分転換やストレス解消の一助になった。	7 月 28 日 10 月 7 日	2	35
インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一堂に会しての研修は実施せず、DVD と冊子を各子ども会に配布し、各々の自主研修とした。	資料配布日 1 月 7 日	1	■
ながまちキッズくらぶ	小学生を対象に、工作やニュースポーツを行い、安心して学び・遊べる居場所と機会を提供し、子どもたちと地域との顔の見える関係づくり、子ども同士の仲間意識とコミュニケーションの育成を図った。	8 月 5 日 10 月 12 日	2	21

みんなの元気講座	ラジオ体操、軽体操、体幹トレーニング、有酸素運動など心と身体の調和を目指した全 5 回の連続講座を実施した。運動の実践方法を学び、継続的な体力作りへの意欲向上、免疫力の向上に繋がった。	9 月 15 日～ 11 月 10 日	5	79
ながまち老壮大学健康教養コース	暮らしや健康を主とした講話と実技を行い、継続的な参加による学習意欲の向上、高齢者の生きがいづくりや仲間づくりの推進、孤立の防止を図った。	6 月 11 日～ 1 月 14 日	6	211
ながまち老壮大学文化教養コース	高齢者を対象に、防災対策、歴史、食文化、健康等の講座を開催した。多種多様な学習機会を提供することで、興味が広がり、生活を豊かにする一助となった。5 月と 2 月は中止とした。	6 月 17 日～ 1 月 20 日	7	214
太中ふれあいサロン	コロナ禍のため事前申込制で①消しゴムはんこ作り②折り紙体験③苔玉作り④黒板のウエルカムボード作りの実技・体験型の講座を実施した。書画カメラ等を活用し、距離を取りつつ講師の手元が見えるような工夫を取り入れ、安全・安心な講座環境づくりに努めた。	6 月 24 日 7 月 8 日 11 月 25 日 12 月 23 日	4	24
ながまち交流フェスタ 2021	サークル・団体の学習発表の場の提供と地域活性化を図ることを目的に開催。作品展示を中心に舞台発表は DVD 上映とした。出店部は地域授産施設 2 店と長町中の支援学級の作品販売のみに限定した。	10 月 23 日	1	400
太白区中央市民センター地域懇話会	地域団体や学校関係者・商店街等から、コロナ禍における活動の報告やその他意見交換を行い、互いに共通認識を確認することができた。また市民センター利用者との懇談会は、コロナ禍のため中止とした。	11 月 17 日	1	15
市民企画会議「きらりん長町」	「長町を元気にする」をテーマに、大学生ボランティア「つながりんぐ」と高校生が、長町のお店を取材し「長町商店街マップ」を作成した。マップは、おまつりでも展示し、地域の方に大好評であった。	4 月 27 日～ 10 月 23 日	6	27
【中止】市民企画会議「きらりん長町」を経て企画する講座	新型コロナウイルス感染拡大のため全体での講座企画会議が持てず中止とした。	【中止】	—	—

〔令和 3 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダーサークル活動支援とサークルの活動支援について

令和 3 年もジュニアリーダーサークルの活動については、新型コロナウイルス感染拡大による度重なる活動制限で、定例会の中止や活動要請も無い状態が続いた。そのような状況の中、市民センターでは、ジュニアリーダー間の連絡調整や制限のあるコロナ禍での活動をどのようにしていくかなどの提案を行い、メンバー各自がバルーンアート等の技術研鑽に努めることとした。継続的な活動を図るためのこれらの支援が、ジュニアリーダー個々のモチベーションを保つことに繋がった。活動再開後の講座「ジュニアと遊ぼう」（児童館主催）の中では、子ども達と元気よく活動する姿が見られ、メンバーそれぞれが大きく成長することができた。

ジュニアリーダー以外のサークルへの活動支援については、主催講座「太中ふれあいサロン」での講師依頼を各サークルへ働きかけ、活動機会の提供に努めた。その中でも「折り紙ボランティア折々の会」は、実際に講師として指導してもらい、受講生の喜ぶ姿を直接見ることで、今後のサークル活動の大きな励みとなった。また、各サークルの活動の際には、コロナ禍での活動に関する悩みや現状などを伺い、できるだけサークルに寄り添うことを行い、サークル活動のモチベーションアップを図るよう支援した。

生出市民センター

〔沿革〕

生出市民センターは、昭和 24 年 4 月生出村公民館として発足し、生出小学校の一隅で公民館活動を行ってきた。昭和 31 年には仙台市との合併により「仙台市公民館生出分館」と改称された。地域住民の強い要望から昭和 42 年 4 月、地域社会教育の拠点として、現在地に「生出公民館」が建設された。

その後昭和 55 年 5 月には、地域住民から自由に利用できる体育館を併設した公民館の新設が要望され、公民館・診療所・保健センターが一体となった複合施設として開館した。後に、敷地内に調剤薬局・証明発行センターが開設され、同年の 10 月に第 1 回生出コミュニティまつりが開催され今日に至っている。平成 2 年には「仙台市生出市民センター」に改称され、市民相互の交流と地域活動振興の拠点、また地域づくりの拠点として利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	ホテルの里・坪沼プロジェクト		
参加者	地域住民	延参加者	94 人
開催日	全 10 回 令和 3 年 4 月 8 日（木）～令和 4 年 3 月 13 日（日）		
協力者・協力団体	ふる里坪沼実行委員会・ホテル部会		
ねらい	坪沼地区の地域資源である「蛭」に着目し、蛭が育つ環境を保全するための活動や、飼育活動を通じて、住民自身が地域に関心を持ち、地域活性化のきっかけ作りとすることを目的にしている。観察会などのイベントを行い地域活性化を促すほか、地域内外の様々な団体、特に生出小学校との連携を強化することにより、実行委員と子ども達とが協働して、蛭とカワニナが生息しやすい環境作りを考え、世代間交流を図りながら環境保全の意識を次世代に継承していく。		
概要・成果	蛭観察会や小学校との連携事業などのイベントは新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施できなかったが、蛭飛翔地の環境整備や蛭の幼虫・カワニナの飼育などを実施。12 月には、地域の方々の発案により蛭の飼育場の水路を拡張し砂利を敷き詰めるという大がかりな整備を行った。多くの実行委員が参加し、新実行委員長を中心とした次世代を担う若い世代が、蛭の保護活動を通じてより一層結束を強めている。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おいで親子タイム	乳幼児幼親子を対象に、パネルシアター、こども縁日、おいもほり、リトミックの講座を開催した。	6 月 30 日～ 12 月 22 日	4	79
子どもと遊ぼう！お父さんの休日	子育て世代の父親と子を対象に、参加者同士の交流や若い世代が地域活動に関わるきっかけをつくる目的で、竹を使ったおもちゃづくり、木工、わくわく科学体験を開催した。	7 月 3 日 11 月 6 日 1 月 15 日	3	47
おいでわんぱく広場	近隣の小・中学生を対象として、外遊び・昔遊び、クリスマスリースづくり、陶芸体験、ジュニアリーダーと一緒に遊ぶ講座をそれぞれ開催した。	6 月 5 日 11 月 13 日 12 月 24 日 1 月 7 日	4	70
仙台市子ども会インリーダー研修会	児童と世話人が一堂に会しての研修会は実施せず、地区内の 6 子ども会向けに自主研修用の DVD と資料を配布した。	1 月	1	34

《太白区》

【中止】市民企画会議「おいで里ネット委員会」を経て実施する講座	「フライハイ！おいで するめ天旗風あげ大会」を2月に開催予定で進めていたが、市内の新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、児童・生徒の安全に配慮し中止とした。	【中止】 2月27日	—	—
生出朗壮大学	高齢者に適した課題を選定し、音楽鑑賞会、ものづくり体験、観劇等の講座を開催。コロナ禍に対応した内容も取り入れ学習を実施した。	6月18日～ 1月21日	7	141
★生出地区防災講座	地域の小・中学校と町内会代表者を対象に、大雨による水害とその予防について学習した。	8月5日	1	23
生出かかしまつり・コンテスト	小中学校、町内会、各種団体と連携して、「わたしの作りたいかかしの絵」と「交通安全標語」のコンテストを開催し展示した。	9月25日～ 9月26日	1	127
【中止】第32回「蛭と平家琵琶の夕べ」	共催団体と協議した結果、会場の密集・密接を回避できないことから中止を決定した。	【中止】 6月26日	—	—
【中止】第41回 生出コミュニティまつり	共催団体と協議した結果、新型コロナウイルス感染症の影響により、来場者・関係者の安全を考慮し開催中止を決定した。	【中止】 10月31日	—	—
生出市民センター運営懇話会	地域団体や小中学校の代表者と意見交換を行い、地域課題の共有を図るとともに、市民センターの地域での役割や事業を知っていただき、支援と協力を求める。令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、文書での開催となった。	8月、2月	2	32
生出学 歴史講座	成人を対象として明治期の生出の歴史や文化、民俗に焦点を当て、初代村長・長尾四郎右衛門の村づくりや当時の村民の暮らしぶりを、生出村村是を基に学ぶ講座を開催した。	12月4日 12月18日	2	37
市民企画会議「おいで里ネット委員会」	小中学校、子育て支援団体が企画員となり、地域の児童生徒の健全育成と郷土愛を育むための事業企画会議を開催した。	5月21日～ 1月18日	6	39
生出 花と緑のコミュニティガーデンづくり	花のある豊かな地域を創ることを目的としたガーデンボランティアを養成するため、園芸の基礎を学び、地域の小学校でボランティア実習を行い、ボランティアの意識を醸成した。	6月10日～ 11月11日	5	39
読み聞かせボランティア養成講座	市民センターの事業や地域の学校などで活動する読み聞かせボランティアを養成する目的で、読み聞かせの意義や選書、おはなし会の留意点、おはなし会見学、読み聞かせの実践ポイントを開催した。	11月25日 12月9日 12月15日 12月23日	4	44

【令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

図書ボランティアの活動支援

生出市民センターの図書ボランティアは、平成31年度に発足し、利用しやすい図書室にすることを目的に活動している。ボランティアの方のアイディアで書棚のレイアウトを大きく変更し、図書室をご利用の方からは「本を選びやすくなった」と喜ばれており、利用自体も増えてきている。図書ボランティアの活動内容や作業の進め方については、ボランティアの方たち自身が話し合いで決めており、現在は傷みが激しい本や情報が古い本の除籍作業と図書原簿の作成を行っている。

市民センターは、定例会の日程調整、活動備品準備や定例会控室の提供のほか、定例会に同席してボランティアの方たちとの交流を図り、楽しくやりがいを持って活動できるよう支援している。コロナ禍での活動についても「図書ボランティアの活動を楽しみにしているので続けたい」との声がある等、当初月1回であった活動日は令和3年度から2回になり、活動が活発化している。

中田市民センター

〔沿革〕

中田市民センターは、昭和44年10月、仙台市で5番目の公民館「中田公民館」として、中田中学校跡地に同校の旧体育館と旧校舎の一部を改築して開館した。昭和56年3月に本館を鉄筋コンクリート二階建てとして新築し、平成2年4月には「中田市民センター」と改称。平成19年7月からの大規模改修工事を経て、平成20年1月に再開し、現在に至っている。

平成元年度から平成11年6月まで、太白区内市民センター13館の拠点館として太白区全体の生涯学習推進を担っていたが、現在は、主として中田中学校区を担当する地区館として事業を展開している。

また、町内会連合会と地域関係団体とで「中田公民館運営協力委員会」が組織されており、「中田まつり」や「篝火コンサート」など、市民センター事業や地域の行事に大きな支援を行っている。近年、宅地開発が進み、戸建てやマンション、アパート建設などにより若い世代の転入者が増加している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	地域で作ろう！伝えよう！中田の七夕		
参加者	どなたでも	延参加者	665人
開催日	全8回 令和3年6月23日(水)～7月28日(水)		
協力者・協力団体	まちづくり推進部太白区中央市民センター、中田中学校、中田小学校、中田商工振興会		
ねらい	中田地域では盛大な七夕まつりを行っていたが、近年店舗が減少するなどかつての賑わいが見られなくなった。そこで令和2年度から、商店街の数店舗に飾る場所の提供や設営の協力をいただき、小規模ながら活動を継続させ、地域住民へのアピールの機会とすることにした。 地域の教育施設と住民が協力して子どもから大人まで七夕飾りの制作を行うことで、伝統を伝えるとともに思いを共有し、地域活性化へつなげていく。		
概要・成果	新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、小中学生や地域住民が参加して、それぞれに七夕飾りを制作した。中学生は地域や小学生へ向けたメッセージをつけたミニ七夕飾りを制作し、小学生は願いごとを書いた短冊を吹き流しにはるなどの活動を行った。 商店街からは飾る場所の提供や設営等の協力をいただき、地域に彩りを添えることができた。市民センターのロビーにも展示し、市民の方々にも楽しんでいただいた。コロナ禍のなかではあったが、小学生や中学生が伝統行事を継承する機会にもなり、地域の絆が深まった。		

〔令和3年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●中田はじめてママ講座	子育てに関する既存のサークルや団体、各種子育て支援施設と連携し、スクラップブック制作（託児付きで開催）、親子ビクス、情報交換会、クリスマスおはなし会といった子育て世代に向けた講座を行った。	9月29日 10月6日 10月13日 12月8日	4	46
なかだ親子体験クラブ	小学生親子を対象に、地域資源や歴史について学んだ。仙台市縄文の森広場の職員を講師に迎え、「縄文人の暮らしと文化」をテーマに講話を聴き、石のアクセサリー作りを体験した。	3月19日	1	19
インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染症対策のため対面研修に代わり、小学校を通し対象者に関係資料を配付し自主学習を行った。	1月21日	1	72

ジュニアリーダーとあそぼう 2021	8月28日に予定していた第1回目は新型コロナウイルスの感染拡大により中止としたが、第2回目は中田児童館の児童クラブの小学生とともにゲームと工作を行った。	11月27日	1	8
中学生企画「中田地域を考える絆」講座	中田中学校のボランティアメンバーを対象に、①企画会、②～④地域住民向けメッセージ付七夕飾りの制作と展示、⑤地域清掃活動⑥活動のふりかえり・地域ボランティアによる地域偉人の講話を行った。	7月1日～12月9日	6	217
和みさろん「なかとも」	地域住民を対象に、フラワーアレンジメント（講師：地域の花店）や「地域資料からみる中田のまち」と題して地域講師による偉人の話や名所等の解説を通し地域について学んだ。	7月15日 7月29日	2	11
中田老壮大学	高齢者の生涯学習の場として、「仙台ゆかりの文学者と作品」、「発掘調査からみる古代の仙台」、「異常気象と防災について」、「まち歩きを楽しむ方」、「フレイル予防のお話と音楽体操」、「シルバー川柳」などのテーマについて学んだ。	5月20日～1月20日	6	372
認知症カフェ「なかだにこにこカフェ」	地域7団体が連携し、当事者の話、脳トレ体操、中学校吹奏楽部演奏、相談コーナーなど「認知症にやさしい中田地区」の取組として認知症理解講座を行った。	12月4日	1	80
地域で取り組む中田の防災	町内会と連携し、地域全体の防災意識向上のため、①講話「コロナ禍での防災対策のあり方」、②AED講習を行った。（③2月予定の防災ゲームは、新型コロナウイルス感染防止のため中止とした）	11月28日 12月1日	2	30
【中止】 中田まつり	6月にまつり実行委員会役員会、7月に第1回実行委員会を開催して準備を進めてきたが、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、安全面を考慮し、役員会で中止を決定した。	【中止】 10月31日	—	—
【中止】 なかだ篝火コンサート	開催に向けて準備をすすめてきたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため直前で中止とした。	【中止】 9月4日	—	—
中田市民センター「気軽に話し合う会」	市民センター運営に役立てるため①市民センター利用サークル対象の懇話会②地域連携行事に関する近隣施設との情報交換会（コロナ禍のため、書面による意見集約）を実施し、近隣学校や地域団体から意見要望や課題を伺い、情報共有を図った。	1月28日 2月8日	2	12
複数年事業 中田の魅力伝えたい養成講座	令和3年度に完成した小冊子や地域資料を活かした地域の魅力を伝える活動のベース作りの学習会、企画会を行った。3回目は図書ボランティアと合同で学習会を開催した。	10月21日～3月12日	5	16

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

図書ボランティア「ブックスフレンド中田」の活動支援

図書ボランティア「ブックスフレンド中田」は、市民センター図書室の図書貸出や近隣小学校での朝の読み聞かせ活動を行っている。しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため十分な活動ができない状況であった。

令和3年度は、市民センターが小学校とボランティア団体をコーディネートし、今後の活動について話し合いの場を持ち、6月から読み聞かせを再開することができた。その後の日程や対象学年なども調整し、引き続き活動支援を行った。

また、読み聞かせの際は、令和2年度主催講座で作成した『地域の偉人 川村幸八さんものがたり』の冊子を活用して、子どもたちに地域の歴史を伝えることもできた。子どもたちが熱心にお話を聴き入る様子に接することは、ボランティア活動への励みになっている。

西多賀市民センター

〔沿革〕

西多賀地区は、桜で有名な三神峯公園や富沢遺跡があり、仙台でも暖かく環境に恵まれた、住みやすい土地である。昭和 50 年代、福祉に対する住民の要望が多様化し、自らが福祉活動に参加する傾向が現れてきた。そのため、活動拠点となる地域の施設を求める要望が高まったことから、昭和 53 年、仙台市として 5 番目の福祉会館として本施設が開設された。昭和 58 年、地域住民のより幅の広い利用を可能にするため、名称を市民センターと改めた。平成元年、政令指定都市移行に伴い地域の社会教育の充実のために公民館機能が組み込まれ、生涯学習の拠点として活用されている。

平成 3 年に児童館が併設され、平成 30 年 11 月には新館が開館した。現在は、子どもから高齢者まで誰でも気軽に利用できる市民センターとして親しまれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	西多賀今昔まち歩き		
参加者	地域の方	延参加者	16 人
開催日	全 2 回 令和 3 年 10 月 3 日(日)・10 月 10 日(日)		
協力者・協力団体	太白区中央市民センター・天沼公園愛護協力会		
ねらい	地域誌「西多賀まち物語」を教材としながら西多賀の今昔を学ぶことにより、地域への郷土愛を育むと共によりよい地域づくりへの関心を深める。令和 3 年度は、天沼とトロッコを中心に学びを深める。		
概要・成果	地域誌「西多賀まち物語」が刊行され、令和元年度からこれを題材として西多賀の今昔を学ぶ講座を開催してきた。令和 3 年度のテーマは「天沼とトロッコ」で、講師には、地域にお住まいでそれぞれ天沼と垂炭やトロッコに深くかかわってきた方お二人をお願いした。2 回連続講座で、1 回目は講話「地域とのかかわり深いため池とトロッコの軌道跡を訪ねて」、2 回目はトロッコの終着点から垂炭の坑口跡までのまち歩きを実施した。講師自身の記憶や当時の写真、天沼の浄化活動などを交えた話を聞き、それに基づいたまち歩きでは当時の様子を想像する事ができた。参加者からは地域の歴史をより深く知りたいという意欲を感じた。また、地域にいる方に講師をお願いすることで、地域人材発掘のきっかけともなった。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
にしたが子育て広場	「離乳食期から幼児食」と「子育て中の悩み相談」をテーマに子育て講座を 2 回、読み聞かせを 1 回、親子運動遊びを 2 回、計 5 回実施した。	10 月 27 日 ～1 月 14 日	5	52
インリーダー研修会	市民センターでの開催ではなく、管内の小学校を通じて子ども会に太白区中央市民センター作成の資料を配布し、自主研修として実施した。	1 月 20 日	1	—
西多賀今昔かるた大会	西多賀検定委員会と共催で、西多賀今昔かるたの遊びを通じて、子どもたちが地域の歴史を学ぶ場を設けた。	1 月 7 日	1	63

ジュニアリーダーとあそぼう！	併設している西多賀児童館と共催し、児童クラブ登録児童を対象に、工作とゲームを実施した。夏休み期間中は午前と午後に分けて人数を制限し広い会議室で、冬休みはホールで実施した。	8月3日～ 12月24日	5	197
にしたがキッズ情報局 2021	小学5・6年生が地域の魅力を多くの人に伝えるため、取材し情報発信をした。「亜炭とトロッコ軌道」をテーマに取り上げ、取材やインタビューを行い、30分のラジオ番組にまとめ放送した。	7月17日 ～1月5日	5	35
西多賀寿大学	郷土史、薬学、環境問題の講座や民話・音楽鑑賞の講座を開催した。コロナ禍のため受講生82人を2グループに分け、隔月で講座を実施。新型コロナウイルス感染拡大の9・10月は開催を中止し、2月の講座を3月に延期した。	5月19日～ 3月16日	8	211
手をつないで考えよう 減災・防災	地域の方々を対象に災害時に大切な命を守るための対応や、日々の備えを学ぶ機会を提供するために、避難所運営訓練や防災講座、防災クイズを開催した。	7月30日 10月2日 10月29日	3	221
●天沼公園から地域環境を知ろう	地域の方々や子供たちを対象に地域環境への関心を高め住みよい町づくりを考える機会とするために清掃活動や自然観察会を開催した。	5月8日 10月16日	2	38
広げよう福祉の輪	地域の方々を対象に西多賀地区で行われている福祉活動を周知し、積極的な参加を呼び掛けるために、ボランティア講座と「あいさつが飛び交う明るいまちづくり運動」ポスター・標語展示会を開催した。	7月17日、 11月12～ 11月14日	2	7
【中止】 西多賀ふれあいまつり	西多賀ふれあいまつり実行委員会で、展示のみで開催することを決定し、参加者を募集した。しかし、新型コロナウイルス感染症の急激な拡大により、9月1日臨時役員会で話し合い、開催を中止した。	【中止】 10月24日		
西多賀地域懇談会	町内会、各学校、民生委員児童委員協議会や地区社会福祉協議会等の参加により、生涯学習事業の企画に反映すべく地域の学習・地域課題、コロナ禍における取組について、意見交換や情報交換を行った。	7月14日	1	21

【令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「西多賀地区福祉団体連携会議」の活動支援

西多賀市民センターは、地域の福祉団体である西多賀地区社会福祉協議会、西多賀地区民生委員児童委員協議会、西多賀・八木山地域包括支援センター、西多賀地区町内会連合会、西多賀赤十字奉仕団と、2か月に1回、市民センターを会場に「西多賀地区福祉団体連携会議」を開催し、地域課題や各団体の活動について情報を共有し、問題解決に向けた意見交換を行っている。

令和3年度は、「あいさつが飛び交う明るいまちづくり運動」を実施。活動のためのポスターや標語を広く募集し、地域の小中学生や町内会サロンの参加者から多くの応募をいただいた。例年行われている地域住民との交流会「福祉のつどい in 西多賀」が新型コロナウイルス感染拡大により開催できなかった。その代わりに、市民センターを会場に「あいさつが飛び交う明るいまちづくり運動ポスター・標語展示会」を開催した。あいさつを通して地域住民がつながり、より良いまちづくりにつながる一助となった。

八本松市民センター

〔沿革〕

八本松市民センターは、八本松地区の国有地を取得し、昭和 60 年 5 月に、コミュニティ防災センターを併設した複合施設として開館した。さらに平成 20 年 4 月には、八本松児童館が新たに併設された。平成 26 年度に大規模修繕を実施し、平成 27 年 4 月に再開した。

近辺には広瀬川が流れ豊かな自然環境に恵まれ、史跡として国指定を受けた郡山遺跡、北目城跡がある。長町副都心長町駅東再開発が行われ、歴史的情緒を持ち合わせつつ、近代的な街並みを呈した地域である。

建物は八本松公園と隣接しており、町内会の集会や文化活動、レクリエーション、スポーツにと、子供から高齢者まで誰もが気軽に利用できる市民センターとして、地域住民に親しまれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★震災 10 年目からのAK2H地域防災講座		
参加者	地域住民	延参加者	105 人
開催日	全 3 回 令和 3 年 5 月 29 日(土)、8 月 7 日(土)、11 月 13 日(土)		
協力者・協力団体	八本松連合町内会・郡山地区連合町内会		
ねらい	当該地域は東日本大震災以降、毎年地域住民・学校・行政機関が一体となって防災訓練を行い、防災に対する意識は高い地域である。一方、地域の再開発に伴い転入者も増加するとともに、震災から 10 年が経過し訓練のマネリ化や参加者が偏る現状も浮かがる。このことにより、地域防災の現状などを検証しながら、住民が地域に必要と考える「防災に関する講座」を企画することで、住民主体で実施することを目的とする。また、新旧住民間で「防災」・「減災」の知識や行動の共有を図りながら交流の機会とする。		
概要・成果	現在の新型コロナウイルス感染症禍における災害発生時に対処できるよう、「避難所に頼らない自宅避難」・「八本松・郡山地区の水害予測と避難行動」・「震災時の対応から防災について学ぶ」の 3 回開催でおこなった。参加者にとっては避難行動の大切さ、自助の重要性、昨今の水害を再確認する大変貴重な機会となった。 各回とも活発な意見交換がなされ、特に「避難所に頼らない自宅避難」の回では、各家庭におけるなお一層の防災対策・安全対策について意識の向上が図られた。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
八本松子育てサロン おやこのまったりひろば	地域の社会福祉協議会と民生委員児童委員協議会と共催し、未就園児と保護者を対象に、おはなし会&子育て情報、親子で運動あそび、クリスマス会の内容で実施した。	5 月 20 日 6 月 10 日 6 月 17 日 12 月 16 日	4	68
親子のわくわくぼうけんタイム	地域の小学生と保護者を対象に、広瀬川周辺の野鳥の観察会と、地底の森ミュージアムの野外展示、樹木の木の実を使ったフォトフレーム作りを行った。	11 月 27 日 1 月 8 日	2	45
【中止】 秋休みレクリエーション大会	地域の小学生が遊びを通して交流を深める講座を企画したが、新型コロナウイルス感染症拡大により、募集の段階で中止とした。	10 月 9 日	—	—

仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会の運営方法や行事の進め方等について講話と実技で研修を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、資料配付による自主研修の形式とした。	資料・DVD 配布の自主研修形式	1	—
うぶすなスクールコネクト	郡山中学校と八本松・郡山地域研究会とを繋ぎ、地域理解や地域への愛着を育むために、郡山遺跡を中心とした郡山地域の今と昔について、中学校1年生に対して講話を行った。	1月14日	1	230
八本松寿大学	高齢者が主体的に健康で豊かな生活を送れるよう、居場所づくりや仲間づくりの場を提供するため、講話や実技・音楽鑑賞など様々な内容で学習会を開催した。	5月27日 ～12月9日	6	260
八本松市民センター 出前講座	郡山コミュニティセンターと東郡山コミュニティセンターを会場に歌と脳トレクイズや軽体操など気軽に参加できる内容で開催した。	11月6日 12月18日	2	36
八本松スマイルコンサート	新旧住民が共に集い交流を深めることを目的として、近隣住民が気軽に参加し楽しめるクリスマスジャズコンサートを開催した。2回目は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。	12月4日	1	58
【中止】 令和3年度 八本松市民センター まつり 第25 う ぶすなフェスティバル	地域のまつりとして開催することで、地域の結束を強め、地域住民に日頃の学習成果発表の場と交流の機会を提供し、地域の活性化につなげる予定であったが、コロナ禍のため開催することが出来なかった。	【中止】 10月31日	—	—
八本松市民センター 懇話会	市民センター利用団体の方々に対して、令和2年度の市民センター利用状況の説明や令和3年度の目標について話すとともに、市民センター利用についてのご意見をいただいた。	6月30日	1	6
伝統野菜を知ろう！	夏と冬の2回市民センターの敷地を利用して野菜を「植え付け」「育て」「収穫する」体験学習を行った。講師には地域の専業農家の方を招き、仙台の伝統野菜について栽培方法等を学んだ。	6月6日～ 1月22日	7	32
市民企画講座 「歩いてみっぺ～ AK2H」	地域内を散歩しながら新鮮な目で地域を見渡し、魅力を再発見する講座を行った。1回目は古代編、2回目は令和編とし、地域の過去から現在への変化にも注目した。	10月11日 11月10日	2	20
市民企画会議 地域の魅力再発見！ AK2H まちさんぽ	近年大きく変わりつつある地域内を俯瞰し、新たな魅力を発見しながら気軽に歩ける散歩コースを考えることで、地域にお住まいの企画員が、地域についての理解を深め、講座企画の楽しさを体感してもらうことができた。	6月5日～ 2月6日	13	47

【令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「八本松地域合同防災会議」への活動支援

八本松市民センターでは、事業としての「震災10年目からのAK2H地域防災講座」と併せて「八本松地域合同防災会議」を町内会や行政・地域内諸団体と一緒に開催している。年度内7回程の会合を持ち、その中では防災訓練開催についての会議だけではなく、行政職員や大学教授による講話や避難所での機器操作訓練などの実技開催へのアドバイスなどで、【実際に役立つ避難訓練】へ向けての会議や講師への依頼仲立ち、機器備品管理等のなどの動きで全体的なコーディネートを図った。このことにより、地域ぐるみで防災を身近なものとして捉えていけるよう、地域住民の意識向上に寄与することができた。

八木山市民センター

〔沿革〕

八木山市民センターは、仙台市南西部に位置し昭和 30 年代後半～40 年代中頃にかけて整備・開発された、豊かな自然が残る調和の取れた住宅地である八木山地区に、昭和 62 年 4 月 6 日開館した。平成 20 年 11 月には新しい体育館を増設、平成 25 年度から 26 年度にかけては大規模修繕を実施し、平成 27 年 4 月に再開した。

当市民センター周辺は、八木山動物公園や八木山ベニーランドなどのレクリエーション施設をはじめ、大学、放送局、総合病院など学術・文化・医療の施設等が揃い、地域住民ばかりでなく広く仙台市民に親しまれている地域である。また、センター隣接地が平成 27 年 12 月に開業した地下鉄東西線の西の起点駅（八木山動物公園駅）となり、交通利便性向上となったことから、新たに住民も増加し地域全体でも人口増となり、新しい街づくりが進んでいる。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	広げよう八木山防災の輪		
参加者	八木山中学校 1 年生	延参加者	123 人
開催日	全 1 回 令和 3 年 6 月 25 日(金)		
協力者・協力団体	仙台八木山防災連絡会加盟・助け合い部会メンバー(太白消防署八木山出張所、太白地区婦人防火クラブ連絡協議会八木山支部、消防団八木山分団)、東北工業大学		
ねらい	仙台八木山防災連絡会加盟団体である地域の消防関係団体（太白消防署八木山出張所、太白地区婦人防火クラブ連絡協議会八木山支部、消防団八木山分団）および東北工業大学と連携し、八木山中学校 1 年生を対象に防災授業を開催。地域の消防・防災各団体の活動を知り、地域に密着した防災の課題を学ぶ機会とするとともに、地域のメンバーとして中学生に期待される役割を習得し、今後の地域防災へ向けて主体性を養う場とする。		
概要・成果	1 年生全クラスの 5・6 時限目の出前授業として実施した。コロナ禍の中での開催となったことから、体育館内で十分な間隔を取り、「防災ダンス」の実演を行うとともに、震災時の先輩中学生の活動も知り、地域の防災活動を担う主体としての意識醸成を図ることができた。また、地域の防災活動を担う消防署・婦人防火クラブ・消防団活動の実態を学び、災害時に自分たちができることも学ぶ機会ともなった。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
【中止】 おやこであそぼう♪	市民企画会議「子育て世代の企画会議」を経て企画したが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。	【中止】 3 月 1 日	—	—
仙台市子ども会イン リーダー研修会	子ども会活動の中心となる児童、世話人を対象に実施予定であったが、コロナ禍のため、DVD・資料を配布し自主学習という形で開催した。	3 月	1	—
【中止】 日本の伝統文化を学 ぼう	地域の小学生を対象に茶道や工芸作成を通じ、日本の伝統文化を学ぶ講座を企画したが、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ中止とした。	【中止】 12～3 月	—	—
地域の絆プロジェクト 「動物公園の壁に絵を 描こう」	太白区地域連携ネットワーク事業に参加する 5 つの小中学校を中心に、市民センター、東北工業大学等と連携し、地域の小学生 20 組が八木山動物公園の壁に絵を描いた。	10 月 23 日	2	20
八木山の豊かな自然 を散策しよう	八木山地域の豊かな自然を地質・生物・歴史等の講話を交えながら、1 回目は八木山市民センターから笹川洞門までの散策、2 回目は川内駅から亀岡八幡宮を経て青葉山駅までの散策を行った。	5 月 29 日 11 月 6 日	2	13

在仙外国人向け日本語講座「日本語ティールーム」	日本語を母国語としない外国人を対象に、託児室も常設のうえ、ボランティア団体による日本語指導の講座を市民センターとの共催で行った。	5月12日～ 3月11日	13	226
八木山小学校社会学級連携事業「うち時間ここちよく」	家族との時間が増えた生活や成長に伴う暮らしの変化を心地よいものにするため、生活空間の在り方を考える講座を開催した。	10月19日	1	13
自然素材で季節の飾りを作ろう	成人を対象として、地域にある自然資源を見直すことを目的に自然素材を使ったクリスマスリース作りを行った。	12月2日	1	4
やぎやまシニア大学	地域の高齢者を対象に健康・歴史・文学などの講座（講話・実技）と移動学習（年1回）を行った。コロナ禍のため、定員100名を2コース（定員の50名とし隔月）に分け、開催した。	6月10日～ 2月2日	10	355
地域防災シンポジウム in 八木山	地域防災活動で活躍する団体の取り組みや研究成果を共有し、世代を超えた意見交換を行う講座。集合形式の講座は令和3年度も困難と判断し、オンライン開催とした。	11月27日	1	
【中止】 八木山小学校社会学級連携事業（仮）秋のふれあいコンサート	社会学級と連携コンサートを開催する予定であったが、コロナ禍により開催中止を決定した。	【中止】 9～11月	—	—
金剛沢緑地ウォークラリー	金剛沢緑地愛護協力会が地域の憩いの場として整備を行っている「八木山テラス」および金剛緑地を会場に、散策を通じて地域の自然の魅力を感じ取ってもらうことを目的に、クイズを解きながらのウォークラリーを実施した。	11月14日	1	44
【中止】 第33回 八木山市民センターまつり	市民センターや地域で活動している団体・サークルの学習成果発表の場の提供を予定していたが、コロナ禍により実行委員会にて中止を決定した。	【中止】 10月9日 10月10日	—	—
秋の八木山フェスタ	地域の文化・教育・アミューズメント施設を中心に地域組織が連携し行うイベントを予定していたが、コロナ禍により中止となった。地域児童を対象とするポスターコンクールのみを実施した。	11月3日	1	—
八木山気軽に懇話会	学校関係者・地域団体との懇話会と市民センター利用サークル・団体との懇話会を開催した。	12月16日 3月10日	2	23
市民企画会議「子育て世代の企画会議」	八木山南児童館と連携し、子育て世代の企画員が同世代を対象とする事業の企画会議を開催した。	7月1日 11月5日 12月2日	3	13
【中止】 おやこであそぼう♪	市民企画会議「子育て世代の企画会議」を経て企画したが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。	【中止】 3月1日	—	—

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

仙台八木山防災連絡会の活動支援

仙台八木山防災連絡会は、災害に対して安心して生活できるよう、八木山の住民の幸せを支援することを目的とし、2008年4月に設立された団体で、地域住民・学校・行政関係・企業等から構成され、地域一体となって防災力の向上に努めている。

市民センターは事務局として会議開催の準備や調整、資料作成、会計、外部団体との窓口・連絡調整等幅広く活動支援業務を行っている。令和3年度は、加盟各団体と連携を図り「防災キャンドルナイト」開催を実現するなど、災害復興を目的とする民間助成金の活用によりこれまで以上に多岐に渡る仙台八木山防災連絡会の活動を幅広く支援している。コロナ禍で活動が大幅に制約される中においても、地域防災意識醸成の一助としての重要な役割を市民センターが担っている。

山田市民センター

〔沿革〕

山田市民センターは、昭和 62 年 4 月 17 日、旧笹谷街道沿いに戦後住宅街として開発され発展してきた山田地区に、コミュニティ防災センターを併設して開館した。平成 29 年度には大規模修繕を実施し、平成 30 年 4 月に再開した。

当市民センターは縄文遺跡や鹿除土手、太白山自然観察の森などの歴史遺産や昔ながらの自然を残す恵まれた環境の中にあり、太白消防署、鉤取郵便局、鉤取球場、縄文の森広場などの公所・施設や小中学校、大学などの教育機関も多く立地している。また、国道 286 号線沿いには大型商業施設が立ち並び、高い集客力を有している。こうした環境の中、当市民センターは地域の生涯学習や地域コミュニティづくり、交流の場として地域住民に広く活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	山田かがやき隊		
参加者	地域の高齢者、親子、小学生	延参加者	109 人
開催日	全 5 回 令和 3 年 7 月 16 日(金)～12 月 18 日(土)		
協力者・協力団体	まちづくり推進部太白区中央市民センター、山田鉤取地域町内会連合会、山田鉤取地域社会福祉協議会、山田地区民生委員児童委員協議会、上野山児童館		
ねらい	参加者が市民センターを身近に感じ、継続的な利用や生涯学習、ボランティア参加をとおして地域とつながるきっかけ作りをする。また、地域の団体と連携することで地域全体での見守り体制が構築され、地域住民のより安全・安心な生活にもつながり、市民センターを含めた 6 者間で情報を共有する場も創出される。		
概要・成果	仙台市が推進している地域団体連携促進事業として、地域の町内会連合会と社協、民児協、児童館へ連携を呼び掛け、高齢者と親子、小学生を対象にミニ七夕かざり作り、竹細工作り、お正月飾り作りを実施した。連携団体が講座の準備から関わり、事前練習会などを通して交流が進み、互いに顔が見える関係となった。また、参加者にはコロナ禍で外出機会の少ない中、世代を越えて地域とつながるきっかけづくりとなる場を提供した。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
サマースクール山田	夏休みに高齢者を含めた地域の大人や他地域の小学生と関わりながら、ジュニアリーダーと遊んだり、縄文体験、消防署探検、草木染め体験、ダンス、天体観望会といった様々な体験にチャレンジする機会を提供した。	7 月 27 日～ 1 月 14 日	6	123
インリーダー研修会	太白区は、令和 3 年度も各子ども会へ教材 (DVD、冊子) を配布し、自主研修していただくことになった。10 月 19 日に小学校へ教材配布を依頼済み。12 月 24 日に学校へ持参済。	12 月 24 日	1	38
山田豊齢大学	高齢化社会において、生きがいを持って健康で心豊かな生活を送ることができるよう、音楽や軽体操を始めとした様々なジャンルの学習や、他の受講生と交流する機会を提供した。	5 月 13 日～ 12 月 2 日	5	223
山田なごみたいむー 心と体をほぐしまし ようー	新型コロナウイルス感染予防のため、講座回数を 2 回から 1 回に減らした。認知症予防についての講話や地域の施設情報の紹介、ストレッチ体操、コンサートを行い、気軽に外出して自身の健康について考えるとともに、他者と交流する機会を提供した。	3 月 15 日	1	29

山田鉤取まち巡り	山田鉤取まち物語管理運営委員会との共催で地域の魅力・遺跡・自然を紹介するまち巡りを実施した。また、上野山小学校 3 年生の校外学習でもまち巡りを実施し、総合学習の時間には、前述の委員会のメンバーがゲストティーチャーとして地域の遺跡について講話した。動画作成においては、「聖徳太子堂」の紹介動画を作成した。	6 月 3 日～ 3 月 17 日	11	213
●山田鉤取地域防災訓練	10 月に予定していた管内の小・中学校 5 校同日開催の防災訓練はコロナ禍のため中止となったが、地域防災リーダー等を中心とした指定避難所毎の代替訓練として、防災資機材の点検や組立訓練、避難所開設訓練等を実施し、事務局機能として関連団体との連絡・調整を図った。	6 月 9 日～ 10 月 13 日	5	71
第 23 回山田ふれあいまつり	新型コロナウイルス感染対策を徹底して、2 日間開催した。舞台の DVD 発表・生演奏、展示、出店等例年より規模は縮小したもの、地域住民の発表の場、交流の場を提供できた。	10 月 30 日 10 月 31 日	2	1,500
地域懇話会	地域の教育関係者や市民センター利用者との意見交換会を企画した。教育関係者との会議は新型コロナ感染拡大により中止としたが、市民センター利用者との会議では各団体の抱える問題等を共有し、市民センターへの示唆に富んだ意見・要望を聴取することができた。	12 月 11 日	1	12
市民企画会議 「山田スマイル企画会」	第 1 回企画会議は対面にて実施内容等について話し合ったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、第 2 回以降は電話で連絡を取り合う形をとった。企画員との話し合いで決めた内容等に沿って、実施に向けて進めた。	6 月 3 日	1	2
市民参画型事業 「楽元の森プロジェクト」企画委員会	地域資源である『楽元の森』を活用した講座の企画・運営や企画員の研修を実施した。また、企画員自らの勧誘により、新たに 2 名が企画会に加入した。	4 月 3 日～ 2 月 12 日	5	50
【中止】 市民企画講座 「無理せず楽しく！ ノリノリ運動」	10 月に実施予定だったのを 2 月に延期したが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。	【中止】 2 月 10 日	—	—
楽元の森プロジェクト	鳥の巣箱の中の観察、竹製の遊具での遊びやロープクライミング、木の実等を使ったクラフト作成、ピカボードを作成し楽元の森での展示・点灯及び地域団体による演奏会を実施した。	7 月 17 日 10 月 16 日 11 月 21 日 11 月 27 日	4	267

〔令和 3 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「図書ボランティア縄文」・「あめんぼの会」の活動支援

「図書ボランティア縄文」は、長年にわたり市民センター図書室で図書の貸出・蔵書点検・選本等の活動をしており、市民センターでは定例会を開催し、連絡・調整等の支援を行ってきた。一方で、家庭の事情等で活動できないメンバーもあり、人材不足が課題だった。そこで、市民センターではセンターだよりでの広報や地域の方への声かけの支援を行い、3 名の新しいメンバーを迎えた。

また、読み聞かせボランティア「あめんぼの会」のメンバーも、伊藤忠財団から助成を受け購入した図書が図書室に置かれることになったことを受け、市民センターより図書室での貸出等の活動を勧めたところ 5 名が図書ボランティアとして活動することになった。

市民センターで活動する 2 つの団体が図書室の活用について協力体制ができたことで地域の方々にとって身近で気軽に利用できる図書室になっている。

茂庭台市民センター

〔沿革〕

茂庭台地区は仙台市西部に位置し、市内中心部から車で約 20 分の距離にあり、古くからの梨野地区と住宅が多く建ち並ぶ茂庭台地区からなっており、豊かな自然環境に恵まれている。

茂庭台市民センターは、昭和 63 年 4 月にコミュニティ防災センターを併設して開館し、平成元年 4 月から地域社会教育の拠点として公民館事業を開始した。平成 2 年には児童館が併設された。平成 30 年度には大規模修繕を実施し、平成 31 年 4 月に再開した。

近隣には市営住宅や多くの福祉施設があり、高齢者、子ども、福祉施設の方々や外国人居住者の利用も多く、当市民センターは地域コミュニティの交流の場となっている。また、コミュニティ活性化に向けて連合町内会による地域活動が積極的に進められている。地域ニーズ、課題解決を図るため「市民本位の生涯学習拠点」「市民が主役の交流拠点」「市民参画による地域づくりの拠点」として、より多くの利用者に気軽に足を運んでもらえる様な事業を実施するとともに、地域課題解決のもとに集まれるネットワーク拠点としての機能が持てるようなセンター運営を行っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	住民参画型事業・複数年事業「みんなの広場」プロジェクト		
参加者	地域住民	延参加者	88 人
開催日	全 11 回 令和 3 年 6 月 12 日(土)～令和 4 年 3 月 19 日(土)		
協力者・協力団体	まちづくり推進部太白区中央市民センター		
ねらい	広場を活用した地域コミュニティ活性化に向け、地域人材の発掘・育成、地域情報の共有、地域資源の有効活用、事業の企画・実施、地域活性化の理念共有を基に令和 3 年度は複数年事業の 4 年目として企画していく。また企画員を通して地域住民同士の「顔の見える関係づくり」強化を目指す。		
概要・成果	市民企画員による会議を経て広場を活用したコンサートとライトアップ事業を企画した。令和 3 年度はコロナ禍の影響下でも出来ること企画運営することが、閉塞感を和らげ、地域活性化につながると考え企画会議を重ねた。併せて仙台市のガイドラインに則った講座を実施するため、令和 2 年度に作成した新型コロナウイルス感染症対策マニュアルをブラッシュアップした。新たな試みとして企画した広場のライトアップでは、地域を巻き込むことで広場を灯すランタンに必要なペットボトル集めやランタン作りのワークショップに地域住民の協力等を得ることができた。 これらにより、令和 2 年度よりも感染対策の向上や地域住民の生涯学習事業への積極的な参加につながった。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
もにママサロン	茂庭台地域は、少子高齢化や核家族化が進み、若い世代や子育て世代が交流する場が少ない。写真撮影講座や人形劇観賞など、地域の子育て世代が気軽に参加できる場を提供した。	7 月 9 日 12 月 10 日	2	30
もに輪っ子体験クラブ	子どもの健全教育を目的とした、工作、スポーツ、自然等の体験学習の場を設け、子どもたちが協力しながら活動することを通して、人とのつながりの大切さを学ぶ機会とした。	7 月 10 日 8 月 7 日 8 月 19 日 10 月 12 日	4	47

インリーダー研修会	子ども会の児童・世話人を対象に、子ども会活動の知識や技術について研修の機会を提供し活性化を図る。令和 3 年度は新型コロナウイルス感染対策として、冊子と DVD 配布による自主学習とした。	1 月 7 日	1	—
男の休日倶楽部	男性の興味関心が高い写真撮影の講座を企画し、作品作りを通して住民同士交流しながら。成果発表をした。市民センター講座への新規参加者の開拓にも繋がった。	6 月 26 日～ 11 月 23 日	5	10
茂庭台大学	介護予防講座・健康教室・音楽鑑賞など、地域の高齢者が健康で生きがいのある社会生活が送れるよう生涯学習の場を提供した。	5 月 21 日～ 2 月 18 日	7	229
地域懇談会	町内会、学校、施設・団体等を対象にした会と利用団体を対象にした会とに分けて開催。市民センター・児童館の現状、地域の様子等を共有しなら、ご意見をいただいた。	10 月 27 日 10 月 29 日	2	37
地域防災講座	「ビニル袋でサバ飯をつくろう」ということで、防災資機材倉庫内のガスバーナーと大鍋でお湯を沸かし、その熱湯とビニル袋を使って調理した。避難所運営に生かせる方法を学んだ。	2 月 26 日	1	4
もにわだいを楽しく歩こう	茂庭台ガイドボランティア養成講座で学習を積んだ案内人「もにわだいを歩き隊」のガイドのもと、茂庭台の地域資源を活かしたまち歩きを実施し、わが町を知り学ぶ機会を提供した。	5 月 15 日 10 月 30 日 12 月 11 日	3	24
茂庭台地区市民文化祭	新型コロナウイルス感染症対策として、録画上映によるステージ発表に加え、消毒の徹底と入場制限を施した展示発表や出店イベントと、内容を精査して開催した。	11 月 26 日 11 月 27 日 11 月 28 日	3	385
【中止】 出前講座 茂庭台 市民センターがお じゃまします	市民センターから距離のある復興公営住宅に出前講座を企画していたが、新型コロナウイルス感染状況を鑑み、止む無く中止とした。	【中止】 2 月 23 日 3 月 4 日	—	—
住民参画型事業・複 数年事業「天空の広 場」盛り上げ隊	市民企画員を中心に企画した事業として、令和 3 年度はコンサートとライトアップを実施。事前にライトアップ用のランタン作りのワークショップも開催し、親子連れの参加も見受けられた。	12 月 11 日 12 月 19 日	2	68

〔令和 3 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

水道山整備ボランティアの活動支援

団地内にある茂庭台緑地は、地域住民から「水道山」と呼ばれている。以前は草木が鬱蒼と生い茂り倒木が多く、危険な場所とされていた。植生が豊かだった頃の姿に戻したいとの声が市民センターに寄せられ、平成 21 年度に市民センターが企画講座を実施し、水道山整備に取り組んだ。その時の企画員 6 名が中心となり、水道山整備ボランティアを結成。平成 23 年度から自主的に活動し、平成 29 年度には太白区まちづくり活動賞を受賞した。

令和 3 年度は遊歩道の整備、枯損木の伐採の他、地域資源の保全活動の一環として地域住民の憩いの場所となる休憩スペースの整備にも取り組んだ。また、地域資源の活用例として市民センター主催講座のまち歩きマップの行程に取り入れる等、水道山を知ってもらおう活動も行った。その他、整備活動にあたる上で必要な各種手続きや活動記録作成、ボランティアからの相談受付や情報提供等、新たなボランティア募集などのサポートも行っている。

東中田市民センター

〔沿革〕

東中田市民センターは、平成元年４月に児童館、保健センター、コミュニティ防災センターを含む複合施設として開館した。令和２年１２月から令和４年１月まで大規模修繕工事を実施した。

当市民センターが位置する東中田地区は、仙台市太白区の東南端・名取川下流域にあり、名取川と広瀬川の合流点にも近く、素晴らしい自然環境に恵まれ、古墳や寺社仏閣などの歴史的資産を有している。

農村であったこの地域に、近年は高層の市営住宅や高齢者福祉関連施設、ミニ開発による一戸建て住宅が次々に建設され、商業の発展も著しい。新旧住民が混在し、急速に発展している地域環境に対応した地域コミュニティの確立が望まれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	ハーブでリフレッシュ！ ラベンダーでハーブチンキを作ろう		
参加者	地域住民	延参加者	13人
開催日	全１回 令和３年７月６日(火)		
協力者・協力団体	—		
ねらい	東中田地域には、市民センターをはじめ小・中学校など地域にラベンダーを広める活動をしている方がおり、これまでもラベンダーを活用した講座を毎年開催してきた。コロナ禍で様々なストレスを感じながら暮らす人が多いことから、これまであまり取り上げなかったラベンダーの効果や効能を学び、自然素材を生活に取り入れて健康に対する意識を高める。		
概要・成果	これまでは、市民センターに咲くラベンダーの活用ということで、ラベンダースティックやラベンダーのポプリを入れた小物作りなどの講座を開催してきたが、改めてラベンダーの効能や効果を学び、自然素材を生活に取り入れるという新たな視点での講座を開催することができた。参加者からは、「香りのストレス軽減効果のほかに、成分抽出液（チンキ）の殺菌効果や皮膚再生の効果などをわかりやすく楽しく学べた」といった感想が多く、ラベンダーを広めている地域の方にも張り合いとなった。また、チンキを作る材料を提供いただき、今後も地域人材と素材の両面でラベンダーを取り上げていく意義を確認した。		

〔令和３年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	子ども会活動の充実と活性化を図るため、会のリーダーとして活躍する児童及び世話人を対象に、子ども会について知識や活動に必要な技能について学習する機会を提供する。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、資料とDVDの配付による自主研修の形式とした。	1月15日	1	—
東中田キッズ広場	児童館併設の特性を活かし、市民センター利用サークルを講師として迎え、小学生を対象に樹脂粘土でのネームプレートづくりを行った。9月にはニュースポーツ体験を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大により中止した。	8月7日	1	11

東中田老壮大学ー通信制	高齢者が地域とのつながりを持ち、生きがいを感じながら地域生活をおくることが出来るよう、様々な内容の学習の機会を提供する。令和3年度は市民センター大規模改修工事とコロナウイルス感染防止対策のため、通信制で4回の紙面発行により実施した。	5月19日 8月18日 11月17日 2月18日	4	160
【中止】 防災・減災学びの学校	地域住民が水害等の災害について学習し、防災に対する意識をより高めるための講座を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。	【中止】 9月11日	—	—
まちのトレジャー・レポーター	地域の「お宝マップ」を基本に、地域紹介の映像作品を制作した。地域の小中学生13人と成人6人が一緒に制作に取り組み、1編約7分の作品2編が完成。場所の選定や撮影、タイトル画の制作、編集などを行った。自分の住む地域を見直すとともに、地域への愛着を深める一助となった。今後、制作した作品を地域行事などで上演し、制作に参加しなかった地域住民にも地域への思いを共有していく。	7月24日～ 3月26日	8	133
みんなのコンサート	東中田地域は、仙台市中心部から距離があり、高齢化も相まってコンサートは好評を得てきた。地域住民に身近な場所で仙台フィルハーモニーのメンバーの演奏、中学校の吹奏楽部（映像にて）、ボサノバの演奏など、多彩で質の高い音楽を提供することができ好評を得た。	11月6日 1月8日	2	88
東中田地域コミュニティ懇話会	地域の特性や課題を把握するため、管内の町内会や地域の団体、小中学校等から関係者を招き、それぞれの状況や情報を収集し、課題や地域の特性を把握するために懇話会を開催した。懇話会は、児童館との共催し、より広い範囲の団体の方々へ市民センターへの理解を深めていただく場とした。	6月22日	1	17

【令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

ほっこりサロンボランティア「ほっこりの会」の活動支援

平成26年度の市民センター事業から立ち上がったほっこりサロンボランティア「ほっこりの会」は、発足から年数を経て、会のメンバーが徐々に減ったものの、チームワークが良く、人材もそろっている。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響で人と人が触れ合う「タッピングタッチ」や「ハンドマッサージ」「お茶とおしゃべり」などのツールがすべて使えなくなった。そこで、新たなツールとして「セルフタッピングタッチ」やひとりのできる「指ヨガ」などを学ぶ機会を提供し支援を行った。このような新しいツールに加えてメンバーそれぞれの持つ折り紙や軽体操、読み聞かせなどのスキルも生かし、感染対策を講じながらサロンを継続している。

特に令和3年度は、当センターが大規模修繕で活動場所がなくなることが懸念されたが、児童館と共催で、仮設の東中田児童館で平日の午前中にサロンを開催し、場の提供とともに広報等の支援を行った。メンバーは幼児親子の来館に対応するため、絵本や紙芝居、歌など内容も対象に合わせて準備をしていたが、コロナ禍で幼児親子の来館も少なくなり、サロンを継続していることを知った地域の方が、数人でサロンを訪れ、楽しんでいかれるようになった。来訪者が少なくても、サロンを開催し、メンバー自身のスキルアップの場としている自主性から、さらに新たなツールを見つけ、サロン利用者の増加が徐々に見込まれている。

柳生市民センター

〔沿革〕

柳生市民センターは、平成 9 年 4 月に、市内 52 番目の市民センターとして児童館・コミュニティ防災センターを併設して開設された。

当市民センターが位置する柳生地区は仙台市最南端に位置し、住宅地・商業地として発展している。また自然環境に恵まれ、柳生和紙など伝統工芸も残されている。マンション等の建設に伴い、他地域からの転入者も多く、若年層の世帯が比較的多い地域である。

このような地域特性と地域資源を活かし、多様化する住民の要望等に対応しながら生涯学習の拠点として各種事業を展開し、地域コミュニティの形成・住民の自主的活動の場としての役割を担っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	みんなでボッチャ		
参加者	どなたでも	延参加者	71人
開催日	全5回 令和3年6月11日(金)～令和4年1月14日(金)		
協力者・協力団体	西中田地域包括支援センター、中田西部地区社会福祉協議会、柳生・西中田地区体育振興会		
ねらい	従来進めてきた合唱とボッチャを主体とした講座を、地域住民の要望に応じ「ボッチャ」に特化して令和3年度新規に立ち上げた事業である。なお、この事業を実施するにあたっては、参加者の中からボッチャをコーディネートできる人材を育成するための研修会を令和2年度に開催している。 この事業は、地域住民がだれでも気軽にできるパラスポーツを広めながらコーディネートできる人材を養成し、地域の体育振興会や地域包括支援センターなどと連携して、地域住民の交流を図りながら、地域の健康増進に寄与することを目的とする。		
概要・成果	全6回の予定であったが、新型コロナウイルス感染予防のため5回の開催となった。毎回、多くの住民が集まり、自主的にボッチャサポーターとして、ゲームの準備や審判などの運営・進行を担うなど、人材育成はもとより、健康増進も図りながら地域の貴重な交流の場とすることができた。参加者からも好評で、ますます参加者が増加する傾向にある。また、最終回には、1月28日に開催を予定していた「ボッチャ大会」参加者を交えての「ボッチャ体験会」を実施した。		

〔令和3年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
柳生子育てサロン	乳幼児親子を対象に親子リトミックや季節の行事体験や親子体操を通し、親子のふれあいや参加者同士の交流の場を提供した。	10月1日 10月22日 11月12日 12月10日	4	134
柳生キッズあそび隊	児童を対象に、科学実験（ビスマス鉱を使用したアクセサリ作り、手回し発電機の実作）を実施した。柳生中学校や柳生小学校おやじの会と共催したことで、顔の見える地域づくりの一助となった。	10月23日 12月4日	2	32
仙台市子ども会インリーダー研修会	次年度子ども会のリーダーとなる児童と世話人を対象に、活動に必要な知識や技能を修得する機会を提供し、地域の子どもの会活動の充実と活性化を図った。	2月6日	1	15

みんなでボッチャ大会	パラリンピックでも話題となり年齢や性別の区別なく楽しめる「ボッチャ大会」開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のため、「みんなでボッチャ」参加者と合同で体験会のみ実施した。	1月14日	1	19
柳生シニアスクール	主に高齢者を対象として、健康や生活に役立つこと、防災に関すること等について学ぶ機会を提供したほか、ニュースポーツ体験、コンサート、運営委員会による自主企画講座等を実施した。	5月26日～ 2月15日	10	481
柳生地域防災講座	初回は「地震体験会」を開催予定であったが、地震体験車の故障により中止となった。2回目は一般市民を対象に心肺蘇生法・AED取扱い方法や救命講習会を実施した。3回目は新型コロナウイルス感染予防のため中止とした。	11月9日	1	4
柳生季節のコンサート	新型コロナウイルス感染症により全4回予定が1回の開催となった。12月7日に琉球国祭り太鼓演奏を行い、普段聞くことがない沖縄音楽とその文化に触れ、地域住民が興味を持つ一助となった。	12月7日	1	61
第16回柳生市民センター・児童館まつり	新型コロナウイルス感染症により二度の開催延期と開催内容を変更して、ロビーでの映像上映を行うとともに、ホームページへの掲載という形で開催した。コロナ禍においても、地域の諸団体と会議を重ね、開催に向けコミュニケーションを図った今回の企画は大変有意義なものとなった。	3月1日～ 3月27日	24	400
柳生・西中田地域懇話会	1回目は新型コロナウイルス感染対策のため書面会議としたが、2回目は実開催とすることができた。懇話会では、令和2年度事業実績や令和3年度事業計画等に対していただいた多くの意見や要望を市民センター事業へ反映することが出来た。	6月11日、 2月25日	2	38
市民企画会議 柳生 おとなの学校	3年間の活動で、柳生和紙や地域資源を自分たちで見出し、講座の企画運営等を行ってきた。その実績を踏まえ、令和3年度は、ニュースポーツの「ボッチャ」を取り上げ、「ボッチャ大会」開催を企画した。	7月4日 12月4日	2	4
おやじの作戦会議	柳生小学校おやじの会と連携し講座企画につなげるため、既存のおやじの会の活動事例を紹介した。また、市民センター事業についての研修と企画会議を兼ね、おやじの会との共催事業「柳生キッズあそび隊～電気実験教室」を実施した。	7月10日 12月4日	2	6
【中止】おやじの作戦 会議で企画した事業	新型コロナウイルス感染拡大により、事業の実施には至らなかった。	【中止】	—	—

【令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「中田西部地区の未来を育むプロジェクト」への支援

町内会や学校支援地域本部など地域の諸団体で構成される「中田西部地区の未来を育むプロジェクト」では、将来の柳生を担う子ども達の健やかな育ちを支えるためのイベントを行っている。

令和3年度は「柳生・西中田キャンドルナイト2021」を開催し、多世代での交流や近隣地区の住民との交流が行われ、当市民センターでは、運営助言や区役所との事務手続き、活動の場の提供、広報、団体間の連絡調整等の活動支援を行った。

4年目となったこのイベントは、令和3年度までの「太白区地域連携ネットワーク事業」から「地域団体連携促進事業」に事業を拡充して実施し、上空からの空撮映像の映写会や参加団体による演奏会も行い、多くの市民から好評をいただいた。賑わいを増すこのイベントは年々地域に浸透しており、地域の恒例行事として定着しつつある。

富沢市民センター

〔沿革〕

富沢市民センターは、平成 13 年 11 月、地下鉄南北線富沢駅近くにコミュニティ防災センターを併設して開館した。

当市民センターの位置する富沢地区は、一級河川名取川・ＪＲ東北本線・国道 286 号に囲まれた地域で、中央部を笹川が流れ、かつては富沢・大野田遺跡のある田園地帯であった。地下鉄南北線開業以来、交通の利便性から宅地化が急速に進み、高層マンションと戸建住宅が混在する地域に変貌した。当地区は、転入してきた若い世帯が多く、子どもの多い地域である。

当市民センターは、市民が気軽に利用できる共有スペースとして親子室・娯楽室・図書室やラウンジを有し、年間を通し多くの地域住民が来館し、憩いの場や生涯学習の拠点として活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	おはなしの部屋		
参加者	乳幼児親子	延参加者	274 人
開催日	全 13 回 令和 3 年 5 月 12 日(水)～令和 4 年 3 月 16 日(水)		
協力者・協力団体	おはなし・はらっぱ		
ねらい	乳幼児親子が定期的に集う場を提供することにより、孤立しがちな乳幼児の親の仲間づくりを支援する。また、読み聞かせや紙芝居、親子でのふれあい遊びなどを通して、乳幼児の情操を豊かに育む一助とする。		
概要・成果	「おはなしの部屋」は令和 2 年度から新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定員を設け各回先着順の申込制として開催していた。しかし参加希望者が多く、受付開始後すぐに定員に達し、申込みを断らざるを得ないケースが頻発していた。そこで、より多くの乳幼児親子に参加の機会を提供できるよう、令和 3 年度は実施回数を 8 回から 15 回に増やして計画した。新型コロナウイルス感染拡大を受けて計画した内 3 回中止したが、読み聞かせサークル「おはなし・はらっぱ」の協力により 3 月に 1 回追加開催し、全 13 回開催することができた。 富沢エリアの乳幼児親子は転入世帯が多く、知り合いのいない地域で孤立しがちである上、コロナ禍で外出や交流の機会が減少している。「おはなしの部屋」では、おはなし会の後に自由に会話を楽しめるフリータイムを設けて参加者の交流を促している。同じ不安や悩みを抱える子育て中の親同士が、息抜きや情報交換ができる場を定期的に提供することにより、参加者から高評価を得ている。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●つながる地域の子育て応援隊企画会	地域の子育て支援団体が連携して企画会議を行い「つながる地域の子育て応援隊ポケットブック」を作成し、子育て支援情報を発信した。また、コロナ禍により孤立化が深刻な乳幼児の母親を対象に座談会「ママのしゃべりタイム」を実施し、情報交換や相談の機会を提供した。	6 月 18 日 ～2 月 4 日	9	115
とみざわ子どもの広場	小学生親子を対象とした地域資源である笹川の生態系を学ぶ観察会と、ペーパークイリングの技法を学ぶクリスマスカードを作る講座を開催した。(笹川観察会は 2 回開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大のため、1 回のみの実施とした)	6 月 12 日 12 月 11 日	2	51

《太白区》

富沢小学校連携事業	富沢の未来を創る子どもたちが、地元への理解と愛着を深めることができるよう、地域の歴史を学ぶ「地域を知って富沢博士になろう！」や町内会の役割を学ぶ「町内会ってな〜に」、未来の太白区を考える「まちづくり〜人と人とのつながり」などの学びの機会を提供した。また、地域から講師を招き、対象となる小学３年生との交流を橋渡しした。	7月8日 1月25日 2月8日	3	567
インリーダー研修会	小学５年生と子ども会の世話人を対象として、子ども会の活性化を図るための研修を資料とDVD配布による自主研修として開催した。年度当初は市民センターを会場に研修会を行う予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため自主研修となった。	1月21日	1	22
いのちを守る講座	地域の防災・減災について学習し、災害時に命を守る行動へ繋げる為に、講話「ざる川水害に備えてーマイ・タイムラインで避難準備ー」、AEDを使った救命講習２回を開催した。	11月6日 1月18日 2月10日	3	22
富沢シニアクラブ	シニア世代が生きがいのある健康的な生活を維持できるように、文化財課からの富沢遺跡についての講話、ピアノとヴァイオリンのコンサート、歯の健康についての講話、フレイル予防の軽運動の講座を開催した。	5月20日～ 2月17日	8	163
●パワフルとみざわネットワーク	各小中学校で活躍している若い子育て世代と役員の高齢化が進む町内会とが、協働してイベントの実施に向けて実行委員会を開催した。その結果若い力を地域へ還元し、これからの地域を担う新しいリーダーを育成することを目標とした、連携団体間の相互理解と交流を促進した。	6月19日～ 2月19日	5	66
富沢市民センター懇話会	各町内会および市民センター利用サークルの代表者を招き、懇談を行った。	11月20日 12月7日	2	20
富沢ふれあいまつり2021	小学校児童および市民センター利用団体、地域団体による作品展示と、ステージ発表（合唱や詩吟はビデオ出演）、富沢児童館によるキッズコーナー、富沢市民センター図書室ボランティアの会による古本バザーを行った。	10月2日 10月3日	2	1,142
おりがみボランティア養成講座	地域づくりにつながる人づくりを目標として、仙台伝統の七夕飾りや、まつり展示作品の制作、ボランティア活動などを行い、地域で活躍できるおりがみボランティアを養成する講座を開催した。	5月14日 ～3月11日	8	65

〔令和３年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「富沢市民センター図書ボランティアの会」の活動支援

富沢市民センターの図書室で活動している図書ボランティアが、地域のまつりである「富沢ふれあいまつり」で開催している古本バザーは、毎年来場者から好評を得ている。新型コロナウイルス感染症のためにまつりを中止した令和２年度にも、地域から市民センターへ古本バザー実施についての問合せがあり、開催を望む声もあがっていた。令和３年度は、コロナ禍中でも可能な古本バザーの在り方をボランティアとともに協議・検討した。密を避ける定員設定や番号札での入場者数把握などの感染症対策が徹底できるよう支援し、古本バザーを開催することができた。

秋保市民センター・馬場市民センター・湯元市民センター

〔沿革〕

秋保市民センターは、昭和 26 年 4 月「秋保村公民館」が設置されたのが始まりで、昭和 42 年 4 月町制施行に伴い「秋保町公民館」、昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「秋保公民館」、平成元年 4 月には「秋保市民センター」と改称された。平成 25 年 5 月には移転改築の上、現在の施設がオープンした。

馬場市民センターは、昭和 52 年 3 月、旧秋保町時代に開設され昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「馬場公民館」、平成元年 4 月に「馬場市民センター」と改称された。平成 29 年度には大規模修繕を実施し、平成 30 年 4 月に再開した。

湯元市民センターは、昭和 53 年 3 月、旧秋保町時代に開設され、昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「湯元公民館」、平成元年 4 月に「湯元市民センター」と改称され現在に至っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	あきうサマースクール		
参加者	馬場小学校・秋保小学校・湯元小学校 児童	延参加者	95 人
開催日	全 4 回 令和 3 年 8 月 20 日(金)、8 月 24 日(火)【①低学年対象、②高学年対象】、 8 月 25 日(水)		
協力者・協力団体	馬場小学校、秋保小学校、湯元小学校		
ねらい	東西に広い秋保地域には、秋保小・馬場小・湯元小の 3 つの小学校があるが、地理的にも秋保市民センターと距離があることから、講座への参加が難しい。そこで市民センターが小学校に出向き、講座を開催することで、子どもたちに新しいことを体験する喜び・楽しさや生涯学習に親しみをもちつ機会を提供することを目的とする。		
概要・成果	馬場小学校にて実施した「誰もが楽しめる折り紙製作～よく飛ぶ紙飛行機を折ってみよう！～」では、講師の指導の下、ミリ単位で正確に折っての紙飛行機づくりにチャレンジし、完成後にみんなで飛行機の飛ばし比べを行った。 秋保小学校にて低学年向けに実施した「つくってあそぼうペパピポ」では、A4 サイズの用紙 1 枚からロボット型のペパピポづくりに挑戦した。高学年向けに実施した「ドラムサークル体験」では、講師から「カホン」をはじめとした様々な種類の楽器を紹介いただき、子どもたちも実際に演奏を行った。 湯元小学校にて実施した「楽しいお天気教室」では、段ボールを使った空気砲の実験や雲を作る実験、気圧によってマシュマロの大きさが変わる実験など様々な実験を見学しながら、天気についての事象を楽しく学んだ。 参加した児童は、普段の授業とは違う内容を学ぶことで、新たな世界、ワクワク感、学ぶ楽しさを知ることができた。また、工作や実験、音楽など、五感を通じた体験で感性が刺激され、新しい世界への興味関心を深めることにつながった。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
あきう子育て広場	湯元児童館と共催し、乳幼児と保護者を対象に、孤立しがちな環境の改善を図るため、親同士の仲間づくりの機会を提供した。「子育てママのためのスマホカメラ講座」、「親子で楽しもう！ラジヨガ体操」を実施した。	10 月 20 日 11 月 19 日	2	7
秋保自然紀行 里山トレッキング	成人を対象に、安全な山歩きや楽しみ方を学び、秋保の里山の魅力を伝えることを目的として、戸神山・二口遊歩道・長袋三山のトレッキングを実施した。12 月は雨天のため講話に変更した。	5 月 18 日 6 月 2 日 11 月 10 日 12 月 1 日	4	54

秋保手づくり倶楽部	成人を対象に、ものづくりを通して学びと外出の機会を設けるため、「苔玉づくり」「ガラスアート」「門松づくり」を実施した。	7月9日 11月12日 12月10日	3	30
市民企画講座「馬場北山千本桜について学び、活かそう」	地域の成人を対象に、地域の貴重な財産としての馬場北山千本桜の文化的価値や現況、その植生について学ぶ機会を提供することを目的として、馬場北山千本桜周辺の環境整備、周辺の植生、環境保全のための知識を学んだ。	11月28日 12月18日	2	20
あきう熟年のひろば	高齢者を対象に、様々な内容について共に学び、交流を図ることを目的として、「お金の話」「ラジオ体操」「折り紙講座」「コンサート」「昭和の写真」「朗読劇」「健康講話」を実施した。9月・2月は新型コロナウイルス感染防止のため中止とした。	5月20日 ～1月20日	7	182
【中止】 秋保郷土かるた大会	地域住民を対象に、秋保地域への関心を高め、地域の良さを再確認しながら交流を深めることを目的として、「秋保郷土かるた大会」を企画したが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。	【中止】 1月15日	—	—
秋保地域出前講座	地域住民を対象に、生涯学習の機会の提供および地域活性化につなげることを目的として、「人生講話と演芸」「口腔衛生講話・腹話術」「タイルの鍋敷き作り」を出前形式で開催した。「くらしの保健室」「スプリングコンサート」は新型コロナウイルス感染防止のため中止とした。	11月17日 12月19日 12月23日	3	53
地域防災力の向上	町内会及び中学校の防災訓練において顔の見える関係を築き、地域の防災力を高めることを目的として、防災訓練に参加した。また防災訓練反省会・検討会にて課題や情報の共有を図った。防災講座は新型コロナウイルス感染防止のため中止とした。	6月28日 7月9日	2	25
【中止】 秋保ふるさと文化祭	地域住民を対象に、日頃の学習成果の発表と地域住民の交流の場を提供し、地域活性化につなげることを目的として「秋保ふるさと文化祭」を企画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、8月に協議の結果、中止とした。	【中止】 9月25日 9月26日	—	—
地域懇話会	地域住民を対象に、地域社会が持つ様々な課題やニーズを懇話会の場で把握し、情報共有することで市民センターの事業運営に反映することを目的として、懇話会を実施。意見交換を通じて秋保地域の情報を共有することができた。新型コロナウイルス感染防止のため2回目は中止とした。	12月18日	1	17
市民企画会議「里山ボランティア」	成人を対象に、秋保地域の里山や林道及び史跡などの地域財産・資源の整備や課題解決を目的として、市民企画会議を4回実施。地域情報を交換し、馬場北山千本桜周辺の環境整備をテーマに市民企画講座を企画した。新型コロナウイルス感染防止のため反省会は中止とした。	6月19日 9月18日 10月16日 11月13日	4	8

【令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

いってみっぺ秋保（地域資源活用委員会）の活動支援

「いってみっぺ秋保」は、秋保の魅力を発信する活動に積極的に取り組んでいる。令和3年度においては、地域資源をテーマごとにまとめたパンフレット作成を主な活動として取り組んだ。これまで41種類のパンフレットが完成している（令和3年度は「あるく 野中・並木・大原」「道ばたの神々Ⅳ」「楽々ウォーキング」「ものづくり体験」「秋保神社神楽」の5テーマを作成）。このパンフレットは地域情報を発信する媒体として広く浸透している。

市民センターでは、定例会の準備、他地域で同様の活動をしている団体との連絡調整やパンフレット作成のための様々な支援を行った。また、作成したパンフレットを配架し秋保市民センターを訪れる人に秋保の情報や魅力を伝えることに役立っている。

泉区中央市民センター

〔沿革〕

泉区中央市民センターは、昭和 22 年 9 月、七北田中学校内に七北田公民館として開設された。昭和 43 年 7 月に市名坂字東裏の現在地に移転。平成 16 年 1 月には、施設の老朽化と機能拡充の必要性から改築され新館として開館した。今日まで泉区の生涯学習の拠点として、その役割を担ってきている。

本地域は従来の歴史的・文化的要素が残されている七北田地区と市名坂地区、急速に発展した泉中央地区を包含し、住民を取り巻く社会環境は大きく変化しつつある。このような状況の中、現代社会に対応した生涯学習事業の展開を図っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	「いずみ探訪」－ 地域案内人養成講座 地域いきいきプロジェクト		
参加者	成人	延参加者	64 人
開催日	全 9 回 令和 3 年 6 月 11 日(金)～令和 4 年 3 月 18 日(金)		
協力者・協力団体	まちづくり推進部泉区中央市民センター		
ねらい	泉区中央市民センター管内は、多くの貴重な歴史的史跡が点在している。また地域の住民は転出入が多いため、地元の史実が風化していく懸念や「自分たちの居住する地域の歴史を学び伝えたい」と次世代への伝承意欲も聞かれる。そこで史跡を活かした地域づくり、地域の歴史や文化を紹介するための案内人を、実践に向けて活動できるよう育成することをねらいとする。		
概要・成果	1・2 回目は座学で自分なりの切り口の見つけ方を学び、その後七北田・市名坂地区を中心にまち歩きと振り返りを行った。複数の講師から様々な視点や、案内スタイルがあることを学習した。受講生は身近にありながら知られていない地域資源が多くあることに関心を持ち、そこから各々の興味を掘り下げて、調べたことをまとめ、発表することができた。またグループワークを多く取り入れたことで、顔なじみの関係ができ、互いに質問しあい、学び合う場面も見られた。		

〔令和 3 年度(地区館)事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
泉中央ルンルン子育て	乳幼児親子を対象に、仲間づくりや子育て支援を目的に実施。1 回目は泉図書館の読み聞かせ、2 回目はアニマルフローという筋力と柔軟性を養うトレーニングで交流した。	10 月 21 日 10 月 28 日	2	10
元気な泉中央キッズ	小学生に学校以外での学びを提供するため実施。1 回目は仙台市縄文の森広場による石のアクセサリー作り、2 回目はジュニアリーダーと遊ぼう、3 回目は保護者同席でのミニ畳づくりを開催した。	7 月 24 日 11 月 27 日 12 月 11 日	3	42
泉中央みんなの交流広場	転出入の多い地域で市民センターの認知度を上げるため、成人を対象に気軽に参加できる折り紙講座とヒップホップダンス講座を開催し、参加者同士の交流を深めた。	11 月 11 日 11 月 18 日 1 月 18 日	3	25

心も身体もリフレッシュ	成人を対象に健康増進に係る事業を開催。1回目はレクリエーションゲームやラジオ体操、2回目はレクリエーションダンスを実施。夜間開催も含め全6回を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2回のみで開催となった。	1月13日 1月27日	2	21
老壮大学「泉シニア塾」	高齢者向けに健康、園芸、体操、教養、音楽の分野について講話と実技を開催した。感染対策として2クラスに分けて、同内容で開催したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全12回中10回で開催となった。	6月9日～ 1月9日	10	203
泉中央子育てネットワーク	地域の子育て支援関連団体と連携する目的で開催。第1回は近隣のこども園から「コロナ禍での相談事例について」、第2回は児童相談所から「業務内容や相談事例について」の講話を実施した。	7月29日 12月9日	2	56
★泉中央減災講座	1回目は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。2回目は講話「さまざまな危機に備えて」と題し、避難所での感染防止対策、現状の把握の仕方や避難情報の取得方法等について学んだ。	12月4日	1	6
いずちゅうコンサート	地域の方に気軽に音楽に触れてもらうため、第1回は乳幼児親子向けに、手遊びや歌遊びを交えたコンサートを開催した。第2回は新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、中止とした。	12月1日	1	30
【中止】 まつりだよ！泉区中央！	実行委員会において何度も開催を検討したが、市内の新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、参加者の安全性等を考慮し、中止を決定した。	【中止】 10月16日 10月17日	—	—
泉区中央市民センター地域懇話会	地域情報や地域課題を集め市民センター事業の参考とするため開催。第1回は地域団体や町内会、学校から、第2回はサークルの代表者から、意見・要望の聴取や地域情報等の共有を図った。	6月25日 11月26日	2	27
いずちゅう出前サロン	地域の集会所を会場に、生涯学習を気軽に体験し交流してもらうことを目的として出前講座を開催した。コロナ禍で引きこもりがちのため、身体に優しい「脳トレ+健康体操」を行った。	11月12日 11月25日	2	31
市民企画会議「市民センターの講座を企画しよう！」	講座企画実施にあたり、事前に地域の実情を把握したいと考え町内会単位でアンケートを実施。緊急事態宣言中だったため、参加者の安全性を考慮し参集での開催は中止とした。	7月20日～ 8月15日	1	—
【中止】 市民企画会議を経て企画する講座	市民企画会議のアンケート結果をもとに講座を検討していたが市内の新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、参加者の安全性等を考慮し中止とした。	【中止】	—	—

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「七北田ジュニアリーダーサークルありす」の活動支援

中学生・高校生のボランティアサークル「七北田ジュニアリーダーサークルありす」は毎月1回定例研修会を開催し、地域団体や子ども会からの要請や連絡事項の確認のほか、自主的にメンバーの技術向上を図っている。市民センターでは、地域団体等からの依頼や問合せ等をジュニアリーダーにつなぎ、習得した技術を実践で活用できる場を提供することでジュニアリーダーの活動を支援している。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大状況により中止になった要請もあったが、いくつかの要請を受けることにより、先輩から後輩への技術伝承が進んだ。また、既存メンバーの声かけ等により新規メンバー10人が加入し、要請を想定した実践的な研修をすることで定例会での活動を充実させることが出来た。

根白石市民センター

〔沿革〕

根白石市民センターは、昭和21年11月、根白石小学校内に設置され、昭和23年役場の移転に伴い独立した施設としての活動が始まった。旧泉市で昭和28年に公民館新築促進が決議されてから10年の経過を経て、昭和38年7月、待望の公民館が移転新築された。以来20年余、根白石唯一の社会教育施設として活動が続けてきたが、老朽化により昭和63年4月、根白石字杉下前に新築移転し開館した。館の特色として、299席の移動式観覧席を備えた多目的ホールを有している。

当市民センターは泉区西部に位置し泉ヶ岳を背景にした豊かな自然環境に恵まれている。周辺は田園地帯と近年の開発による住宅地からなり、多様な住民構成の生涯学習の場として、また、スポーツ、コミュニティ、自主学習の場として広く利用されている。

平成28年度に大規模修繕工事を行い、建物の耐久性の向上とともに内外装の一新、各部屋の照明LED化や空調機の更新による省エネ化、トイレの洋式化や外靴のままで入館できるようになった等、利便性が向上した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●市民企画会議「かむりの里いきいきプロジェクト」		
参加者	地域住民、地域団体	延参加者	57人
開催日	全14回 令和3年6月19日(土)～令和4年3月19日(土)		
協力者・協力団体	泉西部地区連合町内会、ふるさと会、根白石商店会、管内小・中学校とPTA、子ども会育成会、児童館、児童センター、根白石温水プール、泉かむりの里観光協会、まちづくり推進部泉区中央市民センター		
ねらい	昔から地域に受け継がれてきた風習、食文化、伝統行事などにスポットをあて、「地域資源の蓄積力」「地域への関心力」を高めていく取り組みとして、若い世代にも興味を持ってもらえるような事業を企画・実施する。また、高齢化が顕著な地域において、地域の良さを再認識し、その良さを発信できる若い人材の育成を目的とする。		
概要・成果	若い世代の企画員が話し合いを重ね、令和3年度の新たな取り組みとして、地域資源を活かした事業「お寺でヨガ・坐禅」を企画した。企画員のみによる運営を前提に実施したこの事業が参加者から好評を得られたことで、地域の魅力発信とともに企画員の成功体験となり、企画員たちの連帯感をさらに深めることができた。「風揚げフェスタ」は、学校・PTA・育成会等多くの地域団体からなる「風揚げフェスタ実行委員会」と協働し、世代間交流が図られた。各事業を通して企画員と地域住民との交流が進み、新たな企画員が加わるなど、地域における若い世代のコミュニティ活動が活性化している。		

〔令和3年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
かむりっこ広場	乳幼児親子から小学生の子どもたちに多様な遊び・体験を提供するため、「田んぼの生き物調べ」「人形劇」「交通安全教室」「親子ヨガ」「クリスマス会」「正月あそび」を実施した。	8月7日～1月13日	6	97
2校区合同インリーダー研修会	高学年児童を対象として、上級生の自覚や学校を越えた交流を深めるため、子ども会プログラムの立案や、ゲームの実演などを行った。また子ども会世話人同士の交流と情報交換の場を持った。	12月5日	1	38
凧作り教室	子どもたちが地域伝統のするめ天旗への興味を持つ機会を提供するため、小学校、児童館への出前、また地域行事に出店し、凧作り教室を行った。	10月16日～12月24日	6	151

さわやか大学	地域の高齢者を対象に、健康講話や軽体操、コンサートなど様々なジャンルの学習内容を実施した。新型コロナウイルス感染症対策のため、回数を減らして実施した。	5月20日～ 1月20日	7	249
出前講座	来館が困難な地域の高齢者に向け、マジックショーや音楽、演芸などの出前講座を各地区の集会所で行った。新型コロナウイルス感染症対策のため、回数を減らして実施した。	10月17日 ～11月26日	5	86
根白石の正月行事～いっしょに作ろう「だんごさし」～	根白石地域に昔から受け継がれてきた年中行事について学び、伝統文化への理解を深めるため、地域の方から指導を受け、小正月行事のだんごさし体験を実施した。	1月12日	1	26
【中止】 冠のふるさと伝承まつり	関係団体と協議の上、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、参加する子どもたちや来場者の安全性等を考慮したうえで、中止を決定した。	【中止】 11月20日	—	—
防災講座～共助のまち・根白石～	地域の防災・減災への意識の高揚を目指し、地域イベントで防災パネルの展示や、防災グッズワークショップ、また町内会と合同で防災備蓄品の確認と組み立ての実習を行った。	9月18日 10月13日	2	65
【中止】 根白石市民センターまつり	関係団体と協議の上、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、参加者の安全性等を考慮したうえで、中止を決定した。	【中止】 11月20日	—	—
地域懇話会	地域の方々との意見交換と地域課題共有のため、地域団体の代表者を招き、コロナ禍での事業に関する情報交換や災害時の避難所運営などについて話した。	5月26日 10月13日	2	22
●市民企画講座「かむりの里いきいきプロジェクト」	若い世代の参加と世代間交流を目指し、地域の歴史あるお寺にて「お寺でヨガ・アロマ」、地域伝統のすめ天旗を揚げる「凧揚げフェスタ」事業を行った。	10月23日 12月4日	2	192

【令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「根白石ガイドボランティア」の活動支援

根白石ガイドボランティアは、テーマに沿った歴史の勉強会や実地調査等の学習会を定期的に月2回継続して実施しており、令和3年度は学習成果をまとめた4冊目となる冊子「歴史の宝庫 根白石4」の発刊に至った。また、5冊目の制作作業に着手した。並びに、地域内外からの様々な依頼に応じて、地域の魅力発信や紹介・説明のために泉区西部地区のガイドを行った。

市民センターではガイドボランティアの活動を記録し、活動に関する様々な情報の提供や相談に応じるなど、積極的にその活動を支援している。

南光台市民センター

〔沿革〕

南光台市民センターは、昭和 52 年 4 月、「南光台公民館」として開館し、昭和 62 年 8 月に泉図書館南光台分室が併設された。その後、平成 2 年 4 月に「南光台市民センター」と改称され、地域住民の交流の場・生涯学習の場として、その役割を担ってきた。

平成 23 年 3 月の東日本大震災により建物が全壊したが、元の場所に鉄筋コンクリート造 2 階建管理棟及び多目的ホールが新築され、平成 27 年 3 月 28 日に再開館した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	子ども参画型社会創造支援事業「元気なまちづくり応援団」		
参加者	小学生・中学生	延参加者	81 名
開催日	全 9 回 令和 3 年 6 月 26 日(火)～令和 4 年 3 月 5 日(土)		
協力者・協力団体	南光台小学校、南光台中学校、青陵中等学校、南光台児童館、南光台地区体育振興会、南光台地区社会福祉協議会		
ねらい	子どもたち（小学生、中学生）が、地域の中で役割を持ち、社会の構成員として積極的にまちづくりに参加し、自分たちの地域の課題に気付き、地域・社会の一員として行動する視点を持つことで、将来的に地域や社会で主体的に活躍できるようになることを目指した「人づくり」を行う。青少年が地域づくりに関わることへの地域住民の期待を踏まえ、地域の未来を担う次世代を育成していく。		
概要・成果	応募した小学生 2 名、中学生 7 名が企画員となり、南光台地域の活性化につながる活動を考え、「南光台オリンピック」～ニュースポーツを楽しもう～のイベントを企画・実施した。6 月から月 1 回の企画員会を持ち、南光台地域の状況を人口構成、史跡、商店街や産業などの面から分析し、課題や大切にしたいことを確認し、どんなことに取り組んでいくか話し合った。高齢化が進む中、SDGs における「誰一人取り残さない」との考えを大切に、高齢者から子どもまで一緒に活動できる交流の場を設けたいとの思いで企画した。イベント当日は、子ども 20 人、大人(高齢者)10 人がグループを組んで、「ボッチャ」「バッゴ」「ストラックアウト」「南光台物知りクイズ」のコーナーを回って得点を競った。成果として、企画員として参加した児童生徒の成長が感じられ、次代を担う人材の育成につながったと考えている。また、南光台地域の様々なデータや資料を見ながら、地域の特徴や歴史、課題などを考え、地域理解を深めるよい機会であった。そして、コロナ禍の中で多くの地域の催し物が中止になる状況下で、異世代交流の貴重な機会になったととらえている。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子ふれあい広場	子育て世代が地域で安心して育児ができるよう、住民交流の機会として、幼児と保護者を対象としたコンサートを南光台児童館、子育て支援クラブと共催で開催した。	9 月 29 日	1	24
こどもチャレンジクラブ	小学生を対象に、学校でできない遊びや体験をする機会を提供することを目的として、ホバークラフトやフォトスタンドの作製、フラワーアレンジを実施した。また地域の児童館と連携して、カップラ積み大会、南光台かるた大会他を開催した。	6 月 2 日～ 1 月 26 日	9	139
複数年事業 地域いきいきプロジェクト みせましよう！おやじの力	毎月、南光台おやじの会の定例会議を実施。そこで企画した小学生対象のフットゴルフ大会を、小学校の校庭を会場に開催した。	5 月 15 日～ 3 月 19 日	10	53

みんなの学びカフェ	地域に住む方が気軽に集い、学びを体験し、仲間づくりや学習のきっかけづくりとすることを目的に、ラジオ体操、社会福祉協議会等地域団体との共催による寄席、フラワーアレンジメント作製、読み聞かせ指導講座を開催した。	6月12日 11月3日 12月11日 2月11日	4	123
南光台学院	防災、食、歴史、お金に関する講話や音楽鑑賞、軽体操を開催。医療講話を2回予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大により資料を受講生全員へ郵送し自宅学習とした。	5月28日～ 2月25日	13	374
市民センターの出前サロン	市民センターから離れている地区の住民を対象に、生涯学習に触れる機会として、マンドリン＆ギターコンサート、アロマの小箱・アロマを用いた感染症対策スプレー作りを地域の集会所等を会場に開催した。	10月26日 11月14日 12月8日	3	35
【中止】 令和3年度南光台市民センターまつり	実施に向け7月、8月と実行委員会を2回開催したが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、委員長、副委員長、事務局で話し合いを行い、中止を決定した。	【中止】 10月8日～ 10月10日	—	—
南光台地域防災講座	災害時の避難行動についての講話等を実施し、地域の特性やハザードマップについて理解を深めた。また、「救命救急講習会」を実施した。	10月30日 11月20日 2月5日	3	87
南光台市民センター 地域懇談会	地域団体・組織や学校を対象とした懇談会を開催。加えて、利用団体やサークルを対象とした懇談会を開催した。	7月13日 7月21日	2	36
南光台オリンピック	元気なまちづくり応援団の企画委員が計画。子どもから高齢者まで一緒に楽しめるニュースポーツを取り入れた「南光台オリンピック」のイベントを実施した。	12月18日	1	30

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

市民センターで活動しているサークルへの活動支援

令和3年度の南光台市民センターまつりは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。そこで、展示部門の参加を予定していた出展者に声がけし、センターまつりの代替イベントとして「ロビー展示会」を開催した。市民センターのロビーや廊下に交代で作品を展示し、来館者の目を楽しませたとともに、地域で活動するサークルの成果発表の場となった。イベントや展示会が軒並み中止となる中で発表の場ができたことや、普段センターまつりには来館しないような方々にも作品を見てもらえたことは、出展者にとって大きなやりがいとなりモチベーションの維持につながった。

また、市民センターだよりの「リレーコラム」欄では、積極的にサークルへ原稿を依頼し、活動紹介を行った。記事を掲載したことで会員獲得につながった例も複数あり、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が縮小し会員の減少に悩むサークルに貢献することができた。

黒松市民センター

〔沿革〕

黒松市民センターは、昭和 47 年 4 月に開館した八乙女公民館を前身とし、平成 4 年 10 月に現在地に新築移転され開館した。

当市民センターは、地域における生涯学習及びスポーツやサークル活動などの交流の場として活用されている。また、地下鉄南北線黒松駅に隣接しており、交通の利便性が良いことから、利用者は広域にわたっている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	サロン de クロマツ		
参加者	地域住民	延参加者	129 人
開催日	全 3 回 令和 3 年 5 月 28 日(金)～令和 3 年 12 月 24 日(金)		
協力者・協力団体	「いろどり工房～もの作りボランティア養成講座」の受講者		
ねらい	黒松市民センターは、交通の便がよく駐車場も広いため、利用者が多い市民センターであるが地域住民の利用は少ない。そこで、市民センターに気軽に集うことができる「手作り体験」や「運動」「コンサート」などの講座を通して、地域住民の市民センター利用者を増やし、併せて様々な内容の講座を開催する中で交流を重ねることにより新たな地域人材を発掘する。また市民センターで育成した「もの作りボランティア」の活躍の場とする。		
概要・成果	地域の方に市民センターに気軽に足を運んでいただくよう、月 1 回のペースで「リフレッシュ体操と講話」「ウィルス対策正しい手洗い」「手作り工芸」「コンサート」など幅広い内容で開催した。事前予約不要の内容については、多くの方に事業の様子に触れていただけるように開催会場をオープンにして、飛び入り参加も可としたことで、図書室利用者からの参加もあった。また、手作り体験として行った「花絵のハガキ作り」「クロスステッチ」は、地域講師をお迎えし、「ストリングアート」「ミニ七夕作り」については、育成中の「もの作りボランティア」のメンバーが講師役を務めた。身近な方が講師となったことで講師と受講者、あるいは受講生同士の交流が図られ、利用のリピーターが増え、更に地域の新たな人材の発掘と育成につながった。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●子育てママのサポート講座～怒鳴らないで子育て講習～	子育て中のママたちの悩みに対して、6 つの子育てシーンを想定し、ロールプレイングという学習方法で具体的な対応を学んだ。新型コロナウイルス感染症に配慮して託児ボランティアなしの予定であったが、見守り託児をつけることができた。	7 月 14 日 7 月 21 日 7 月 28 日	3	15
わくわく子どもの時間	地域の子ども達を対象にコロナ禍で減少している体験型学習や異年齢交流の機会を提供するため、天体観望会や黒松児童館共催によるゲーム大会を実施した。	7 月 30 日 12 月 10 日	2	61
【中止】 (仮)AKD地下鉄リーグ決定戦	地下鉄沿線上の 3 児童館と共催し、小学生同士の交流を図るためのスポーツ大会を予定していたが、企画を進める段階で市内の新型コロナウイルス感染拡大の収束の目途が立たず、共催館と協議し中止を決定した。	【中止】 11 月 20 日	—	—

黒松寿大学	開講式の延期に伴い、開催を待つ間に「寿大学だより」を発行した。市民センターを会場とした開催は11月から3回となったが、クラシックコンサートや家でも気軽にできる運動、博物館学芸員の話など、様々な内容を学習した。	8月4日 11月18日 12月16日 1月20日	4	168
元気アップ生活！～健康で元気に暮らすために～	地域包括支援センターと地区社会福祉協議会との共催で、主に地域の高齢者を対象に、介護予防を目的とした運動（ボッチャ）を2回と健康講話と軽体操の講座を1回開催した。	6月24日 10月28日 11月25日	3	48
地域防災講座	『災害から身を守る自助・共助の取組について』コロナ禍の中、災害時において自助・共助の中核を担う自主防災組織の事例の紹介や、新しくなった「避難情報の発信」の方法について紹介等を行った。	7月10日	1	27
真美沢公園元気プロジェクト	真美沢公園を美しくする会とともに、一般市民を対象に地域資源である「真美沢公園」の活用を目的として、夏と秋の自然観察会やコンサートを開催した。また、環境整備活動などを通年で行った。	4月24日～ 3月19日	12	221
地域の課題を考える市民企画会議	地域住民で構成された企画員と、地域課題について考えるとともに、よりよい地域づくりのための講座の開催を目指し意見交換を行った。	10月12日 11月10日 11月30日	3	20
【中止】 2021年黒松市民センターまつり with 黒松児童館	地域交流の場、学びや活動の成果発表の場としてのまつりを市民センターと児童館、まつり実行委員会との共催で開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止とした。	【中止】 9月25日	—	—
地域懇話会	黒松市民センターの講座の説明と事業・運営・施設についての意見交換、さらに黒松地域子育て支援団体ネットワーク会議として各子育て支援団体の事業紹介と意見交換等を行った。	6月5日 10月6日	2	21
いろどり工房～もの作りボランティア養成講座～	ミニ七夕飾りの作り方やストリングアートを学び、それを他の人に教えるボランティアを体験した。令和3年度の振り返りと令和4年度に向けた話し合いを7回目にする予定であったが、新型コロナウイルス感染症のため中止とした。	6月10日～ 12月3日	6	36

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

くろまつミニギャラリー（作品展示）を通じた活動支援

市民センターまつりが令和2年と令和3年と2年続けて中止となったことを受けて、展示発表の代わりに「くろまつミニギャラリー」を企画した。市民センターだよりなどで呼びかけたところ、サークルだけでなく地域の個人参加も多数あった。ミニギャラリーに展示した個人の方にお声がけし、別の主催事業「サロン de クロマツ」における「花絵のハガキ作り」「クロスステッチ」「ストリングアート」それぞれの講師を務めていただいた。

くろまつミニギャラリーを開催したことで、地域の埋もれた人材の発掘につながっただけでなく、その方たちが活躍できる機会を創出できた点は成果といえる。

将監市民センター

〔沿革〕

将監市民センターは、昭和 47 年 11 月、将監団地の開発・発展を背景に地域住民の交流の場として開館した「将監会館」が始まりで、昭和 53 年 4 月、新たに地域生涯学習の拠点施設として名称を「将監公民館」に改め、昭和 54 年 6 月には研修室棟も竣工し施設の拡充が図られた。その後、仙台市との合併に伴い、平成元年 4 月から「将監公民館・将監市民センター」となり、翌年 4 月には「将監市民センター」と改称された。平成 3 年度には、施設の大規模な改築が行われ、平成 4 年 4 月に再開し令和 4 年 3 月まで業務を行った。

令和 4 年 3 月に複合施設(市民センター・児童センター・老人憩の家)として竣工し、同年 5 月から業務を再開した。当市民センターは、公共施設内に地域住民が運営するサロンを包含しており、サロンを含め地域内外の方々が様々な形で利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座「将監ふるさとづくりプロジェクト」～50年を未来へ～		
参加者	地域住民	延参加者	35 人
開催日	全 10 回 令和 3 年 5 月 29 日(土)～令和 4 年 2 月 26 日(土)		
協力者・協力団体	—		
ねらい	将監地域入居開始 50 年の節目に、高齢者世代からこれまでの将監のあゆみを聞き、若い世代に「ふるさと将監」を再認識する機会にしてみよう。そして現在、将監で暮らす子どもたちが将監の歴史を継承していくことを目指す。 また、高齢者世代と若い世代の交流が生まれることで、若い世代の住民が地域活動に目を向けるきっかけをつくる。		
概要・成果	複数年事業の 1 年目として実施。市民企画として講座の名称を決めるところからスタートした。将監 50 年を振り返り、これからにつなげたい、という気持ちをこめて「将監ふるさとづくりプロジェクト」～50 年を未来へ～に決定。 様々な企画の案がでたが、令和 3 年度は令和 4 年度に完成する将監市民センター新施設のシンボルキャラクターを募集することになった。会議を重ね、一般公募・作品選定の総選挙・データ化等、次年度のキャラクター発表という目標に向けてアイディアや意見を出し合いながら進めていき、作品の応募数 26 点、総選挙投票数 120 票余りとコロナ禍でありながら、地域や市民センター利用者から予想以上の反響があった。 シンボルキャラクターは、総選挙の投票と新施設関連団体の関係者からの承認を得て、令和 4 年度の発表を残すのみとなった。また落選となった 25 作品の応募者へ「ありがとう」カードを作成し送付した。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子どもチャレンジ	地域の小学生を対象に、学校では経験できない学びの場を設けることで、人との交流やふれあいを経験し、人とつながることを大切に思う心を育むことを目的として実施した。共催事業で、建設中の新館の仮囲いに夏の木を描く現場アートやコースターづくり、移動天文台ベガ号、連携事業でクリスマスリースづくり、単独事業でカブトムシ相撲を開催した。	6 月 26 日～ 12 月 4 日	6	144
未来にはばたけ～市民センターに絵を描こう！～	地域団体連携促進事業として、地域の中学生に建替え前の市民センター（旧館）の壁面に絵を描いてもらう講座を実施し、中学生が地域及び地域活動に目を向けてもらうきっかけ作りとした。	11 月 10 日 ～12 月 4 日	9	94

将監寿大学	健康、文学、地域の歴史についての講話を開催。 10月にはリズム体験をし、受講生同士の交流ができた。閉講式では運営委員会主催のコンサートを実施した。	6月11日～ 12月10日	5	211
将監地域防災講座～ 広げ、つなげ防災の輪～	有識者による東北地方の地震・火山活動や南海トラフに関する講演及び泉消防署によるコロナ禍における普通救命救急講習を開催した。	7月10日 10月9日	2	60
出前講座「なごみサロン」	市民センターに来ることが難しい地域の方向けに企画した出前講座であるが、コロナ禍のため会場を町内会集会所より広い市民センターホールでの開催とした。将監地区社会福祉協議会と共催で将監中央・3丁目町内会、将監第4・5自治会を対象に大正琴コンサートを開催した。	10月21日 10月26日	2	52
働く世代の健康づくり～心と体をしなやかに～	将監地域に住んでいる女性を対象に健康づくりの講座を夜間に開催した。6月～7月に4回、10月～11月に4回の連続講座で、講話を交えながら、実技（ヨガ）を行った。	6月25日～ 11月12日	8	55
みんなの居場所をつくろう	伝統的な仙台七夕飾りを制作して館内に飾り、多くの来館者に短冊を書いてもらった。企画員のスキルアップ研修も行い、新施設での居場所づくりの準備を進めた。	6月3日～ 1月21日	9	93
将監ふれあいコンサート	地域資源である将監沼で、だれもが参加できるコンサートを開催した。地域団体には運営をサポートしてもらい、コンサートの中で活動紹介をした。	6月13日	1	90
将監市民センター作品展示発表会	市民センターまつり開催に向けてまつり実行委員会を2回行ったが、新型コロナウイルス感染防止の観点から中止とし、代替えとしてサークルの作品展示発表会を行った。	9月29日～ 10月31日	1	200
将監地域懇談会	将監地域へ転入後概ね5年以内の方を対象に、地域課題や現在困っていることなどについて、地域の代表者を交えて話し合いを行った。	10月30日	1	4

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「将監中央将寿会」の活動支援

将監中央町内会の老人会である将監中央将寿会は、従来から会員が保有している様々なお宝を持ち寄り、将監中央町内会の集会所や将監老人憩の家等を活用し「珍品・秘蔵品・作品展示会」を開催していた。しかしながら、思ったほど人が集まらず、交流もままならない状況であるとの話があった。

そこで市民センターでは、令和元年度から将監市民センターを利用することを提案し、市民センターだより等で地域へ開催情報（お宝提出含む）を提供する支援を行った。

令和3年度においては、作品の展示数は減少したものの多くの見学者が訪れ、初めて来訪された方からも新しい知り合いができてうれしかった等の言葉をいただくことができた。

〔沿革〕

加茂市民センターは、昭和 58 年 4 月、加茂公民館として開館した後、仙台市と泉市の合併や公民館と市民センターの併設を経て、平成 2 年に現施設名に改称された。平成 10 年には併設されていた加茂体育館が編入され、現在に至っている。開館当時は長命ヶ丘・泉中山の区域まで対象としていたが、平成 5 年 4 月の長命ヶ丘市民センター開館に伴い、現在は加茂・虹の丘・上谷刈・みずほ台を対象としている。

当市民センター周辺地区は、賀茂神社や古内志摩の墓、中世の館跡である長命館公園などが点在しているほか、七北田川や丸田沢堤・三共堤がある水の森公園などの自然環境にも恵まれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議「エンジョイ加茂ン～地域いきいきプロジェクト～」		
参加者	地域住民	延参加者	39 人
開催日	全 10 回 令和 3 年 5 月 27 日(木) ～令和 4 年 1 月 27 日(木)		
協力者・協力団体	まちづくり推進部泉区中央市民センター・加茂連合町内会		
ねらい	加茂地域の豊富な地域資源を活用しながら、まちづくりを進められるように住民参画で新たな魅力の発見と学びを展開し地域活性化を図る。また、学びの成果を地域に還元できる人材を育成する。		
概要・成果	「エンジョイ加茂ン」は複数年事業として平成 30 年度から開催しており、講座の中で企画員が地域の自然を数多く撮影していたことから、6 月に加茂市民センターのロビーで地域の魅力を伝える「エンジョイ加茂ン・写真展」を開催した。10 月には令和 2 年度に引き続き「秋の水の森公園をあるこう！」を企画・開催し、募集した参加者とともに散策しながら地域の自然に対するそれぞれの熱い思いを共有した。また、リーフレット「加茂四季めぐりマップ」を企画・制作し、加茂連合町内会の協力により全戸配布したことで、長く居住している住民が地域の新たな魅力に気づくきっかけとなった。2 月にはリーフレット配布をきっかけとした地域活動団体との交流会「エンジョイ加茂ン・みんなの交流会」を企画・開催し、企画員によるリーフレットの紹介や情報交換で親交を深めつつ、学びの成果を地域に還元することができた。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
みんなすくすく子育てひろば	未就学親子を対象とした講座で、加茂児童センターと連携し「ストレッチボールエクササイズ」、また、虹の丘児童センターと連携して「親子リトミック」を開催して参加した親子の交流を深めた。	7 月 8 日 11 月 30 日	2	34
まるごとチャレンジキッズ	小学生の体験活動を目的に、「不思議で面白い科学実験を体験しよう」、「フラワーアレンジメント」を開催した。また、3 回目は虹の丘・加茂児童センター連携で「クリスマスの小物づくり」・「ジュニアリーダーと遊ぼう」を開催した。	7 月 24 日 11 月 6 日 12 月 4 日	3	30
すこやか UP 塾	成人を対象に健康寿命を延ばすことを目的に開催した連続講座で、いすで行うヨガ、シナプソロジーを用いた軽体操、トーンチャイムとハンドベルの演奏体験、手ぬぐい体操、健康講話を行った。	7 月 14 日 ～1 月 12 日	5	67

市民企画講座「エンジョイ加茂ン～地域いきいきプロジェクト～」	市民企画員が地域交流や活性化を目的として企画した講座で、自然や歴史遺構を題材とした「写真展」を開催した。また、自然散策講座「秋の水の森公園をあるこう！」や、制作したリーフレットの紹介を兼ねて地域団体との交流を目的とする「みんなの交流会」を開催した。	6月17日～ 7月20日 10月28日 2月10日	3	136
ワイワイ若がえり塾	高齢者を対象にし、学びや交流を目的としたおおよそ月1回の老壮大学で、開講式の雅楽演奏会を皮切りに史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設への館外学習、北山五山の講話、朗読劇鑑賞、演芸会、軽体操を開催した。5、9、2月は新型コロナウイルス感染拡大のため開催を中止した。	6月17日～ 1月20日	6	297
●誰でもリンク！交流ステーション	地域住民を対象に、地域団体や住民の交流、活動活性化を目的に開催した。7月は加茂歴史ガイドボランティアのメンバーが調査研究した史実を地域で発表、その後参加者と交流した。11月は長命館公園サポーターズクラブとの共催で、秋のあったかコンサートを開催。泉中央南公営住宅への出前講座は、集会室が新型コロナウイルス感染拡大防止のため使用できず中止とした。	7月3日 11月27日	2	95
災害から身を守るために	毎年、地域の防災意識向上のため加茂中学校及び加茂地域防災協議会と共催して講座を開催しているが、1回目及び2回目は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。3回目は加茂連合町内会等との共催で地域の方を対象に防災研修会を開催した。	11月20日	1	23
【中止】加茂市民センターまつり	加茂市民センターまつりは、市民センターを拠点に活動するサークル団体の成果発表の場、及び地域住民の交流の場として毎年開催されている。令和3年度は第1回実行委員会を開催し、実施に向けて内容を検討したが、市内の新型コロナウイルス感染状況を踏まえて参加者の安全性等を考慮したうえで中止を決定した。	【中止】 10月17日	—	—
地域懇談会	1月には加茂・上谷刈地区の地域活動団体、教育機関等の方を対象に、令和4年度のセンターの運営等の説明と情報交換を目的に開催した。また、2月に虹の丘・みずほ台地区で同様の懇談会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の急拡大を踏まえ、開催中止とし、懇談会資料の参加予定者への配布に代えた。	1月22日	1	21

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「加茂地域歴史ガイドボランティア」の活動支援

加茂三丁目の北西部に、伊達騒動でただ一人生き残り仙台藩を取り潰しから救ったとされる家臣古内志摩義如の墓がある。近くにお住まいの末裔の方が墓の管理をしているが、現在は市民センターの養成講座から立ち上がった「加茂地域歴史ガイドボランティア」が主催して年2回の清掃奉仕活動を行い、毎回多くの地域住民が参加している。

加茂市民センターでは清掃奉仕活動の参加者募集や活動状況を市民センターだより、チラシ、ホームページで広報するなどさまざまな支援を行い、ボランティア活動の活性化を図っている。令和4年6月には古内志摩義如公の350年忌法要が予定されており、市民センターでも泉区の歴史的価値のある史跡としての周知活動や地域を超えた歴史サークルの文化交流等、幅広く活動支援を進めたい。

高森市民センター

〔沿革〕

高森市民センターは、地域住民の生涯学習活動の中心的施設として、平成元年4月「高森公民館」として開館した。その後、機構改革に伴い「高森市民センター」と改称された。

高森地区は、昭和40年代後期から、民間企業によって開発された地域で、閑静な住宅地のほか、高森東公園や高森西公園など豊富な緑地が残され、自然と調和した美しい街区が特徴的な地域である。

地域では町内会や地域ボランティア団体を中心となり、四季を通じたイベント等を行い、地域活性化の推進に取り組んでいる。その中で、当市民センターは、地域への愛着心を育む交流の場として、多くの地域住民に利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	ウェルカム世代間交流		
参加者	地域住民	延参加者	136 人
開催日	全6回 令和3年6月17日(木)～12月9日(木)		
協力者・協力団体	高森地区社会福祉協議会、高森東地区社会福祉協議会、結いの会・高森東		
ねらい	市民センターと2つの社会福祉協議会が企画会議を実施し、「新しい生活様式に配慮した」交流会を開催する。お互いの地区を知るきっかけを作り、両地区間の交流を図り、高森地区全体の活性化につなげる。		
概要・成果	平成26年度から毎年室内で開催していた講座だったが、企画会議において、コロナ下でも地域住民同士が交流できる内容を検討し、令和3年度は、地域資源である「高森東公園」を活用した「謎解きゲーム」を開催した。 会議を重ねるなか、会場である「高森東公園」を知るために、地域在住の森林インストラクターの方から、公園内の花や樹木について説明を受けながら公園を歩き、コースやクイズの場所などを検討した。 「謎解きゲーム」当日は、天候にも恵まれ、小学生親子や今まで市民センターの講座に参加したことがない方の参加が多数あり、世代間交流の促進や地域を知るきっかけ作りの場となった。また、当日の会場設営や受付などでは、10人を超す地域ボランティアやジュニアリーダーの手伝いが、講座の円滑な運営に資するとともにスタッフ間における世代間交流も図られることとなった。		

〔令和3年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
バイバイストレス！ 子育て応援講座	子育て中の親がリラックスし交流するため、「スマホ写真講座」、「アロマヨガ」、「パステルアートづくり」を開催した。	10月14日 10月21日 10月28日	3	32
わくわく親子体験 ひろば	親子の絆を深め、子どもの知的好奇心や探求心を促すため、7月に天文台の出前講座で夏の星空について学び、12月は身近な物を使って親子が一緒に体験できる「サイエンスショー」を実施した。	7月23日 12月25日	2	78
高森きっず チャレンジ	児童が学校以外での学びを通して交流するため、「水の万華鏡を作ってみよう！」、「ジュニアリーダーと遊ぼう！」、「こども書初め講座」を開催した。	7月30日 8月11日 1月7日	3	31

【中止】 インリーダー研修会	10月13日開催予定だったが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、中止とした。	【中止】 10月13日	—	—
伝統行事 仙台七夕 もりあげ隊	仙台七夕に馴染みがない方を対象に、仙台の伝統行事について理解を深めながら、七夕飾りを制作し、ロビーに展示した。	6月8日～ 7月13日	6	40
地域の魅力 再発見！～高森ふる さと公園（東公園）を 撮影しよう～	地域住民が地域の魅力を再確認するため実施。講師から写真撮影の基本を学び、実際に公園で撮影を行った。後日、撮影した作品をセンター内にある「ギャラリー」に展示した。	6月30日～ 11月17日	4	26
高森塾（老壮大学）	6回実施予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、9月の開催を中止とした。高齢期の充実した生きがいづくりのために、仙台文学館による講話や、「童謡再発見」、「健康講話」、「百人一首で学ぼうし字講座」、「軽体操」「弦楽三重奏」を実施した。	5月21日～ 11月26日	5	201
高森絆コンサート	新旧住民が音楽を通じて交流を深めるため、オカリナとフルート演奏、ギターバンド演奏や弦楽三重奏、サクソ四重奏を開催した。	11月20日 11月26日 12月11日	3	220
【中止】 高森市民センター まつり	9月18日開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、実行委員会において中止の決定がなされた。	【中止】 9月18日	—	—
高森東地区防災 訓練	地域の諸団体と連携し、地域の防災対応力を強化するため、参加した地域住民へ補助避難所開設の仕方等を周知した。	5月15日～ 10月21日	6	174
高森地域懇談会	高森市民センターまつり実行委員会開催に合わせて1回目を実施、2回目は高森地区八者連絡会で実施した。	6月11日 12月15日	2	18

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「高森学童農園支援ボランティア」の活動支援

高森学童農園支援ボランティアは、市民センターのボランティア養成講座から立ち上がった団体で、地域の小学校・保育園の「学童農園」に出向き「畑の先生」として、子どもたちの学びを支える活動を行っている。市民センターでは、長引くコロナ下にあっても活動が継続できるよう、教育施設との連絡調整や、新規会員募集の広報を行った。また、会員のスキルアップのために講師情報の提供や自主活動を円滑に進められるよう肥料の手配などの支援を行った。

松陵市民センター

〔沿革〕

松陵市民センターは、平成 2 年、泉区の北東に位置する松陵ニュータウンの住宅地に開館した。松陵・永和台・歩坂町・山の寺・向陽台・明石南の 6 つの町を担当エリアとし、県民の森をはじめ、豊かな自然と緑に恵まれた地域に立地している。子どもの減少により、松陵地区では平成 25 年に 2 つの小学校が統合されるなど全般的に少子高齢化が進んでいる地域であるが、当市民センターは地域における生涯学習の拠点として市民に親しまれる事業を展開し、地域コミュニティづくり、交流の場として地域住民に広く活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	松陵の丘つながるプロジェクト		
参加者	地域活動団体代表の方々	延参加者	52 名
開催日	全 9 回 令和 3 年 6 月 15 日(火)～令和 4 年 3 月 16 日(水)		
協力者・協力団体	まちづくり推進部泉区中央市民センター		
ねらい	サロン運営担当者の情報交換や研修会の機会を継続して提供することにより、担当者の負担軽減や将来地域を担う人材の育成を目指し、市民センター事業として地域住民とともに協働して取り組んでいく。		
概要・成果	受講生（地域団体代表）同士の情報交換の機会となり、サロン共催に発展する事もあった。本講座を通して地域活動団体同士のつながりづくりの一助に繋がったと考えられるが、このような関係性の構築は単年でなしえるものではなく、継続してその機会を設けることが望ましい。 令和 3 年度は、松陵地区の団体が講座の核となりコロナ禍にあってもサロン団体同士が情報交換できるツールとして団体紹介パンフレットを作成し地域で活用しており、好評を得ることができた。今後は隣接する地区の団体とも情報交換の場を設けて事業を展開することも検討する。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子どもゼミナール	学校の授業とは違う学びの機会を提供するため、科学実験、天体観測、陶芸体験、クリスマスリース作りを実施した。2 月は市内の新型コロナウイルス感染状況を踏まえ講座中止を決定した。	8 月 4 日 10 月 8 日 10 月 12 日 12 月 11 日	4	63
ゆったり学びカフェ	住民の誰でもが参加可能で多様なテーマについて学習できる講座として、初心者のためのワイン入門講座、苔玉づくり、コンサート、お笑い演芸会を開催した。新型コロナウイルス感染症の影響で出前講座、朗読会は中止とした。	6 月 23 日 7 月 14 日 12 月 4 日 1 月 15 日	4	90
●さくっと！まると健康生活	高齢者を対象に、生活の中で簡単に取り組める運動や健康情報を学ぶことで、介護予防に役立て、健康寿命の延伸を目的として、健康講話、ストレッチや筋力トレーニングなどの運動実技を実施した。	10 月 1 日～ 11 月 19 日	6	69
県民の森で身近な観察会	成人を対象に県民の森の遊歩道を散策しながらの自然観察会を春、秋に実施。参加者が写真付き記録シートを作成し、講座の振り返りができるようにした。	5 月 27 日 11 月 6 日	2	16

松陵シニアカレッジ	高齢者を対象に、教養を高めるとともに生きがいづくりや仲間づくりを目的として、脳トレ・筋トレ講座、住まいの防犯講座、メンタルケア講座、講談講座、カレーの歴史講座、食育講座、終活講座を実施した。9月と2月は、市内の新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、中止とした。	5月21日～ 1月21日	7	399
松陵ふれあい合唱	松陵ふれあいコンサートがWEB実施となったことにより、WEB参加出来る高校生の合唱を動画撮影することで実施した。	10月9日	1	10
●【中止】みんなの力で地域防災・減災	従来の災害に加え、コロナ禍での避難所運営を主とした講座を企画していたが、新型コロナウイルスの感染症の影響により中止とした。	【中止】	—	—
第30回松陵ふれあいコンサート	新型コロナウイルス感染症予防の観点から、多くの人数を集めてのコンサート開催は現実的ではなかったため、参加団体の紹介や演奏をYouTubeの「仙台ひと・まちチャンネル」で公開した。	10月24日	1	128
第32回松陵市民センターまつり	地域住民や市民センター利用団体の活動成果の発展の場として開催し、それぞれの団体の活動や地域住民の交流の活性化に繋げていくことを目的とし開催した。	11月13日 11月14日	2	500
地域懇談会	地域の様々な課題等を共有し、町内会等の団体と情報交換を行うとともに、松陵市民センターの事業や施設運営について理解を深めてもらう機会として開催した。	5月7日 1月19日	2	6
市民企画会議 「市民センターの講座を企画しませんか？」	市民が主体的に地域課題に取組み、市民センターと協働しながら講座を企画する。受講生が自ら講座を企画運営することにより、講座のノウハウを習得することにつながった。	5月15日～ 1月25日	13	14
【中止】市民企画会議を経て企画する事業	オカリナコンサートを企画していたが、市内の新型コロナウイルス感染状況を踏まえ講座中止を決定した。	【中止】 2月5日	—	—

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダー「みちのく松陵」への活動支援

令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、定例会でさえも中止せざるを得ない月が多かったが、そういった中でも「みちのく松陵」と「パズル鶴が丘」との合同定例会の開催を図り、ゲーム研修会などを重ねることによってお互いの親睦を深めるとともにスキルアップに繋げることができた。

また、子ども会育成会からインリーダー研修、松森市民センターから児童対象の講座で要請を受けるとともに、松陵市民センター主催事業「子どもゼミナール」でも講座サポートとして入ることで、今まで培ってきたジュニアリーダーの技術を発揮する場を提供することができた。その後の定例会では、一人一人が反省点を述べる等これまでの振り返りをみんなで共有することができ、個々の成長へとつながった。今後も新型コロナウイルス感染症の影響により、制限がある中での活動になることが多くなると予想されるが、その中でも満足のいく活動内容となるよう支援をしていく。

寺岡市民センター

〔沿革〕

寺岡市民センターは、泉区北西部の大規模団地「泉パークタウン」の西部に位置し、緑豊かな自然が残る寺岡・紫山地区が担当地域である。

寺岡地区は、昭和 53 年より宅地造成され、団地としては成熟しており、高齢化が進んでいる。一方、紫山地区は、平成 6 年より宅地造成され、若い世代を中心に住民も年々増加しており、寺岡地区とは対照的な年齢構成になっている。団地周辺には宮城県図書館をはじめ、宮城大学や仙台白百合学園などの文教施設があるほか、平成 20 年には大型商業施設がオープンし、週末や休日には遠方からも人々が集まり賑わっている。また、第 6 期宅地（朝日地区）の開発が進み住宅地が広がっていることから、今後ますます発展と活性化が期待される地域である。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	おとなの小さな悩み相談室		
参加者	地域住民	延参加者	14 人
開催日	全 2 回 令和 3 年 7 月 1 日(木)～12 月 12 日(日)、12 月 15 日(水)～12 月 19 日(日)		
協力者・協力団体	—		
ねらい	大人が日常抱えている小さな困りごとや悩みを子どもに打ち明けてもらい、素直な心を持った子どもの視点でその悩みに答えてもらう。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため直接触れ合うことが難しい中、相談カードの受け渡しにより感染防止対策を講じながら紙上にて異世代間交流を図り、異なった世代への相互理解を深めることを目的とする。		
概要・成果	大人の悩みを子どもが解決するという通常とは逆の形の面白さがあり、大人が思いつかないような子どもならではの奇想天外な解決策が次々と出された。相談カードの回答を見た途端、思わず笑いが吹き出してしまう和やかな雰囲気が生まれ、相談者にとっては大いにストレスが軽減できたようだ。また、お互いの世代の思いや考えを知ることができ、それぞれの世代において相互理解を深めることができた。 なお、やりとりを行った相談カードは、12 月に開催した「寺岡・紫山作品展」において市民センターホールに展示し多くの市民に閲覧していただいたところ、「素晴らしい解決策だ」、「すごく楽しかった」など好評を博した。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
【中止】親子の広場	寺岡児童センターと協議の結果、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。	【中止】 11 月 26 日 2 月 25 日 3 月 9 日	—	—
子ども体験塾	小学生を対象に、沖縄の独自の生き物や音楽について学んだ。予定していた手話や AED 入門等の講座は新型コロナウイルス感染拡大防止により中止した。	1 月 8 日	1	14
おうちでもできる プチ〇〇	コロナ禍で家に閉じこもりがちになる人が増えている折、自宅でも楽に続けることができるように、Zoom の使い方、コースターづくり、イスヨガ等を気軽に学習できる場を提供した。	7 月 11 日 11 月 23 日 12 月 10 日 2 月 13 日	4	14

寺岡・紫山元気アップ講座 ～地域の達人から学ぼう～	歴史・社会問題等について精通している地域人材を活用し、住民同士が交流しながら学習する場を提供することにより、豊かで充実した生活を送るきっかけづくりとなった。	6月25日 7月7日	2	31
ふるさとカフェ	寺岡地域包括支援センターとともに、住民同士が気軽に情報交換や交流ができるよう、ふるさとをテーマにした交流会を開催した。	10月27日	1	9
老壮大学「多聞塾」	地域の高齢者を対象に健康、軽運動、コンサート等のテーマを取り上げて講座を実施した。開講式以降は、感染症対策として、受講生を2班に分け、同じ内容で開催した。	7月1日～ 2月3日	13	232
【中止】ぼうたくんといっしょ。～寺岡防災訓練編～	寺岡連合町内会主催の防災訓練と合同で実施する計画であったが、新型コロナウイルス感染防止のため防災訓練自体が中止となった。	【中止】 9月25日	—	—
寺岡・紫山地域魅力づくりプロジェクト『めざせ！みんなが楽しい街づくり！2021』	地域の活性化、地域住民の交流の場となるよう、出前講座、作品展を開催した。 当初計画していたハイキング及びデイキャンプは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。	11月6日～ 12月19日	10	233
【中止】寺岡・紫山市民文化祭	実行委員長及び副実行委員長と協議し、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。	【中止】 10月17日	—	—
寺岡・紫山ふれあい絆コンサート	地域資源である宮城大学の管弦楽団・合唱団を招き、市民センターでコンサートを同日2回開催した。混声合唱とオーケストラの響き、講師の軽快なトークとともに音楽の歴史を学んだ。	11月3日	2	69
寺岡・紫山地域懇談会	市民センターの運営や事業に地域住民や利用者の意見・要望を反映させるため懇談会を実施した。	6月6日	1	21
寺岡小学校社会学級共催事業「伊達政宗のまちづくり～城下町仙台のヒミツ～」	地元仙台の歴史や文化について学び、「仙台」というまちの成り立ちや歴史について改めて魅力を再発見し、地域への愛着と学びへの意欲につながった。	11月10日	1	31
寺岡小学校社会学級共催事業企画会議	寺岡小学校社会学級生と講座を企画・実施することで、地域のニーズを引き出すことに繋がった。社会学級生が企画員として講座企画に携わることで、人材育成の場となり、市民センターと交流する機会となった。	5月26日 6月15日 9月29日 11月10日	4	7

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

大学生と町内会の連携支援

当市民センター近隣に所在する大学の学生サークルから、「地域づくりに貢献したい」「地域の人は将来のビジョンをどう考えているのか？」と電話で相談があった。来館していただき詳しく話を伺ったところ、県外出身者が多く地域の事情をほとんど知らない段階であることが分かった。

このため、「まず人と地域を知ることから始めたほうが良い」旨をアドバイスし、町内会長を紹介した。その結果、学生の「地域に貢献したい」という思いと、町内会の「高齢化で停滞気味だった町内活動に若い力を取り入れたい」という思惑が一致し、新しい人の輪と町内活動への連携が生まれた。

連携した取り組みの事例として、地域に新しく創設された集会施設へのネーミングや、3年ぶりの開催となった町内会夏祭りの企画運営に主要メンバーとして参画し、若者の視点で新しいスタイルを取り入れるなど、地域にとって新鮮かつ大きな力となった。

長命ヶ丘市民センター

〔沿革〕

長命ヶ丘市民センターは、平成 5 年 4 月に泉区 10 番目の市民センターとして開館した。その周囲は昭和 50 年代初めに造成された長命ヶ丘団地で形成されている。利用者の約 6 割が長命ヶ丘地区、約 2 割が近隣地区、残り 1 割が他地区の利用者となっており、地域に密着した市民センターといえる。地域利用団体の 34 サークルをはじめ、月に約 50 以上のサークルが活動している。

当市民センターは、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の支持を得ながら、サークル活動はもとより、地域の生涯学習活動の拠点として定着しており、その役割と機能を大いに発揮している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業 ◎地域力創造支援事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	長命ヶ丘コンサート		
参加者	地域の方どなたでも	延参加者	57 人
開催日	全 2 回 令和 3 年 11 月 3 日(水)・祝日		
協力者・協力団体	長命ヶ丘児童センター・長命ヶ丘子育て支援クラブ		
ねらい	長命ヶ丘地域は高齢化が進む中、遠方でのコンサートへ出向くのが困難になってきている方が増えている。そこで、市民センターを会場にコンサートを開催することで、高齢者や幅広い世代が気軽に音楽を楽しみ、音楽を通して交流が深められる場を提供する。		
概要・成果	新型コロナウイルス感染症のまん延する中、児童センターもコンサートを自館でできなくなったとの情報と、泉館山高校の吹奏楽部が、発表の場がなくなっているとの情報から、児童センターと共催で吹奏楽部による演奏会を実施した。演奏時間を短くし、申込制の 2 回総入替にするなど感染防止に十分配慮して開催した。児童センターと共催することで、小学生やその保護者も来るなど、幅広い年代に演奏を聞いてもらうことができた。コロナ禍において暗い世情の中、地元の高校生の元気な生の演奏を聞いて、元気をもらえたという感想が多かった。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
長命ヶ丘保育所・児童センター・市民センター 3 館共催「子育て講座」	子育て支援機関である長命ヶ丘保育所・児童センターとの共催で、親子で参加できる軽運動（親子サッカー）や手作りおもちゃで遊びのひろばを実施した。音楽あそびは感染予防のため中止とした。	6 月 24 日 11 月 10 日	2	57
フレンドスクール	学校や家庭では経験できない様々な機会を提供するため、1 回目はジュニアリーダー協力のもと、小学生がバルーンアートに挑戦した。2、3 回目は小学生親子での体験会（長命太鼓・バレトン）、4 回目は移動天文台～秋の天体観望会を開催した。	7 月 10 日 8 月 7 日 10 月 16 日 10 月 22 日	4	68
インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、子ども会のリーダーとして活躍する児童及び世話人を対象に、子供会についての知識や学年や年齢に関係なく遊ぶことのできるゲーム等を学んだ。	12 月 19 日	1	53
長命大学	8 回開催が緊急事態宣言発出のため 5 回の開催となった。1 回目は発掘調査から分かった仙台の歴史、2 回目は軽体操、3 回目は「賀茂神社」について、4 回目はフレイル予防の食事、5 回目は漫才コンビの「まつトミ」のお楽しみ会を実施した。	6 月 17 日 ～12 月 2 日	5	219

長命短期大学	新型コロナウイルスの感染対策として 3 密を避けるため、例年より長命大学の定員を減らしたことの代替措置として開催した。東日本大震災から 10 年の講話、介護予防体操、「賀茂神社」について、伊達家の家紋と紋切り、漫才コンビの「まつトミ」のお楽しみ会を実施した。9 月は新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。	6 月 3 日～ 12 月 2 日	5	61
みんなでアップ！健康寿命	地域にあるリハビリテーション専門学校と地域包括支援センターと連携して、介護予防等の専門的な知識と実践的な運動方法を教えてもらい高齢者が元気に暮らすための健康づくりを学んだ。	6 月 16 日～ 12 月 8 日	5	44
ロングライフヒルコミュニティ協議会との企画会	平成 25 年に学びのコミュニティ推進団体となった地域にある複数の団体が連携の上、子供たちの健やかな成長と交流を目的とする事業を企画・検討し、餅つき体験会を実施した。	5 月 15 日 6 月 6 日 11 月 21 日 11 月 25 日	4	112
目指そう！災害に強い長命ケ丘	関係機関や町内会の方々対象に、防災訓練についての話し合い、小学生対象の防災講座「防災エンショー」、防災機材の確認や使い方の講習会、感染対策講習会の準備、感染予防対策を伴う避難所開設講習会を実施した。	6 月 16 日～ 11 月 13 日	5	140
【中止】 長命ケ丘文化活動発表会（長命ケ丘市民センターまつり）	7 月に第 1 回実行委員会を実施したが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、急遽役員会を開きまつりの実施は難しいとの見解で 8 月に中止を決定した。	【中止】 10 月 9 日 10 月 10 日	—	—
長命ケ丘市民センター地域懇談会	市民センターとして取り組むべき課題を把握するとともに、市民センターへの理解を深めてもらうことを目的とし、地域の団体、関係機関、利用サークル、利用者との意見交換や情報交換の場を設けた。	7 月 7 日	1	37
【中止】 市民企画会議を経て企画する事業「地域お宝・劇団愛の鐘、第 1 回公演を観賞しよう」	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3 月へ延期しての開催を予定したが、感染状況を踏まえ、令和 3 年度での実施は中止とした。	【中止】 2 月 5 日	—	—
市民企画会議「長命ケ丘のお宝を発見しよう！」	企画会議の 1 回目は、”お宝”として長命ケ丘団地に関わる行事や催し物の映像を収集しデジタル化することにした。2 回目、3 回目は、収集の状況やデジタル化の進捗状況を確認した。4 回目は企画会議を経て実施する内容や係分担を決めた。5 回目には、令和 4 年度の活動予定を確認した。	7 月 3 日～ 3 月 19 日	5	28

〔令和 3 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

おもちゃドクターボランティア「長命おもちゃ病院『エル』」の活動支援

おもちゃドクターボランティア「長命おもちゃ病院『エル』」は、平成 29 年度に実施した講座「おもちゃドクターボランティアフォローアップ研修」から立ち上がった団体である。

市民センターでは、毎月のセンターだよりやチラシで活動に関する広報をしたり、修理したおもちゃを持ち主に返す際の窓口になったりする形で活動支援を行い、地域の方々にサークルを知ってもらい、活動の幅を広げられるようにサポートしてきた。

令和 3 年度は 11 月から活動場所としている親子室の利用が可能になったため、さっそく「こわれたおもちゃ直します」の看板を揚げ、11 月 13 日（土）から修理受付の活動を再開した。その後、毎月第 2 土曜日 13：30～15：00 市民センター親子室で活動している。また、市民センター以外の活動場所を模索しており、市民センターまつりへの参加も検討している。

松森市民センター

〔沿革〕

松森市民センターは平成 12 年 1 月、鶴が丘中学校区施設として泉かむり訪問看護ステーション（現在は移転）、コミュニティ防災センターと併設し、泉区内 11 番目の市民センターとして開館した。当市民センターは仙台市泉区の北東端に位置し、担当するのは、古くからの松森地区と昭和 40 年代から 50 年代にかけて開発された鶴が丘団地からなる地域である。

施設内は、バリアフリー仕様になっており、広々としたロビーのほか親子室・娯楽室・図書室を有し、市民活動室には印刷機が備えられ地域団体やサークル活動に寄与している。このような特性を生かしながら地域の生涯学習の拠点施設として開かれた親しみのある市民センターを目指している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	複数年事業 ぶら松森		
参加者	成人	延参加者	46 人
開催日	全 10 回 令和 3 年 10 月 23 日(土)～令和 3 年 12 月 16 日(木)		
協力者・協力団体	—		
ねらい	地域内の豊かな「自然資源」「歴史資源」「文化資源」が意外に地域に暮らす人々に知られていない。これらのことについて学びを深めている「人材資源」を活かして、地域の魅力を発見・再発見する。		
概要・成果	1 年目である令和 3 年度は、人材資源を地域講師として活用し、「ボール紙で作る伊達政宗の兜作り」講座を全 10 回実施した。受講生は松森・鶴が丘地域が伊達家のお狩場であったという郷土の歴史や松森城址などの郷土の史跡にも興味・関心を持つようになった。さらに、端午の節句などに、子や孫に兜をプレゼントする際に学んだ知識（兜の各部の名称や郷土の歴史・史跡）を話したり、一緒に史跡や博物館を訪れるきっかけにしたりしてもらうことにより、次世代へと学びを広げる一助となった。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育てサロン「子どもの杜」	児童センターや保育所と子育てに関する課題を共有し地域の子育て支援に繋げることを目的として、未就園児と保護者が一緒に楽しめる「ボンクラーズのお楽しみコンサート」「運動会ごっこ」を実施した。	6 月 15 日 10 月 21 日	2	54
ジュニアちゃれんじ 2021	小学生とその保護者を対象に、学校では学べない体験を通して学びの視野を広げ、健やかな育ちを支える目的で、「親子でわくわく職人体験！昼職人さんになってみよう！」を開催し、講話「ものづくりの魅力講座」と実技「ものづくり体験教室」を実施した。	1 月 22 日	1	18
市民企画会議「こども企画会議」	小学生が自ら企画委員として、話し合い立案することで、学校や子ども会育成会と連携を図りながら、より良い仲間づくり、地域づくりを目指すことを目的とした企画会議を開催した。	6 月 8 日 7 月 9 日 9 月 28 日	3	7
市民企画講座「ゲーム大会」	小学生が企画したゲーム「新聞紙じゃんけん」「一分間じゃんけん」「しっぽ取り」「リバーシ」「ドッジビー」を実施。夏休み中の居場所作りに繋がった。	7 月 29 日	1	28

地域の達人に学んでみよう	地域の「学びたい人」と「教えたい人」をつなぎコロナ禍で途切れがちな住民同士のつながりの機会をつくることを目的として実施した。地域住民を講師として「ネクタイのリサイクル」(1回)「着物でつくるカシュクールジャケット」(5回)を開催した。	11月17日～ 12月22日	6	36
まつもり健康講座	高齢化に対応する地域づくりを目指し、松森地域包括支援センターと共催で、①「体力年齢測定」②「ヨガ」③「シナプソロジー」④「モビバンストレッチ」⑤「フレイル予防健康体操」の全5回を地域の高齢者を対象として実施した。	7月2日～ 3月17日	5	55
地域におじゃまします！in 鹿島	地理的に市民センターへの来館が困難な鹿島地域の高齢者を対象に、出前講座として実施した。地域包括支援センター等と共催・連携し講座を開催することで、地域住民の居場所作りや健康維持、認知症予防を目指し、足つぽ健康体操と「指ヨガ・目ヨガ」を実施した。	6月30日 10月27日 11月17日	3	15
城前大学	地域の高齢者に学習の機会を提供するため、様々な内容で全8回実施した。①コンサート②終活と人生会議③相続・遺言・成年後見④楽しく筋トレ・脳トレ⑤シルバー川柳⑥伊達騒動⑦講談⑧チョコレートの世界へようこそ！	5月22日～ 2月17日	8	334
命をつなぐ防災講座	地域内の小学校において防災・減災講座を実施した。ビデオ鑑賞やスタンプラリー、グループワークを通して知識・理解を深めるとともに、避難方法を考えたり話し合ったりすることで地域での防災への意識を高める機会となった。	6月22日 7月14日	2	92
松森ハートフルタイム	地域の文化向上と交流を目的とし、多くの方々に気軽にご来館いただける講座を実施した。①SDGsの取組にもつながった「本の譲渡会」②「素ばなしを楽しむ」③「クリスマスコンサート」④⑤「オープン粘土で小さな動物を作ってみよう」	11月18日～ 2月19日	5	369
【中止】松森市民センターまつり	舞台発表、展示発表などを行う予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、実行委員会で中止を決定した。	【中止】 10月16日 10月17日	—	—
松森・鶴が丘地域懇談会	第1回は書面開催でアンケート調査を実施し、施設利用についての意見や要望等を確認した。第2回は施設利用案内及び主催講座内容の説明のほか、グループワークを実施したことで、顔の見える化も進み地域のネットワークの強化も図られた。	6月10日 11月17日	2	84

〔令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

図書ボランティアへの支援

松森図書室は、市民センターと図書ボランティアの皆さんとで自館運営している図書室であり、市民センターでは、その定例会と活動全般を支援している。令和3年度の前半は、コロナ禍で図書室が閉室となる期間があったが、その中でも自主的に集まって本の整理や部屋のレイアウト変更などの活動を行っていた。再開後は市民センターが声がけした「おはなし会」でメンバーが講師となり、「本の譲渡会」では、本の配架や整理など積極的に関わり大盛況をおさめ、「本」でつながる関係が広がりをみせている。また、図書ボランティアと言葉を交わすのを楽しみに来館される地域の方も多く、松森地域包括支援センターからも地域の見守り活動として高く評価されている。

ジュニアリーダー「パズル鶴が丘」への支援

これまでは「子ども会」や「児童センター」などの要請に応じてきたが、令和3年度はコロナ禍で行事が中止となり活動ができなかった。その中であっても、松陵市民センターとの合同定例会を開催し、ダンス研修などの情報共有を行うことで、いつ再開しても対応できるよう支援を継続している。

桂市民センター

〔 沿 革 〕

桂地区は仙台市の北西部に位置し、緑に囲まれた住宅と高層マンションで構成される新興住宅団地であるが、開発から30年以上経過し、徐々に高齢化が進みつつある。また、将監地区は昭和40年代に開発された歴史の古い団地で年々高齢化が進んでいる。桂市民センターは、この両地区を受け持っている。

当市民センターは児童センターとの併設館であり、利用者の年齢層は乳幼児から高齢者まで幅広い。平成13年12月の開館以来、これらのさまざまな年齢層の地域住民と地域団体を意識した事業を展開し、生涯学習の拠点を目指して取り組んでいる。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	複数年事業 かつら情報局		
参加者	地域の方どなたでも	延参加者	86 人
開催日	全 8 回 令和 3 年 6 月 19 日(土)～令和 4 年 1 月 15 日(土)		
協力者・協力団体	桂連合町内会、桂小学校 PTA、桂小学校区子ども会育成会、桂地区社会福祉協議会、桂学区民体育振興会、桂と～さんず、桂豊友会、桂小学校学校支援地域本部、桂音頭を踊り隊、まちづくり推進部泉区中央市民センター		
ねらい	桂地区では地域情報の発信や地域活動の停滞等の課題が現れている。課題解決のため、桂連合町内会を始めとする地域諸団体との連携の在り方を検討することで、各諸団体の円滑な支援と地域貢献に関心の高い人材育成につなげ、地域住民同士のつながりの促進と地域コミュニティの活性化を目指す。		
概要・成果	企画会では町内会の ICT 化、市民センターロビーの活用について等、地域諸団体の情報伝達の現状と課題の共有を行った。情報化社会に役立つ情報講座や、地域の情報発信のために作品展示会を企画した。 地域住民の情報力向上を目指し、主に高齢者を対象にした「ゼロから始める LINE 講座」では、地域住民が講師補助として講座運営に関わった。参加者の質問にきめ細かく対応する等、地域住民同士の交流と、地域活動への関心を深める場となり、地域人材の育成を図ることができた。 また、地域情報発信のために企画した「作品展示会」では、地域団体の活動を一定期間市民センターロビーに展示し、来館者が自由に観覧できる内容を計画した。 2 月開催予定だった LINE 講座 2 回目と作品展示会は新型コロナウイルス感染状況を踏まえて中止としたが、作品展示会は令和 4 年度へ延期とした。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
【中止】 桂の森のキッズランド	地域の子育て支援関 4 団体共催で、乳幼児親子向けの童謡コンサートを計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえ検討した結果、参加者と主催者の安心安全を考慮して中止とした。	【中止】 9 月 16 日	—	—
桂ジュニアカレッジ	親子を対象に「えだまめプロジェクト」を開催した。6 月に苗を植え、9 月に収穫と講話を行い、えだまめからずんだにする過程を学んだ。2 月予定の工作講座は新型コロナウイルス感染拡大のため中止。全 3 回が 2 回となった。	6 月 12 日 9 月 18 日	2	36
桂友くらぶ（老壮大学）	50 歳以上を対象に、文学や生活（暮らし）に関する講話やフルートコンサート、健康づくり講話と軽体操、七十七金融資料館見学を実施した。感染予防のため受講生を 2 班に分けて月 2 回開催した。	6 月 10 日～ 1 月 20 日	13	246

防災・減災を学ぼう	2019年丸森町に甚大な被害をもたらした災害で災害対策に関わった地域防災マネージャーから、事例を交え具体的な災害対策について学習した。8月に予定した第2回は新型コロナウイルス感染予防のため、中止とした。	7月17日	1	26
桂ロビーコンサート	地域住民が身近な場所で気軽に音楽を楽しみ交流できる場として、公募サークルによる演奏会を2回開催した。予定していた第3回は市内の新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、共催団体と協議し、来年度に延期を決定した。	11月13日 12月18日	2	69
【中止】桂文化祭	新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を踏まえ、来場者・関係者の安全性等を考慮し、実行委員会企画会で協議のうえ中止とした。	【中止】 10月16日	—	—
桂地域懇談会	懇談会を通して各団体の活動情報や地域課題、住民の状況、地域資源等について意見交換を行い、得られた情報を活用して各団体の連携を深め、市民センターの業務改善に努めた。	6月26日 2月19日	2	22
桂小学校区社会学級連携事業らくらく元気！操体法で活力UP！～気持ちよく体を整えよう！～	簡単な動作で、気持ちよく身体の歪みを改善し、免疫力を高めて健康維持につなげるための「操体法」の講話と実技を体験した。	11月12日	1	15
【中止】市民企画会講座わになって踊ろう～桂音頭で健康体操～	市民企画会で桂音頭の普及のために講話と実技の講座を企画した。感染対策を含めて準備を進めていたが、市内の新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、企画員と協議を行った上で中止を決定した。	【中止】 3月5日	—	—
桂小学校区社会学級連携事業企画会	企画会にて地域の情報交換を行い、コロナ禍に対応した講座として、地域住民の健康維持を目指し、無理なく簡単に日常生活の中で続けられる運動法の講座を企画した。	6月29日 7月20日 9月14日 11月12日	4	17
市民企画会	地域資源である桂音頭を幅広い年代の地域住民が踊り親しむことができるよう、普及方法について市民企画員と会議を行った。感染対策のため、反省会是对面ではなく書面で行った。	6月19日～ 2月26日	8	49

【令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「桂地区公園愛護協力会連絡会」の活動支援

「桂地区公園愛護協力会連絡会」は、地域で個々に活動している8つの環境保全ボランティア団体で構成され、それぞれ定期的に公園整備活動を行っている。メンバーの高齢化や人員不足に対応するため、市民センターでは広報支援や相談窓口の支援等を行った。地域の小学校から校庭の除草依頼があり、市民センターが連絡会と連絡調整を行ったところ、新規メンバー加入にもつながるなど、活動の支援をすることが出来た。

南中山市民センター

〔沿革〕

南中山市民センターは、平成 15 年 3 月をもって閉館した「泉中高年齢労働者福祉センター（サンライフ泉）」の建物に改修を行い、平成 15 年 11 月 13 日に開館した。敷地内にはコミュニティ防災センターを併設している。

当市民センターのエリアは、南中山、北中山、西中山の 3 地域であり 2 連合町内会、16 町内会がある。地域の活動拠点として、地域団体やサークルなどに広く活用されている。令和 3 年 11 月から大規模修繕を実施している（令和 4 年 11 月頃までの予定）。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	まなびねっと「いずみ中山」交流事業		
参加者	南中山・北中山小学校の児童と保護者	延参加者	58 人
開催日	全 2 回 令和 3 年 7 月 31 日（土）、令和 3 年 12 月 25 日（土）		
協力者・協力団体	南中山小学校おやじの会、南中山小学校区体育振興会、南中山地区社会福祉協議会、北中山小学校おやじの会、北中山小学校区体育振興会		
ねらい	いずみ中山地域の親子を対象に、地域団体と連携し、自然体験や伝統文化に触れる機会を提供することで、子どもたちの感性を磨き、創造力を養う。また、地域の人々が交流事業に共に取り組むことで人と人とのつながりを深め、子どもたちの健全育成の一助とする。		
概要・成果	まなびねっと「いずみ中山」推進委員会において、小学生やその保護者を対象に体験学習を基にした交流事業を企画した。 7 月は子どもたちが安全に川遊びなどの自然体験できるよう、大人が学ぶ「子どものための川遊び講座」が開催された。子どもを対象とした川遊び講座は、新型コロナウイルス感染症の拡大により開催できなかったが、感染症対策についても学び、次年度以降の活動に繋げることができた。 12 月は伝統行事を学ぶため「門松作り」を行った。市民センターが大規模修繕工事による休館のため、北中山小学校を借りての開催となった。門松の材料となる竹や松、南天などの縁起物や土台の缶は、すべて地域の方や団体から提供いただいたものを使用した。竹切りやこもを巻き縄を結ぶという難しい作業ではあったが、普段のこぎりなど使う機会があまりない中、親子で協力してものづくりを行う貴重で楽しい時間とすることができた。 2 月開催予定であった泉ヶ岳の雪山体験は、新型コロナウイルス感染症拡大により急遽中止となったが、地域の団体と連携・共催することにより、地域全体で子育てをするという意識が高まっている。さらに、親子で参加する事業のため、子どもたちの交流や成長を促すだけでなく、地域での交流や、家庭の中でのコミュニケーションを深める一助にもなった。		

〔令和 3 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おやこほっとタイム	南中山・北中山児童センターと共催で親子向けの講座を企画した。感染対策を含めた準備を進め、広報まで行っていたが、市内の新型コロナウイルス感染状況を考慮し、協議の結果中止とした。	【中止】 10 月 1 日 10 月 29 日	—	—
こどもワンダークラブ	地域の児童を対象に、交流と体験学習を目的としたフォトスタンド作りを開催した。工作体験、ジュニアリーダーと遊ぶも開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症が拡大したため中止とした。	10 月 9 日	1	19

ほがらかシニア塾	地域の高齢者を対象に、コミュニケーション講話、シルバー川柳、歴史講話、コンサートを開催した。新型コロナウイルス感染拡大と大規模修繕工事による休館のため、全4回の開催となった。	6月18日 7月16日 8月20日 10月22日	4	131
市民企画講座 いずみ中山体験ひろば	市民企画会議で交流を目的とした健康麻雀とスポーツ吹き矢を企画した。講師も決定し広報を行ったが、新型コロナウイルス感染が拡大したため、企画員と協議を行い急遽中止とした。	【中止】 9月30日 10月7日	—	—
まなびねっと「いずみ中山」推進委員会	南中山・北中山おやじの会など地域の諸団体と推進委員会を開催し、情報交換を行いながら交流事業を企画した。	4月24日～ 3月26日	5	28
地域防災講座	南中山・北中山連合町内会と連携し、地域住民を対象とした「家庭での火災予防」をテーマに講座を実施した。	8月21日	1	17
地域いきいき「いずみ中山ふれあいプロジェクト」	地域の方の交流と健康維持を目的に、マップ作りに向けた会議やウォーキングを実施した。	4月13日～ 3月16日	9	73
いずみ中山フェスタ	実施に向け実行委員会を開催していたが、新型コロナウイルス感染拡大により連合町内会等と開催の是非について協議した。不特定多数の来場者があることから安全性等を考慮し、中止とした。	【中止】 10月15日 10月16日	—	—
地域懇談会	連合町内会長、地区社協会長の参加により、市民センター事業等について意見交換や情報交換を行った。2回目を10月に開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大により中止とした。	5月29日	1	5
いずみ中山市民企画会議	地域の現状を把握し、地域の方が興味を持って参加できる講座を企画した。	6月25日 7月2日 7月9日 7月16日	4	12

【令和3年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

ジュニアリーダーサークル「南中山巣子っぷ」への活動支援

ジュニアリーダーサークル「南中山巣子っぷ」に所属する中学生から高校生の13名のメンバーが地域の子ども会や町内会の行事で様々なボランティア活動を行っている。当市民センターでは月に1回行われる定例会の準備や、地域団体からの活動要請の連絡や参加者の調整、事務手続き、ジュニアリーダー向けの研修の案内など、サークル活動の取りまとめ役を担い、活動の支援を行っている。

また、市民センターは、子ども会や地域のまつりなどで行うゲームの進め方やバルーンアートなどの製作の練習にも使われており、サークルの話し合いや情報交換の場となっている。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大や大規模修繕工事による休館のため、定例会などの活動が制限された。また子ども会や地域のまつりなども中止となったため要請を受けた活動ができなかった。そのような中でも、市民センターでは、今後の活動を想定した「ゲーム研修—実践編」やジュニアリーダー同士の交流を深めるよう支援を行い、ジュニアリーダーの自己研鑽を後押しした。

